

自己評価書

四日市市立 中部西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	◎確かな学力の定着 ○基礎的な・基本的な知識・技能の定着 ○論理的思考力向上を意識した授業 ○言語活動の充実 ○読書環境及び読書活動の充実 ○汎用的な資質・能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 確かな学力の定着、基礎的な・基本的な知識・技能の定着、汎用的な資質・能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとに付けたい力を明確にし、課題解決的な学習や探究的な活動に取り組んだ。また、タブレットを日常的に使い、プレゼンや調べ学習などに活用してきた。外国語活動では、海外の方とも意思疎通しようとする資質の育成に取り組んでおり、汎用的な資質・能力の育成に取り組んできた。 「目と耳と心で聴こう」を合言葉に友だちの意見を聞き合い、学びを深めた。 <p>(2) 論理的思考力向上を意識した授業、言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の扱い方や、三角ロジックなど子どもたちに論理的思考力を身につけさせるため、それぞれの授業の観点に合わせ、系統的に指導した。児童は、理由や根拠など意識して発言することができた。しかしすべての児童への定着はできておらず、子に応じた取り組みが必要である。音読劇やリーフレット作り、新聞づくり、クイズ作りなど子どもたちが学習でつけた力を活用できるような言語活動に取り組んできた。 <p>(3) 読書環境及び読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書や地域ボランティアによる読み聞かせや、なの花文庫や司書による新しい本の紹介など児童が本に触れる機会を増やしてきた。また年2回の図書館まつりや昼読の時間の確保など子どもたちが主体的に読書をしようとする環境づくりをしてきた。児童アンケートでは83%の児童が読書が好きであると回答している。しかし、保護者アンケートでは「お子さんは読書が好きである。」の質問に対しての「はい」と回答した保護者は、60%にとどまっており、家庭での読書習慣の定着には至っていないので、今後家庭への啓発等、読書活動の充実について考えていきたい。 	
重点目標2	◎こころとからだを育てる ○人権教育の推進 ○道徳的实践力を培う ○生活習慣の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>◎こころとからだを育てる「児童集会」「教育相談」「Q-U調査」「職員間の情報共有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異学年交流を通して、互いのよさを感じ合うことができた。 ・ 個々の実態把握に務めるとともに、隔週で全職員による全児童の情報を共有したり、登校サポート委員会では今後の対応についても議論したりして、指導に生かすことができた。 ⇒91%の児童が「自分を大切だと思う」と考えているが、残りの9%の児童の自尊心を高めていく必要がある。 <p>○人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の教科書だけでなく、学級や学年の実態に合わせた教材を作成し、身近な人権課題について児童に考えさせることができた。 ⇒児童アンケート「いじめや差別はいけないと思う」では、96.7%が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答。 <p>○道徳的实践力を培う「代表委員によるいじめ防止劇」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇について考えることで、児童は相手に気持ちを伝えるにはどうすればよいかや、ジェンダーに関わる問題について自分はどうのよう行動すればよいかを学ぶことができた。 <p>○生活習慣の向上 「きらきらあいさつ」「きらきら金曜日」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつや校内美化を促すことができた。 ⇒約15%の児童が「気持ちのよいあいさつができていない」と感じているため、きらきらあいさつの取組等を検討をする。 	

重点目標 3	◎よりよい未来社会を創造する力の育成 ○安全指導の充実 ○防災教育の充実 ○キャリア教育の充実 ○生涯を通じて健康に生きるための体力向上 ○食育・保健指導の推進	3
主な方策 成果と課題	○安全指導の充実「地区児童会」「登校指導」「ふれあいパトロール」「日常指導」 ・児童の登下校の様子から現状を把握し、地区児童会で交通安全について話し合うことができた。 ・教師間で児童の学校での過ごし方について情報共有し、日常の指導に生かすことができた。昨年度よりもケガの数が減っている。 ⇒首から上のケガが多かったので、安全指導を続けていく。 ○防災教育の充実「避難訓練」「緊急引き渡し訓練」「地域と連携した防災学習」 ・学期に1回避難訓練を行うことで防災の意識を高めることができた。 ○生涯を通じて健康に生きるための体力向上「授業実践」「体力強化月間」「水泳」「運動会」「5分間記録走」「なわとび週間」 ・活動量を確保した授業作りを行い、十分に運動することができた。 ・体育的行事を通して、運動に親しみ、体力向上に努めることができた。 ⇒体力テストの結果から、握力、投の運動については男女共に全国、県に比べて記録が低かったため、主運動につながる5分間運動を意識していきたい。 ○食育・保健指導の推進「食育の授業」「保健指導」 ・全学年学期に1回、食育の授業を実施し、食に対する知識を深めることができた。 ・保健指導を全学年実施し、自身の体の事等を考える機会になった。 ⇒学校評価アンケートからも朝食を残さず食べていない児童が18%いるので引き続き、食育の推進を行うとともに、保護者への啓発を図りたい。	

重点目標 4	◎全ての子どもたちの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	○授業改善 ・基礎基本の定着や論理的思考力の育成をはかり、問題解決能力を向上させる授業づくりを行う。 ・ペア学習やグループ学習等、学ぶ場を工夫して協同学習をはかる。 ・TTや少人数教育を活用し、個に応じた必要な支援を行うとともに、必要に応じて応用問題に取り組ませる等、個別最適な学習をはかる。 ⇒児童アンケートで約90%（前年度比+1%）の児童が「わかる」と答えた。また、（1月児童アンケートからの成果より書く【考える学習が好き・自分の考えを表現することが好き】【自分の意見と比べながら友達の意見を聞いている】【楽しく勉強できている】）。残り10%の児童も「わかる」「できた」達成感を味わえるよう、視覚支援や学習の手立ても工夫した授業改善に、学校全体で取り組む。 ⇒学習用語を使って説明しようとする児童が増え、学び合う姿が見られた。語彙が少なく、自分の考えを十分に説明できない児童もいるため、語彙を充実させる取り組み（読書環境の整備、読書時間の確保、言語活動の充実）に全校で取り組む。 ⇒授業でつけた基礎・基本の力を様々な場面で活用したり応用したりするところに課題がある。活用力や応用力をつけるために、日常的に、また教科横断的に既習事項を踏まえて思考させる活動をより意識して仕組んでいく。 ○学習の意欲付け ⇒学ぶ対象（地域）や学び合う友だちのことを「もっと知りたい」と思うことが学習の大きな意欲付けになった。今後も、児童の学習意欲を高めながら学習活動に取り組み、めざす力をつけていく。	

重点目標 5	◎地域を知り、感謝の心を持ち、未来への夢や目標をもつ取り組み ○学校参画委員会（コミュニティースクール）の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校参画委員会（拡大委員会） 参画委員（拡大委員会）はコロナウイルス感染が5類になり出席が増え、ICTの活用状況や通学路の状況などをより多くの委員に伝えることができた。今後は、熟議できるテーマを設定し、教職員と参画委員がより深く語り合いかわりあえる内容を考えていきたい。</p> <p>○参加参画型授業 4年ぶり10回目になる「まちかど音楽会」では、PTAや地域の人との協力のもと準備を進め、児童がたくさんの人に支えられていることを知る良い機会となり、地域の一員としての意識を強くもつことができた。また、春・秋の学校公開は、参加・参画型授業に取り組み、地域の人とかかわりを一層深める機会となった。</p> <p>○ふれあいパトロール 地域の方に見守っていただくことにより、安心して下校することができた。</p> <p>○学校支援員（ボランティア・学習アシスタント） 家庭科や書写での学習を通じて、より充実した教育活動を進めることができた。また、読み聞かせ、クラブ・委員会活動にボランティアに入ってもらうことで、地域の方から学び、生き生きと取り組む児童の姿が見られた。</p>	

2 改善方針

【重点4に関わって】

- ・教科横断的に、また日常的に、既習事項を踏まえて思考させることを教師側がより意識して仕組んでいく。
- ・教室の読書環境を整え、児童らが様々な本に出会えるようにするとともに、読み聞かせや昼読等の読書時間を確保する。また、国語教科書巻末教材「言葉の広場」を活用しながら言語活動を充実させ、語彙の充実をはかる。授業の中で互いに説明し合う活動を継続的にもつことで、実際に使えるようにする。
- ・互いに興味をもち説明しあったり聞きあったりしながら学習することを通して、互いの（自分と関わりのある人物や地域も含む）関係を深める。

【重点5に関わって】

- ・4年ぶりに制限のない教育活動を行うことができるようになったことから、学校参画委員会を書くとした教育活動を含めた、全教育活動において、R5年度の反省をもとに、児童の実態や現状に即した教育活動を再構築したい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 浜田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	考える子	4
主な方策 成果と課題	<p>確かな学力の定着について、6年生学調、4・5年生みえスタ、3年生NRTの全てにおいて全国や県平均を上回る結果を得ている。子どもたちの「学ぶことが楽しい」「授業中、自分で考えたり、聴き合ったりして学んでいる」のアンケート項目も肯定的回答が90%を超えており、意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。一方で、学力の二極化は未だ解消できていない。学習での「わからなさ」を聴き合える環境を今後も授業の中で取り入れ、個別の支援体制、授業と家庭学習の連携をさらに強化し、一人一人の学力向上に努める必要がある。今年度から、全校で「暗唱」や「SST（アドジャン）」に取り組み、記憶力・語彙力やコミュニケーション能力を高める活動を行っている。楽しみながら、継続的に取り組むことで引き続き、子どもたちの能力伸長を図る。</p> <p>タブレットや図書についてのアンケート項目では、保護者・子どもともに90%を超える肯定的回答結果だった。タブレットは文房具の一つとして、授業での活用を進めた。毎日持ち帰ることにより、家庭でのタブレット管理に苦慮していることがアンケートの記述回答からわかった。今年度は「デジタルシティズンシップ教育」の授業を全校で取り組み、子どもたちが学んだことを家庭に持ち帰ることにより、家庭でも使い方について振り返る機会を設けた。今後、引き続きタブレットの使い方を学校から発信し、家庭と連携して活用を進めていく。また、読書活動推進校として、図書の整理・入れ替えを進めた。また、子どもたちによる選書の取り組みや本に親しむ活動を定期的に行うことで、子どもたちが本に触れる環境づくりを今後も続けていく。</p>	
重点目標2	やさしい子	4
主な方策 成果と課題	<p>「いじめや差別は絶対いけない」という質問項目に対しほぼ100%の児童が肯定的回答をしており、児童の意識は高い。しかし学校・クラスでの自分や仲間の居場所に悩み、不登校や保健室登校となっている児童も増えている。本校での研修体制では学年での実践の積み重ねがあるものの、学校としての系統立てが不十分なところがあるので、日々の積み重ねが居場所づくりに影響することを再認識しなければならない。今年度はいじめ防止に対するキャンペーンに児童の委員会が中心となって行い、全校で取り組んだ。教職員・児童が互いを認め、守るという意識を発信することで、すべての児童が安心できる環境づくりを続けていく。</p> <p>子ども一人一人の教育的ニーズを、毎日の観察やSCによるアセスメントなどにより把握し、個別の指導計画・教育支援計画を作成して、必要な支援や配慮につなげることができた。また、毎月の特別支援検討委員会では、児童の情報共有だけではなく、教室で行っているさまざまな配慮の実例を写真で交流し合い、日々の支援に活かすことができた。さらに、夏季研修会で杉本アドバイザーによる特別支援教育に関する研修会を行ったことは、教職員一人一人のスキルの向上に資するものとなった。全ての教職員の特別支援教育にかかる専門性や指導力をより向上させるため、ミニ研等に外部講師を招聘することも検討していきたい。</p>	
重点目標3	つよい子	3
主な方策 成果と課題	<p>「生活習慣は身につけていますか」という質問項目に対しての肯定的な回答は、保護者が81.7%で子どもが84.6%となっている。肯定的な回答が8割を超えていることから、基本的な生活習慣について概ね身につけていると考えられる。しかし、残りの20%ほどは否定的な回答である。児童の日常生活を見てみると、睡眠不足であくびをする、集中できない、姿勢の保持が難しく、足を組んだり椅子に深くもたれかかる、また、あいさつが少ないといった課題が見られる。休み時間には外へ遊びに行く児童も多いが、けがが多く、運動能力の低下も課題のように感じられる。</p> <p>「進んで運動に親しんでいますか」という項目については、保護者が78.7%で子どもが84.4%であった。この項目についても肯定的な回答がおおよそ80%を超えていることから、おおよそ運動好きの子どもが育っていると考えられる。授業に5分間運動を取り入れたりと、各学期ごとに体育的行事を設定したりすることで、年間を通して「運動のおもしろさ」を味わう機会を今後も設けていく。あわせて、地域や保護者に対して、体育の授業や生活習慣についてなど学習を積んでいる姿を発信していく。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>子どもたちが問題意識や課題意識を持ちながら、各教科の見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付けることができるように、「問題解決能力向上のための5つのプロセス〈四日市モデル〉」等を活用し、各学校・学年・教科等で連携しながら指導することで、子どもが45分間学び続ける授業を目指すことができた。また、全国学力・学習状況調査等の自校の分析結果を活用して、今後求められる資質・能力を把握するとともに、指導体制・指導方法について共通理解を図ることができた。また、子どもの学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子どもが自らの学習を振り返って、次の学習に向かえる適切な学習評価を行うことで、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりにも取り組むことができた。</p> <p>年度が始まる前に生徒指導の方針を具体的に提示したことで、どのクラスも一貫した指導をすることができ、教職員アンケートでも肯定的な評価を得られた。引き続き、子どもたちが安心して落ち着いて学習ができるように、チーム学校として生徒指導に当たっていく。</p> <p>今年度、より専門的な対応が必要になるケースがあった。的確かつ迅速に関係機関とつながることができたので、より幅広い視点で支援を進めることができた。しかし、アンケート結果から専門職と連携をして課題解決を図ることができたというところには、否定的な回答もあったので、全職員がそれぞれの関係機関とどのようにつながるとよいかについて事例と共に周知をしていきたい。教職員が知っていることで、保護者の相談内容にも的確に応えることができ、保護者が学校に対して気軽に困ったことや心配などを話すことができると考える。</p> <p>児童生徒が安心して過ごせる環境を整備するについては、今年度も児童の情報共有の時間を毎週末確保したことで、全職員で共通理解したうえで見守ることができた。今後も児童の情報共有し、全職員で迅速に対応をしていく。</p>	

重点目標 5	家庭や地域と協働する学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>コロナ禍が明け、学校からは家庭訪問・学級懇談会の実施・制限なしの授業公開等を行い、保護者・地域関係者への教育活動への理解や公開の機会が増えた。アンケートでも95%の肯定的回答を得ている。地域の教育力の活用としては、各学年で地域の人を活用した授業を年1回以上行ったり、学校支援ボランティアを活用した外国語活動、読み聞かせ、クラブ活動等を行ってきた。CSの委員の方には地域の人との連携調整役や学校教育活動への支援役を果たしてもらった。児童アンケートの「地域の人たちや地域にあるものから学んでいますか」の項目では80%が肯定的回答をしている。また、保護者や地域の方の学校教育への参画を進める取り組みも行った。保護者アンケートの「学校は、保護者や地域の方々のボランティア活動を計画的に取り入れていると思いますか」の項目では、80%の肯定的回答がある一方、否定的回答も10%台になっており、保護者の学校教育への関心が二極化している。</p>	

2 改善方針

<p>【重点目標1】 本校で力を入れてきたICTの学校・家庭での効果的な活用、読書活動の充実について、児童・教職員に実感・成果が出てきている。取り組みを保護者に理解してもらえよう、ルール確認や活動の発信を続ける。</p> <p>【重点目標2】 校内研修・学びの一体化等を通し、児童に関わるすべての大人の意識向上を目指す。道徳・人権教育、特別支援教育の計画・進捗・振り返りを充実させ、児童がどう学んだかを交流・検証するとともに、外部講師等の招聘による教職員研修、児童への出前授業の機会をつくり、専門的な視点から学び、自らを振り返る実践を増やす。</p> <p>【重点目標3】 体力づくりでは、児童が自分たちでできる遊び・運動について授業の中で学び、「またしたい。」と日常で実践できる取り組みを行うことで、運動機会を増やす。また、クラス・学年を超えたレク活動を委員会等で設定し、児童の運動意欲向上を目指す。生活習慣においては、保護者の協力も不可欠であり、保健だよりや授業、学校保健委員会等での啓発・発信、シャボテンを生かした「こころの健康」を把握することにも重点をおいていく。</p> <p>【重点目標4】 今年度全体研修会の中で授業づくり、ICT活用、評価について全職員で学び、各学年で段階に応じた指導について共通理解をしていくことができた。次年度も継続し、学年での取り組みが全学年での取り組みにつながることを共通理解していく。また、生徒指導においても密に情報共有を行うことで、児童理解だけでなく、教職員同士のサポート体制にも効果が出ており、担任だけで行わない指導につながった。生徒指導上の問題の原因は複雑化しており、学校だけの解決が難しいことも多い。次年度も学校・家庭・地域と多くの目で児童を見守り、一貫した指導で学級経営・学年経営を行っていく。</p> <p>【重点目標5】 引き続き開かれた学校づくりを行う。保護者の中で、学校の取り組みに対し、「どうしてそうなっているのか。」の理解が十分に得られていないものがあることが分かってきており、今後改めて学校での教育活動の意義、児童の様子等を発信し続ける必要がある。また、コロナ前の学習活動を再確認し、地域の人材・教材活用について計画を立て直し、学習機会を増やしていく。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着 ～思考力・判断力・表現力をバランスよく育成し、問題解決能力、情報活用能力等を育みます～	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・学習内容を工夫し、どの教科においてもタブレットを活用した表現力の向上に努めると同時に、自分の考えを「話す」「書く」、相手の意見を「しっかり聴く」ことを意識した授業づくりを行った。</p> <p>・ICT機器の活用系統表を作成し、学年ごとにタブレット活用のスキルを整理し、系統立てて指導にあたることができた。また、教職員間でICT活用に関しての授業内での取り組みを積極的に交流し合い、効果的なICT活用に関して実践を重ねることができた。</p> <p>・全校で自主学習グランプリを開催し、自主学習に取り組む意欲を高めたり、お互いの自主学習を見合って感想を伝え合ったりできる環境づくりを行った。</p> <p>・学校内の掲示板や階段等、子どもたちが普段よく見る場所に思考力を高めるような掲示を月ごとに変えて行った。このことが、学習意欲を高めることにつながっている。</p> <p>・外国語活動ではインプットだけでなく、ポスターやプレゼンテーション等でアウトプットする活動を取り入れることで、一人ひとりが学習したことを表現できる場を設定した。また、成果物を掲示することで他の学年が5・6年生になった際の見通しを持つことができた。</p> <p>・ペアやグループでの交流は活発に行えるようになったが、相手の意見を聴くだけでなく、考えを深める取組の必要性を感じる。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成 ～自分のこころとからだの健康や安全を意識し、行動できる子どもを育みます～	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・図書館祭りや中庭図書館の環境整備など児童の意欲を高める取り組みを中心に、読書活動に全校で取り組むことができた。</p> <p>・学習規律や生活規律の定着に向けて、毎月の目標達成への手立てを各学年で話し合い、月末には振り返りを行った。掲示物の工夫をし、あいさつや廊下歩行、トイレのスリッパをきれいに並べるなど、委員会でもそれぞれで取り組みを行い、学校のルールを守ろうとする児童の意識を高めることができた。</p> <p>・全校で業間かけ足や業間なわとび、家庭と連携した外遊び調べに取り組み、体力向上につなげることができた。</p> <p>・オアシスという学校目標を児童会で何度も提案、声かけすることで、子どもたちの普段の生活の中での意識づけにつながった。</p> <p>・新体力テストのに向けて、休み時間に練習する時間をとることができた。実施前に、コツややり方を学ぶことができ、見通しを持って取り組むことができた。</p> <p>・食育の授業を栄養教諭と連携して、学期に一回以上継続して取り組むことができた。</p> <p>・歯磨き指導を継続的に行うことができなかつたため、来年度は実施していきたい。</p>	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成 ～自分を見つめ、塩浜地区の未来を担う子どもを育みます～	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・キッズ農園や図書館ボランティア、防災授業、塩浜てくてく、御園町ししまい、塩浜音頭愛好会、町探検など、地域や保護者の方の協力のもと、児童が多様な体験活動を行うことができた。塩浜地区の良さを見直し、再確認できた。</p> <p>・児童会を中心に集会の中で異学年の子と交流ができるような活動を企画し実践したり、月に1回以上縦割り班活動の時間を取ったりする等、児童同士の関わりの時間を積極的にとることができた。また、遠足や運動会等できょうだい学年を軸とした異学年での活動を行うことで、高学年のリーダー性を育むことができた。</p> <p>・地震や津波を意識して、中学校まで全校で逃げるという避難訓練を行い、「自分の命は自分で守る」「どの道を通ればより安全なのか」など、児童が危機意識を持って各訓練に取り組むことができた。</p> <p>・キャリア教育の一環として、様々な職業についている方から話を聞かせてもらい、自分の将来について児童が向き合う機会をつくることができた。（住職・建設業・市民センター職員・コンビナート企業・窯業者等）</p>	

重点目標 4	すべての子どもの成長をサポートする教育の実現～一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた適切な指導・支援を行います～	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の少人数教育、教科担任制、ティームティーチング（T.T）の活用により、効果的な学習指導の推進を図った。子どもが自分に合ったコースで学習することができた。単元によって、担当教諭が変わることで、子どもたちの習熟度も把握することができた。 ・SSW・SC、小中と連携することで、家庭との連携はもちろん、子どもの細かい変化や実態を把握し、児童理解につなげることができた。家庭への支援に対して、より具体的にアドバイスをもらい、指導につなげることができた。 ・職員間で常に情報交換を行い、児童の様子について多面的に把握できるよう心がけた。課題解決のため、職員が迅速に動ける体制づくりに努めた。 ・登校サポート委員会を定期的に開催し、全職員で情報共有し、一貫して指導することができた。 ・特別支援教育担当教員を中心に、教職員間で連携を図り、課題を共有して取り組みを進めることができた。 ・Q-U調査の結果を校内研修会で考察することで、児童理解やそれぞれの子どもたちへの接し方、日々の指導についての手立てなどを考え、教育の実践に生かすことができた。 ・支援の必要な児童に対して、発達検査を実施し、一人ひとりに合った支援を考えて、対応を行った。個々の課題や特性に応じて、関係機関と連携した対応を充実させていきたい。 	

重点目標 5	学校教育力の向上 ～子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、学校経営の充実を図ります～	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路を見守ってくださっている地域の方々と連携し、登下校の歩き方や自転車の乗り方等について繰り返し指導を行った。学校だけでなく、地域の方とも連携し合いながら児童の交通安全に対する意識を高めることができた。 ・天候等心配される時は、登下校の児童の見守りや通学路の安全確認を必要に応じて行った。 ・中学校への避難訓練の際、地区の防災アドバイザーさんにも来ていただき、話をさせていただいたことで、地域と一緒に防災について考えるよききっかけとなった。また、教職員で避難訓練のフィードバック研修を行い、危機管理に対する意識を高めることができた。 ・HP更新や学校だよりの発行にて、児童の様子や学校の取り組みを地域や保護者の方に伝えられるよう、継続して発信を行ってきた。 ・学びの一体化の取り組み（来入児と1年生の交流会・人権フォーラム・塩浜中文化祭での合唱発表・英語スピーチや国語スピーチ鑑賞）を行うことができた。異校種間での児童・生徒理解につなげ、指導の手立てを考える上で参考にした。また、英語スピーチや国語スピーチを実際に聞くことで、子どもたちのより身近なモデルとなり、数年後の目標につなげることができた。 ・サポートルームを開設し、支援が必要な子どものアプローチの仕方を全職員で考えることができた。 ・行事と授業の兼ね合いも見つつ、スムーズな学校運営ができるようにしていきたい。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・職員で学校の課題について現状を周知し、支援体制を組む等、職員間で迅速に動ける体制づくりを継続していく。 ・お互いの授業を参観し合い、同僚性を発揮して授業づくりについて積極的に学ぶ体制づくりを進める。 ・子どもたちにどのような資質・能力を育むべきを職員が共通理解し、どこに重点を置いて取り組むべきかについて常に意識できるよう、カリキュラム・マネジメントの研修を行うとともに、行事や会議なども精選し、教職員にも時間の余裕がうまれるよう取り組みを進めていく。 ・特別支援教育担当教員を中心に、今後も教職員間で連携を図り、課題を共有していくことで、より一人ひとりの子どもに合った指導につなげていく。 ・家庭学習について家庭訪問等で「家庭学習の手引き」を活用し、保護者と共通理解を図り、指導を進めていく。 ・児童の運動能力を高めるため、年間計画に基づき、系統立てた体育活動の推進を行う。 ・中学校との連携をより効果的に図っていくため、子どもにどのような力を付けたいのか、どの教科のどの時間であればより力がつくのか、中学校と共に考え、授業を組み立てていく。カリキュラムマネジメントの視点からうまく時間を捻出し、調整を図っていく。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 羽津小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 <u>1 基礎・基本</u> ①わかる楽しさが実感できる授業づくり ②聞き取る力・読み取る力 ③ICTリテラシー ④効果的な少人数授業 ⑤家庭学習の習慣 <u>2 問題解決能力</u> ①対話的に学び合う授業 ②問いを持ち主体的に学ぶ力 ③思考を広げ深める力・表現する力 ④ICTの効果的な活用</p> <p>【成果】 ○各種到達度検査では、ほとんどが全国平均や県平均を上回った。更なる向上をめざしたい。家庭学習の手引きにより保護者と連携して家庭学習を習慣づけることができた。 ○子どもがめあてや見通しを持って探求し説明したり活用したりでき、学びを深めることができた。ペアやグループでの活動やICTの多様な活用が、考えを深め表現を広げるための有効な手立てとなった。</p> <p>【課題】 ○さらなる授業改善に取り組み、引き続き、わかる・楽しい授業をめざす。 ○ペアやグループでの活動やICTの活用をさらに進めて、学び合う学習を大切にする。</p>	
重点目標 2	こころとからだの健全な育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 <u>1 仲間づくり</u> ①自分を大切にする ②互いの違いを尊重する ③いじめに気づき許さない ④いじめの把握と迅速な対応 <u>2 豊かな心</u> ①道徳教育 ②ルールやマナーを守る ③あいさつ・コミュニケーション ④読書活動 <u>3 健康づくり</u> ①生活習慣 ②食育 <u>4 体力と運動能力</u> ①運動好きの子どもを育てる ②体育科授業や体育的行事、日々の遊び等を通して体力・運動能力の向上</p> <p>【成果】 ○毎学期のいじめ調査と教育相談により、問題を早期発見し対応ができた。いじめを題材にした授業を全学年で行い「いじめをしてはいけない」という意識づけができた。 ○「羽津っ子のきまり」の活用や話し合う道徳教育の実践で、ルールやマナーを守る規範意識を育み、児童会活動により子ども発信で生活目標の啓発と意識づけができた。 ○保健だよりや保健委員会により健康な生活について啓発することができた。各学年学期ごとに食育の授業を行うことで系統的な指導ができた。 ○運動用具や環境の整備・充実や体育委員会による取組から、子どもの様々な運動遊びの機会を保障することができた。</p> <p>【課題】 ○今後も児童の様子をよく観察し、道徳・人権学習と具体的ないじめ防止活動を連携させて、差別やいじめを防ぎ、早期発見に努める。挨拶は、生活の中で自然にできるよう家庭や地域と連携して繰り返し指導する。読書好き、運動好きの子どもを増やすため、引き続き家庭とも連携して取り組む。</p>	
重点目標 3	未来の創造	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 <u>1 キャリア教育</u> ①キャリア教育 ②力を合わせ、やり遂げる ③羽津の郷土や万古焼などの地域の特色を活かした学習活動 <u>2 防災・安全教育</u> ①生活に必要な安全意識 ②避難訓練 ③防災学習</p> <p>【成果】 ○キャリアパスポートにより自らの成長に見通しを持たせ振り返らせることができた。 ○羽津地区の特色を活かした活動（万古焼・陶芸製作、竹灯りなど）に取り組んだ。 ○日常的な指導、避難訓練、交通安全教室、防犯教室などを行い、児童、職員ともに意識と対応能力を高めることができた。</p> <p>【課題】 ○防災訓練を年ごとに改善し、火災・地震など状況に合う避難ができる子を育てる。</p>	

重点目標 4	学びを支える	4
主な方策	<p>【方策】</p> <p>1特別支援・登校サポート ①個に応じた指導・支援 ②迅速で組織的な対応</p> <p>③専門機関・SCとの連携</p> <p>2安全安心な学校づくり ①食物アレルギー管理体制 ②安全な医療的ケア体制 ③危機管理意識 ④校内環境・学習環境整備</p>	
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>○定例の校内支援・登校サポート委員会にSCも交え、情報共有・協議を行い対応できた。専門機関に助言をもらい、児童・保護者の支援に役立てた。サポートルームの活用や転籍につなげることができた。</p> <p>○保護者との連携や情報共有を大切にし、安全な体制づくりができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○アレルギー管理については過剰な対応で負担になりすぎないように調整をしたい。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策	<p>【方策】</p> <p>1学校経営の充実 ①組織の焦点化・責任の明確化 ②各指導部による改善活動</p> <p>2ワークライフバランス ①各種会議の効率化 ②定時退校日 ③働き方の改善</p> <p>3確かな教師力 ①校内研修の充実 ②各種研修会への参加 ③「学びの一体化」による中学校区の連携</p> <p>4開かれた学校づくり ①コミュニティスクール ②学校評価に基づく学校づくり</p> <p>③たよりやホームページによる情報発信</p> <p>5地域家庭との連携 ①地域や保護者の学習支援ボランティア ②ゲストティーチャー</p> <p>③地域・家庭との連携による登下校時の安全確保</p>	
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>○ビジョンを中心に教職員全体で協力し、バランスの良い学校経営ができた。</p> <p>○授業研究会や仲間づくり研修会、授業公開週間の実施により授業力向上を図り、授業改善に努めた。</p> <p>○研究協議会、市の研修会などに積極的に参加。学びの一体化により、他校とも授業を見合い意見交流や情報交換ができた。</p> <p>○地域や保護者の学習ボランティア方に、読書週間における読み聞かせや社会や総合的な学習の時間のゲストティーチャーとして活動していただくことができた。地域・家庭の協力で登下校が安全にできている。</p> <p>【課題】</p> <p>○定時退校日の設定などにより、勤務時間の管理を一人一人が意識することはできたが、全員が目標を達成することは難しかった。会議の更なる効率化を進め、働き方改革を今後も課題として進めたい。</p> <p>○下校時も交通ルールを守りながら安全に帰宅できるよう指導を重ねる。今後も、地域に根差し保護者と連携する取組を実行していく。</p>	

2 改善方針学校教育力の向上

- ・ 学ぶ場・楽しみ場・安心できる場としての学校の役割をしっかりと果たしていく。一人一人の児童としっかりと向き合い、適切な支援を行う。児童が活躍できる場や認められる場となるような授業や行事、学級づくりに努める。
- ・ 児童会の「あいさつ運動」をはじめ日常的にあいさつを意識づけ、相手を認め大切にする姿勢を表すものとして、繰り返し指導をする。また、学校だけではなく家庭地域で日常的に身に付けていくものなので、引き続き家庭や地域と密接に連携した取り組みが必要である。
- ・ 保護者や地域の人々の学習参加や地域に学ぶ学習の推進し、地域性を生かした教材の開発に努める。
- ・ 専門機関と連携を取って、情報共有したり研修を行ったりして、教職員の特別支援教育に関する専門性をさらに高めていく。
- ・ 避難訓練について、予想される被害にあった方法の避難ができるように情報を収集し改善していく。
- ・ 体力面では、環境整備に努め、バランス力・調整力、投力を向上させていく。また、学年学級間で競い合ったり協力したりする機会（なわとび週間、かけ足週間など）を計画し、運動が苦手な児童も友だちと体を動かしていけるような取り組みを行う。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 海蔵小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	○毎日の授業の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○授業を通じ、子どもたちが学ぶことの楽しさや大切さを感じ、確かな学力やより広く深く学ぼうとする意欲を高める。 ○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするるとともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。</p> <p>【成果と課題】 ○授業の中で「子どもにつけたい力」を明確にし、子どもたちに「めあて」として示すことで、より注意深く子どもたちを見つめ、具体的な手立てを検討し、子どもの実態に即した指導を進めることができた。 ○めあてや課題を提示したことで見通しを持って、「わかる」「できる」と実感している子が増えてきた。 ○ICTを活用した指導を進めており、今後ますますの「見える化」「構造化」に役立てていきたい。</p>	
重点目標 2	○道徳的実践力と自尊感情の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえない存在と感じる）を高める。 ○仲間づくり研修会の実施 ○四同研の提案や研修会への参加 など</p> <p>【成果と課題】 ○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「仲間づくり」を進めることができた。仲間づくり研修会を通して学年の教師全員で子どもを理解し、自尊感情を高められるような取組を行うことができた。 ○効果的な道徳科の持ち方について、提案授業や職員研修を行った。各学年の実践を交流し、今後もより効果的な実践力につながる指導に結び付けたい。</p>	
重点目標 3	誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○自分からあいさつ・礼をする習慣の育成 ○授業に真剣に取り組む態度の育成 ○きまりの順守（整った身なり・体育の服装・名札の着用・右側歩行） ○そうじの取組（しずかに、進んで、最後まで） ○仲間づくり（相手の気持ちに寄り添った言葉づかい）</p> <p>【成果と課題】 ○学校のきまりをまとめた冊子「海蔵っ子になろう」をもとに、昨年度より「あいさつ」と「そうじ」に重点を置き指導を続けた結果、前向きに取り組む児童が増え、教育アンケートで「がんばった。」という数値が上昇した。 ○家庭学習の手引きをもとに、家庭への協力と児童への指導を続けているが、なかなか定着しにくい現状がある。今後も、家庭との連携や啓発を続けていく。 ○学習支援ボランティアとして、保護者や地域の方の協力を得て、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。</p>	

重点目標 4	教職員の研鑽と協働	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりが、年1回以上の研究授業を行い研鑽を深める。 ○「自己目標設定シート」を作成し、能力、意欲、組織力の向上を図る。 ○生徒指導、特別支援委員会等による情報共有と組織的、効果的な対応 ○学年・全職員の共通理解による一致・連携した指導 ○教職員が連携し生き生きと効果的に働くことのできる環境づくり 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研修では「きき合う力」の育成に力を入れ、発問や場の設定等の工夫により、ふりかえりの中に、他者の考えに対する自分の考えを書く児童が増えてきている。 ○研究授業では、事後研修会を大切にして、授業改善につなげている。 ○ICTに関する職員研修や実践交流を年間計画に位置付けて継続して行った。授業に効果的に活用できる場が増え、子どもたちの主体的に学習に望む姿勢が向上している。 	

重点目標 5	家庭・地域との連携	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクールの推進 ○学びの一体化の推進 ○学校からの情報発信・啓発 ○地域の人材、素材を活用し、地域に根差した学習活動の推進 ○学習環境整備の推進 ○家庭学習習慣の定着 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の登下校時の様子から、地域の方へのあいさつが不十分であるという課題が把握できた。そのため、児童会活動や地域の方との交流を進めるなど、子どもたちが進んであいさつできるよう、より一層の指導の強化を図った。 ○地域や家庭の協力を得て、コロナ禍の中で工夫して運動会や海蔵っ子走ろう会等の学校行事を進めることができた。 ○登下校の安全や下校後の安全について更なる指導や見守りが必要な現状があるため、地域や家庭と連携して取組を進めたい。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや課題を提示することで見通しをもたせ、授業で分かったことを振り返ることができる活動を取り入れた授業づくりを今後も研修として進めていくとともに、ICTの活用を含め、個別最適化した学びにつながる多様な課題の設定や提示に力を入れていく。 ・子どもの意欲を喚起するようなめあてや課題の工夫を更に行うとともに、話したりきいたり伝え合ったりする場を十分に保障する。 ・指導者の肯定的な評価によって、子どもの学習意欲を喚起するとともに、自信とやる気をつけさせていきたい。それを繰り返すことによって、子どもたちの自尊感情・自己肯定感の向上につなげていく。 ・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等による家庭への啓発を続ける。 ・読書の推進については、今後、読書の良さや面白さを実感できるように、読み聞かせ、おすすめの本紹介、図書館まつりなど図書館教育を充実させていく。 ・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、週に1度の打ち合わせで情報共有を図り、全職員による統一した指導と児童会を中心とした子どもによる活動を引き続き進めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①基礎・基本的な「知識」「技能」の定着②主体的に学習に取り組もうとする意欲と態度の育成③課題を解決するために必要な「思考力」「判断力」「表現力」の育成④リーダーシップ・チーム力の育成⑤ICTを活用した情報活用能力とプログラミング的思考の育成⑥読解力・表現力の育成⑦筋道を立てて説明できる論理的思考力の育成⑧英語コミュニケーション力の育成</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <p>・児童アンケートにおいて、「授業中に友だちの考えをよく聴いている」児童が94%で、「聴く」ことについては概ね達成できてきたが、「授業中に自分の考えや分からないことを発表したり伝えたりしている」児童の割合は59%にとどまっており、考えや思いを「伝えあう」ことがまだまだ十分にできていない現状が明らかになった。どんなことでも言い合えるなかま関係を日常から築いていく必要がある。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①人権教育・道徳教育による自分自身を見つめる機会の充実②多様性の尊重と他者との協働③メディアリテラシーの養成④最後までやり遂げる粘り強さの育成⑤本好きの子どもの育成⑥生涯にわたって健康に生きるための体力・運動能力の育成⑦運動に親しむ気持ちや運動習慣の基礎づくり⑧健康教育・食育を通じた心と体の健康のための基本的な生活習慣の定着</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <p>・「先生たちは、友だちと考え合ったり、話し合ったりする授業をしていますか」について、肯定的な意見が大きく伸びた。コロナ禍によりペア学習やグループ学習ができなかった現状があったが、今年度は取り入れることができた。</p> <p>・「安全に気をつけて行動している」について肯定的な回答が昨年度から4%伸び97%になった。保健指導や食育、道徳や学級活動のなかでも、自分や友だちの「いのちの大切さ」について考える機会をもったことにより意識が高まったと考えられる。</p>	
重点目標3	よりよい未来社会を創出する力の育成	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①夢や志をもち、自分なりの人生を作っていく力の育成②生活習慣や学習習慣の習得と定着③豊かな人間関係を育むコミュニケーション能力の育成④ふるさと四日市市への理解・関心を深め、誇りと愛着心の育成⑤「持続可能な社会」を創るため、自ら行動を起こす力の育成⑥安全教育の推進による危険予測能力の向上⑦現代的諸課題に対して自分なりの考えをもち、発信できる力の育成</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <p>・保護者アンケートで「家庭学習ができていますか」が2年前より8%伸び78%になった。家庭の協力が得られてきたが、まだ22%が家庭学習の習慣が身につけていないことが明らかになり、今後も習慣づけられるようにしていく。</p> <p>・地域の消防団や自主防災隊と連携した防災・安全教育を実施することができた。大変貴重な体験であるとともに、地域の方と交流することができるよい機会となった。地域との連携を今後も大切にしていきたい。</p>	

重点目標 4	全ての子どもたちの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①一人ひとりの教育的ニーズを把握し誰もが安心して過ごせる教育の充実②日本語指導が必要な子どもへの指導の充実③誰一人取り残さない教育の実現(不登校等も含む)④早期発見、初期対応、支援の充実⑤家庭との連携による「学び」の基礎づくり⑥学校に関する情報の発信と学校評価の活用</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部教科担任制の導入や、少人数授業の工夫、教材研究など、指導体制の充実に努めた。また、特別支援教育の充実として、個々の教育的ニーズに応じた指導に取り組んだ。その結果、児童アンケートで「学校生活は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が91%となった。 学習や人間関係に課題やしんどさを感じている児童に寄り添い、家庭とも連携しながら個々に応じた指導を継続していかなければならない。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①三錨コミュニティスクール、保幼小中の連携を核とした「地域とともに歩む学校」づくり②地域資源を活用した教育の推進と子どもたちが学んだことを地域への還元する機会の充実③教職員の資質・能力の向上(教育Adv.の活用、研修会への参加、講師招聘等)</p>	
成果と課題	<p>④働きやすい職場環境の推進⑤「チーム富洲原」による学校活動の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、人権・同和教育を柱として校内研修に取り組んだ3年目である。全体研修会を実施するとともに、各学年部で教材研究や指導案検討会の機会をもって、人権学習の授業づくりや子ども理解について議論を深め、実践につなげることができた。 今年度、教育委員会の教育アドバイザーに定期的に来校していただき、全教員が、年間で複数回の指導を受けた。的確な助言を受け、授業改善につながった。 	

2 改善方針

<p>【確かな学力の定着】</p> <p>基礎・基本的な「知識」「技能」の定着と、主体的に学習に取り組もうとする意欲と態度の育成を図る。また、考えや思いを伝えあう授業を効果的に行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。</p> <p>【ICTを活用した授業づくり】</p> <p>ICTに関わる研修を継続的に行い、教員のICT機器活用スキルを高め、タブレット端末を活用した学習活動の充実を図る。児童の情報活用能力を育成する。</p> <p>【人権教育のさらなる推進】</p> <p>今年度、三重県教育委員会の「人権教育研究指定校事業」の委託を受け、2回公開授業会を行い研修を進めてきた。今年度作成した「人権教育カリキュラム」をもとに、各学年の児童の実態も踏まえて、人権教育のさらなる推進を図る。</p> <p>【チーム富洲原による学校活動の充実】</p> <p>校務分掌担当を複数にしたり、チームで活動したりすることで、若手教員をサポートし、学校運営がスムーズに進むような体制を作る。</p>

自己評価書

四日市市立 富田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策	<p>(1) 基礎学力を定着させる</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字習熟・計算習熟の取組を行った。学年配当漢字の90%以上が書ける児童は、全校児童の95%(2学期)となった。計算については、学年重点計算問題の習熟に取り組んでいるところである。 学調・みえスタディチェックで把握した間違えやすい問題について、下学年での学習時期を明らかにし、全校で重点指導週間を設け指導を行った。今後も、継続的に繰り返し指導改善を行っていく。 読書週間を年3回設けることで、読書イベントや家族読書を通じ読書習慣が身につけてきている。また、電子図書館の活用により、児童が本に親しむ機会が増えている。一方、保護者アンケートでは家庭での読書をする時間が取りにくい様子がうかがえた。今後も保護者の協力を得ながら、家族読書等の取組を啓発していく必要がある。 	
成果と課題	<p>(2) 家庭学習の習慣をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の宿題や自主学習、長期休業中を中心としてタブレット学習の取組を行った。読み書き計算等の学習習慣が身に付き、家庭学習に意欲的に取り組む児童が多いものの、毎日の宿題の取組が難しい児童もいる。家庭と連携を取りながら、家庭学習が身につくよう指導を続けていく必要がある。 <p>(3) 個に応じた指導を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科における習熟度別少人数教育を、単元毎に児童の能力に応じたクラス分けをしたり、内容に応じてT2を配置したりするなど工夫して指導を進めてきた。 一人一台タブレットを日常的に活用してきた。教科の学びを深め、教科の本質を深めることができるICT活用場面の研修を続けていく。 	
重点目標 2	心の教育の充実	3
主な方策	<p>(1) 規律を守る心を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会を中心に挨拶への取組を行い、今年度は「挨拶運動に参加しようキャンペーン」を実施し、代表委員とともに多くの児童が主体的に挨拶運動に参加した。登校して自分から挨拶をして教室に入る児童や、地域の方へも自然と気持ちの良い挨拶のできる児童が多く見られた。 廊下歩行については、児童アンケート「廊下は歩いていますか」は85%とまだまだ課題が残る結果であった。今年度から安全委員会を立ち上げ、児童が主体的に廊下歩行を呼びかけている。児童が自ら廊下歩行を心掛け生活できるよう、教師からも声を掛け続けていく。 	
成果と課題	<p>(2) 思いやりの心を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回の教育相談、年3回のいじめ調査、年2回のQ U調査を行い児童の実態を的確に把握し、児童がお互いにありのままを受け止め支え合って生活できるよう「なかまづくり」の研修を通じて取組を進めてきた。 <p>(3) よりよく生きる心を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業についての研修を月1回程度設け、教師の授業力向上に努めてきた。 6年生が主体となり「元気いっぱい富田っ子集会」を開き、全校児童で歌を歌ったり発表を聞き合ったりして、よりよい富田小学校にしようという気持ちを全校で共有できた。 	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策	<p>(1) 運動を楽しむ態度を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会をはじめ、体力テスト、かけ足や縄跳びの取組等を今年度も全校で取り組んだ。体力テストの調査対象の学年では、全国平均を上回る結果を残した。 児童アンケート「休み時間外で元気に遊んでいますか」は53%と低い。体育の授業や学校行事を工夫して、運動に親しむ態度を育てていくことが今後の課題である。 	
成果と課題	<p>(2) 基本的な生活習慣をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校栄養職員・養護教諭を中心とし、保健室前の掲示物作成や給食・保健だより配付の取組を通じて、食の大切さや健康な過ごし方について啓発してきた。また、歯磨きや早寝早起き等について計画的に指導した。児童アンケート「けがや事故が起こらないように安全に気を付けていますか」は肯定的回答が93%と高い結果となった。 ゲームへの依存や早寝早起き等、改善すべき課題が残るため、家庭に向けた発信、児童への指導を継続していく。 <p>(3) 安全意識の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も計画的に、地震・津波・火災の避難訓練を行った。今年度は、児童が主体的に自分で判断して避難する内容を取り入れ、より実際の想定で取り組んだ。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 新学習指導要領に対応できる力量を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりの授業力向上を目指し、年度当初に個人で今年度の研修計画と重点教科を設定するとともに、学年でも目指す子どもの姿を明確にした上で学年研修テーマを設定した。そして、四日市市新教育プログラムの6つの柱を意識しながら、学年テーマに応じた取組や授業改善を進めた。授業改善の視点として、昨年度から引き継がれた「学年に応じた子どもの姿を目指すための手立て」について年間を通して考察する中で、その学年に応じた手立てや、学年の伸ばすべき力は何か検討することができた。また、重点教科・領域別のグループで熱心に教材研究をする教職員が増え、授業改善への意識が向上した。児童アンケート「授業は分かりやすいですか」は肯定的回答が95%を超えており、教職員の授業力向上に対する取組の成果と考えられる。 ・今年度も指導主事や教育アドバイザーを招いての授業研究を多く実施した。また、中学校区教員や指導教諭に授業を公開することでアドバイスをいただく機会もあった。それらを記録したり指導案の再案を考えたりする中で、自分自身を振り返るとともに全教職員で学びを共有することができ、さらなる授業改善に生かすことができた。 <p>(2) 教職員の資質向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の子ども支援ネットワーク・アクションプラン事業指定を受け子ども主体とした人権尊重の意識を広める活動を充実させるとともに、年4回の人権・同和教育推進研修会を実施し、教職員の人権感覚を養う取組を行った。また、月1回若手研を実施し、OJT研修や指導主事による授業観察を実施する中で、若手に今必要な力や要望に応じた研修の機会を作ることができた。 <p>(3) 保・幼・中との連携を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの一体化による連携として、11月末に四日市市新教育プログラムに即した指導案を作成し各学年1クラスの公開授業を行い、保幼小中それぞれの立場で意見交流を行った。また、人権フォーラムや乗り入れ授業などを実施し連携を図ることができた。 	

重点目標 5	組織的な指導体制の構築	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 個に応じた指導を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を定期的に行い、情報共有を図ってきた。担任とともに、養護教諭や通級指導教室担当、SC等によるより専門的な助言を踏まえ、学校として対応方針を決定してきた。 ・児童の学力向上を図るため、高学年における教科担任制を導入し授業を行った。教科指導の専門性を持った教師が指導を行うことで授業の質が向上し、複数の教師がかかわることで多面的な児童の捉えができ、よりきめ細やかな指導につながっている。 <p>(2) 子どもたちが安心して安全に過ごせるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援委員会や不登校対策委員会を定期的に行い、児童の情報交換及び指導体制についての検討等を組織的におこなってきた。特に、通常学級籍において特別支援を要する児童の指導や、不登校傾向の児童への対応について、関係機関との連携を適切に行い学校全体で対応してきた。 <p>(3) 教職員が本来の任務に専念できる学校運営を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務アシスタントを適切に活用し、任務に専念できる学校運営を進めてきた。また、教育活動の意義を再考し、効果的な指導の在り方を全職員で検討し改善を図っている。 	

重点目標 6	家庭・地域との連携	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 地域とつながる活動を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との出会いを大切にする活動を推進するため、学年ごとに活動を計画し、地域の方を招いたり、地域に出て見学したり話を聞いたりして学習を進めた。学んだことを掲示物にまとめ全学年に発信したり、発表会を開き他学年に発信したりして還流し、地域とのつながりを学校全体へ広げられるよう取組を進めてきた。地域に興味を持ち、さらに深めていこうと意欲を示す児童の姿がみられた。 <p>(2) 積極的な情報発信・受信を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子をより多くの方々に知っていただくために「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等を活用して情報を発信している。また、日常的にGoogle classroomで予定を共有したり、緊急時にはH&Sで適宜必要な情報発信を行ったりしている。保護者アンケートでは、90%以上の肯定的回答が見られた。 <p>(3) コミュニティ・スクールの取組を発展させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事である鯨船の学習をはじめ、クラブ活動や読み聞かせなど、地域資源を活用した有意義な学習活動を行った。 ・社会の多様化に合わせ取組の形を工夫し、家庭・地域と学校との連携をさらに進め、地域とのつながりを今後も大切にしていきたい。 	

2 改善方針

【確かな学力の定着に向けて】

- ・一人でも多くの児童が「授業がわかる、楽しい」と実感できることを目標に、学習規律の徹底、なかまづくり、全国学力学習状況調査・みえスタディチェックの活用、ICT活用等教員一人ひとりの授業力向上を目指す。
- ・家族読書に課題がみられるため、学校での読書活動の取組を積極的に保護者に発信し、年3回の読書週間における家族読書啓発を一層進めていく。

【健康な心と体の育成に向けて】

- ・健康安全部を中心とした体力テストへの系統的な取組、基本的な生活習慣を始めとする健康教育と食育、体育の授業づくりや運動会等学校行事の工夫、休み時間の外遊びへの啓発等、さらに運動に親しめるよう指導や環境を充実させていく。

【学校教育力の向上に向けて】

- ・児童の体力やコミュニケーション能力の低下、保護者間での人間関係の希薄さがみられる。また、学級担任のほぼ半数が教職経験6年未満であることから若手教員育成という課題もある。
- ・PTAの自治能力の高さ、鯨船保存会の取組を中心とした地域資源の豊富さ、コミュニティスクール等地域教育力の高さを活かした「家庭・地域との連携」に来年度も力を入れていく。

【組織的な指導体制の構築に向けて】

- ・高学年における教科担任制の運用を継続し、学校全体で効果的な指導体制を整えていく。
- ・OJT研修のもと若手教員育成を進めるとともに、学年主任、指導部長、教務による学校運営への積極的な参画を目指す。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 日永小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成 (主体的に粘り強く学習に取り組み、心豊かに学ぶ子の育成)	3
主な方策 成果と課題	<p>基礎学力の定着を目的に、毎日10分間の朝学習時間を確保した。また、自ら学ぶ力をつけるため、共通の宿題に加え児童が自身で課題設定をして取り組む家庭学習(プラスワン)を実施した。プラスワンにおいては、グッドモデルを掲示等で紹介し、学習方法を児童同士が参考にできる場を作り、学習意欲の向上を図った。授業の中では、発表やグループ活動の時間など、お互いの意見を聞き合う機会を設けた。さらにICT機器を活用し、子どもたち一人一人の考えが共有しやすくなった結果、友だちの考えから学ぶ姿が増した。また、学習に集中できる環境づくりの一環として、授業開始チャイム時の着席、学習用具の準備を徹底する取組を続けた。</p> <p>国語科では論理的思考力の育成に重点を置いた学習課題を設定した授業づくりに取り組んだ。今後は国語科で学んだ論理的思考力を他の教科でも活用できる力の育成につなげたい。また、すべての教科でICTの良さを活かした子どもたちの確かな学力の育成に努めたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性、健康な心と体の育成 (いじめや差別を許さず多様性を尊重して共に育つ子・きまりを守り場にに応じた行動ができる子・命と健康を大切に運動を楽しむ子の育成)	3
主な方策 成果と課題	<p>各学年での情報共有をはじめ、週に一回の学校全体での情報共有や管理職との連絡・相談を行ったり、いつでも支援ができる体制を整えたりすることなどを通して、学校として組織的に対応する指導体制を構築している。</p> <p>また、人権教育カリキュラムのもと学校全体で人権教育を進めている。地域や家庭も含めて、連携をして取り組みを進めていきたい。</p> <p>体育の授業で体を動かす時間を多く確保したことで、体を動かす楽しさを知り、児童が主体となって外遊びする時間が多くなった。体育の専門的知識・実践力のある教職員を中心に研修会を開き、児童が達成感を感じられる授業の進め方の検討を行った。</p> <p>児童アンケートの「学校の決まりや約束を守っている」の項目が2ポイント減少しており、「なぜきまりがあり、きまりを守る必要があるのか」ということを主体的に考えさせたり、取り組ませたりする場をつくっていく必要がある。</p>	
重点目標 3	よりよい未来をつくる力 (未来の姿や新たな目標・課題解決に向かって前向きに行動する子の育成)	3
主な方策 成果と課題	<p>本校では、児童が直接、事物や人とかかわりながら問題を探り、解決していく問題解決型の学習を大切にしている。そこで、地域の自然や歴史を学習素材として取りあげると同時に地域の人々とかかわる機会を積極的に設け、児童が興味・関心を持てる探究活動を進めてきた。具体的には、総合的な学習で「日永つんつくおどり保存会」、「見守りボランティア」の方々からの聞き取り、近隣の高等学校主催の「ものづくり体験」などを進めた。このほかにも、本校保護者らで組織された、読書支援サークルによる読み聞かせ、異学年との交流および児童が主体となって取り組む児童会行事を実施した。</p> <p>成果として、どの学年でも年度初めにカリキュラムマネジメントに取り組み、六年間を見通した系統的計画的に学習を行うことができた。その一方、教員が例年通りの活動ありきとなっている姿が少なからずあり、「つけたい力」「学習のねらい」をしっかりといしきして取り組みを進化させていく必要がある。</p>	

重点目標 4	子どもの能力を伸ばす教育の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>指導体として、高学年での教科担任制、単元によって単純分割、習熟度別と柔軟に取り組んでいる。外国人児童委員会を年間行事の中に定例化して、支援している児童の情報交換や指導内容等管理職を含めた対応を検討した。その結果、日本語指導が必要な外国人児童の進路学力保障から、レベルチェックによる取り出しに取り組んだ。不登校児童が増える中、今後も支援委員会が中心となり、児童一人一人の実態を共通理解して方策を検討していく必要がある。個々に応じたステップで進めていけるように、全職員が同じスタンスで向き合っていけるようにしたい。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>生徒指導体制の充実の取り組みとして、週1回の児童の情報交換の場に加え、不登校対策委員会を定例化し、情報共有と迅速な対応を行った。</p> <p>研修主題の副題を「学び合う授業づくりを通して」として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んだ。担任は1人1回の授業提案を行い、授業改善を推進した。</p> <p>業務改善については、定時退校日の設定や校務の電子化、業務アシスタントの活用を通して、業務時間の削減を行い、その分を子どもと向き合う時間や心のゆとりを確保に努めた。</p> <p>コミュニティスクール運営協議会を年5回開催し、10名の委員の方に授業の様子を見てもらったり、学校運営や教育活動に対する意見を伺ったりして、今後の学校運営の改善点とした。</p> <p>成果としては、今年度の学校評価アンケートにおいて、「日永小学校の教育について満足している。」の項目では、97%の保護者の方が肯定的な評価となっていることである。</p>	

2 改善方針

- 児童が「わかりやすさ」「楽しさ」「達成感」を感じられるように、実態を丁寧に把握したうえで、つけたい力を明確にした授業づくりに取り組む。研修を深め、ICT機器の活用を日常のあらゆる教科領域で活かした授業改善に努める。
- 児童が人権課題を身の回りの出来事とつなげ、自分事として考えられる人権学習を進めることで、人権を尊重する態度を伸ばす。子どもたちが主体的に、きまりを守り、場に応じた行動ができるよう様々な場で、児童が主体となる取り組みに努める。
- 家庭への啓発を進めるとともに、保健学習、食の学習を充実させ、児童が自らよりよい習慣とリズムで生活しようとする実践力を養っていく。
- 授業研修と教職員同士の授業実践交流を積極的に進め、ベテラン、中堅、若手が共に学び合うことで、教職員の資質、授業力の向上を図る。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 四郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着（学習指導部）	3
主な方策 成果と課題	<p>【基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、読解力・問題解決能力を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習において、「書く・話す」などアウトプットする学習活動の充実を図ったことで、多くの子どもが自分の考えを表現できるようになった。 ・国語の教科書だけでなく、新聞記事や他の教科書会社の教材文などを活用したことで、子どもたちが学習した文章構成などを意識して、読み取ることができるようになった。 ・朝の学習の時間などを活用し、読解力に関わる基礎・基本プリントに取り組んだ。また、「ミライシード」や「こにゆうどうくん学びの部屋」などの学習支援コンテンツを活用し、基礎的な知識・技能の定着を図った。その結果、児童アンケートでは94.5%の児童が授業内容の理解について肯定的な回答となっている。 ・総合的な学習の時間など探究的な学習場面において、タブレットを活用し、情報を活用したり、効率的に手段を選択（プログラミング思考）したりする機会を設定した。その結果、子どもたちも授業でタブレットを活用して学ぶことを88%が肯定的に捉えている。 ・授業の始め方・終わり方や学び合うルールなど、児童の発達段階を考慮しながらも、学校として共通理解をもって取り組むことができた。 ・読み聞かせや、家読（うちどく）・読書通帳など新たな取り組みや、リブネットと協力し読書に親しむための活動を取り入れた。しかし、読書に進んで取り組んでいる児童は69.8%にとどまった。今後の対策が必要である。 ・家庭学習では、「プラスワン」として子どもたちが自ら考えた課題などに取り組む学習を取り入れたことで、家庭学習に関する児童アンケートの肯定的な回答が91%となり、家庭学習の習慣化につなげることができた。 ・電子図書館を推進したり、保護者等に本の寄付をお願いし学級文庫の充実を図ったり、PTAから図書館の本を寄贈いただいたりして、読書環境の整備を着実に進めることができた。 	

重点目標2	心と体の健全な育成（生活指導部・健康安全指導部）	3
主な方策 成果と課題	<p>【自他を大切にするとともに、心と体の健康を意識し実践できる子どもを育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員から丁寧な言葉で指導するように意識することで、児童が相手の気持ちを考えた言葉がけができるようになってきた。 ・強化週間などを設定し、「四郷っ子のやくそく」を指導してきたことによって、児童アンケートにおいて92.9%の児童が「きまりを守っている」と答える結果となった。しかし、すべての児童に徹底できていない現状があるため、今後も、生活指導部を中心に各学年の課題に対して粘り強く指導し、児童の規範意識を高めていく必要がある。 ・本年度は、体育専科を設定し、運動のおもしろさを感じられるような単元をデザインし、各学年に体育通信等で広げてきた。また、児童が十分な運動量を確保し、運動能力を高めていけるようにした。今後も、運動の場やルールを学年内で共有し、運動に親しめる子どもを増やしていく。 ・運動不足になりがちな冬場を中心に、「かけ足運動」や「縦割り班de（で）大縄跳び」など、体を動かす行事を設定し、体力づくりを行った。寒い時期に実施した児童アンケートでも、93.1%の児童が「日常的に体を動かしているか」という設問に肯定的に答えている。 ・生活リズムの定着については、児童アンケートで17.7%の児童が「規則正しい生活を送れていない」と答えている。家庭との連携し同じ方向で進めていくことが難しい家庭に対しても継続的な働きかけを続けていくことが大切である。学校や学年では指導計画に沿って健康教育や食育などを進めることができた。 	

重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成（各指導部・研修委員会）	3
主な方策 成果と課題	<p>【夢や志の実現に向け、学ぶ意欲・コミュニケーション能力を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用し、家庭と連携してキャリア教育を進めることができた。しかし、児童アンケートでは12.7%の児童が「将来の夢や目標を持っているか」について否定的な回答となっている。今後も取組を継続していくことが大切である。 ・コミュニケーション力の育成につなげるため、縦割り班遊びや「縦割り班de（で）大縄跳び」など異学年での活動や、全校児童が集まる集会活動を充実させることができた。 ・総合「四郷の歴史」や伝統芸能クラブなど地域人材を活用した取組は進めることができたが、さらなる地域教材を発掘していく必要がある。 ・コロナ禍が明け、地域との合同防災訓練には参加したが、日常的な児童会活動や集会活動において、安全について主体的に考える取組を設定できなかった。 ・年間計画を基にして、各学年の実態や児童の発達段階に合わせて、各教科等でSDGsの視点を取り入れた環境教育を進めることができた。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実（特別支援教育推進委員会）	3
主な方策 成果と課題	<p>【一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を毎月1回行い、支援の必要な児童の状況について確認し、日常の支援やサポートルームの活用などについて協議したり、関係機関につないだりすることができた。 ・SC、SSWの専門的な視点からの指導助言をもらい、日々の指導に生かすことができた。また、転籍転学に関わり、地域コーディネーターに訪問要請し、助言をもらった。今後も、児童や保護者の思いをしっかりと理解することが大切である。 ・西日野にじ学園との交流では、4～6年生の学校間交流と1年生の居住地交流が対面で実施できた。1～3年生の学校間交流と4年生の居住地校交流は、掲示物や動画などで交流した。今後は交流の目的や意図の理解をさらに深める必要がある。 ・「相談支援ファイル」の研修を行い、書き方や活用の仕方について共通理解できた。 ・特別支援委員会にて、日本語指導教室「いっぽ」や不登校児童の対応について協議し、連携して取り組んだ。 	

重点目標 5	家庭・地域との連携・協働（教務部・PTA・くろがねもち協議会）	3
主な方策 成果と課題	<p>【学校・家庭・地域が連携・協働し、「地域とともにある学校」づくりを進める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを毎日更新したことで、閲覧数が非常に増えた。保護者アンケートの「学校は取り組みや子どもたちの様子を伝えているか」という設問に対して、92.2%の方が肯定的に答えていただいている。 ・コミュニティスクール運営協議会からは、登下校の安全や読書量の向上など、学校の実態を踏まえた意見を出していただき、日々の教育活動に生かすことができています。 ・児童・保護者・教職員アンケートを実施し、アンケートの分析を行うことで、教育活動の継続的な改善を図ることができた。 ・交通安全、図書、クラブ、学習、環境整備など、様々なボランティアの皆様に積極的に活動いただき、子どもたちの学習活動を支えていただいている。 ・PTAの在り方、時間・効果などを見直し、PTAの組織構造改革や活動の精選を進めることができた。 ・授業時数を見直し、標準授業時数からの余剰分を削ったり、ICTを活用して業務を改善したりして、現場レベルの働き方改革に取り組んだ。しかし、現場レベルでの働き方改革には限界がある。教職員の増加、各教科等の授業時数の減少など、国レベルの改革が必要である。 	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上（研修委員会）	3
主な方策 成果と課題	<p>【子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、教師力の向上を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月「授業を見に行こう週間」を設定し、すべての教室を公開し、学び合えるようにした。「主体的・対話的な授業」「問題解決的な授業」など、研修主題や個人の課題に合わせて、いつでも参観できるようになった。 ・特別支援やICT活動など、若手を中心としながらもすべての教職員が参加できる研修会を実施した。しかし、教材研究や授業づくりについてのOJTをする時間はなかなか確保できていない。 ・計画に沿って学びの一体化を進め、地域の課題について共通理解を進めることができた。 ・四同発表表をきっかけとして、一人ひとりが「ありのままにいられる学級」を目指しレポート検討を重ねた。実際のエピソードから、子どもの思いや行動について、様々な角度から考え、人権に関する見方・考え方を広げることができた。 ・悉皆研修に加え、県内の公開研究会やオンライン研修会、県外の先進校視察に積極的に参加し、学んだことを学校に還流することで学びを広げることができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・本校の多くの児童は、授業の開始時刻など学習の約束を守り、集中して学習に取り組んでいる。今後も、教科の基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得するだけでなく、問題発見・解決能力や非認知能力など、自ら学ぶ力を高めていく必要がある。そのために、日々の授業の在り方（新しい授業観）について再検討していく必要がある。また、家庭学習の見直しを図り、児童が「させられている」宿題から、自ら「考える・学ぶ」学習に変えていく。 ・ICT（タブレット）について、学級間で差が出ないように研修等を推進し、系統的に活用能力を育てていく。また、ICTを活用することが目的にならないように、各教科等の授業のねらい等を達成する「手段」として有効活動していく。 ・児童自らが企画・運営する児童会活動にするなど、教育活動全体を通じて、子どもが主体的に取り組む活動に改善していく。 ・すべての教育活動について、働き方改革の視点などから見直しを図り、今までの方法に縛られることなく、新しい方法を試し検証していく。 ・今後も一人ひとりの特性や能力に応じた指導・支援ができるように、チーム四郷となって対応する。 ・教職員の研修の在り方についても、従来の方法に固執せずに、効果が上がる方法を試していく。
--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 高花平小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市モデルを活用した問題解決能力の育成 ・ICT等を活用した協働的な学び ・スタディタイムの活用（個別最適な学び） ・家庭学習習慣の定着による基礎学力の定着 <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力の育成を目指す研修をして思考スキルを意識して授業作りに取り組むことができた。 ・低学年から、一人一台タブレット端末を活用した教育活動を行うことができた。 ・スタディタイムとして朝や昼の帯時間帯を利用して基礎学力の定着を図ることができた。 ・高学年の算数を少人数指導にすることで、より丁寧に授業を進めることができた。 ・小規模校であることから、教員の年休や出張の際に、少人数指導やITができなくなってしまうことが課題である。 	
重点目標 2	健全なこころとからだ	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない学級づくり ・道徳、人権教育の充実と実践力の向上 ・体育授業の充実 ・読書環境の充実と読書活動の推進 <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見、早期解決に向け、全職員での情報交換の場を設けたり、全職員での見守り体制を行なったりしてきたことで、いじめを見逃さない意識は教職員も児童も高まっては来ている。 ・道徳や人権の年間計画に沿って学習を進めてきたことで、道徳的価値を理解して生活に生かす姿が見られた。 ・図書館司書に学習に関連した本の紹介や準備をしてもらったことで、読書活動の充実につながった。 ・20分休みに教師が率先して外に出ることで、子どもたち外遊びを促しており、多くの子どもたちが外遊びしている。 ・5分間運動の取組が徹底できていない部分がある。 ・食育に関して小山田小の学校栄養職員と本校の担当教員が連携を取り、計画的に実施をした。 ・保健指導に関して、子どもたちの発達や状況等に応じて、必要な保健指導を計画的に実施した。 ・保健室前の掲示物を定期的に更新することで、子どもたちの保健意識の高まりにつながった。 	
重点目標 3	未来社会を創造する力	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが社会に出る姿を意識した日常の指導 ・規範意識の向上 ・地域の教育力の活用 <p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナも収束しつつあり、学校公開や運動会では保護者の観覧制限なしで開催することができた。 ・今年度も引き続き地域人材の発掘に取り組み、3年生の学習に6名の地域先生に来ていただいた。2年生の学習では、地域の商店街に出かけ、自治会長などから様々な話を聞くことができた。 ・合同防災防災に向けて、地域の方々と話し合いを進める等、連携が強化され、充実した学習を行うことができた。 ・家庭学習習慣の定着に向けて学年に応じた取り組みを進めた。昨年に引き続き家庭学習の習慣がついてきたと感じる面も見られるが、今後も更に向上するよう強く取り組む必要がある。 	

重点目標 4	全ての子どもたちの能力の伸長	3
主な方策	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導、きめ細かな指導体制 ・特別支援教育の充実 ・「わかる授業」「人間関係づくり」「居場所づくり」の充実 	
成果と課題	<p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の算数を少人数指導することで、きめ細かな指導ができた。 ・専科教員を、低学年副担任・高学年副担任と位置づけたことで、複数の目で児童を見ることができ、児童や保護者にも「複数で見ている」ことがより伝わった。 ・スクールカウンセラーの勤務日に合わせて、生徒指導・特別支援・登校サポート委員会を開催することで、情報共有だけでなく、個々の児童への対応についてアドバイスをもらうことができた。 ・2週間に一度のペースで来てもらっているスクールソーシャルワーカーの活用がうまくできなかった。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・家庭、地域、関係機関、専門スタッフと連携した組織的な教育支援 ・四日市版コミュニティスクールを活かした教育活動の充実 ・校内研修、自己研修の充実 	
成果と課題	<p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を学期に1回行った。さまざまなケースで訓練をすることができた。(1学期：通常の避難訓練、2学期：担任でない授業授業の訓練、3学期：地域とタイアップした防災訓練の実施) ・コミュニティスクールを年5回開催した。授業や子どもたちの様子をみていただいた感想や意見をもとに教育活動の改善に活かすことができた。 ・教師集団の団結力が良く、子どもたちに「いきいきと働く大人」の姿を見せることができた。 ・昨年度よりは減少したものの、教職員の時間外勤務時間が依然として多く、年間360時間を超えるものが多くいた。 	

2 改善方針

<p><確かな学力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修に進んで取り組むことで主体的に学ぶ児童を育てる。更に児童の学力定着が結果として現れるよう検証を行っていく。 <p><健全なこころとからだ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常の様子に目を配り、困っていることや悩んでいることをよく聞いて、解決に向かうようにする。 ・学校全体で底上げしていく取り組みが必要。5分間運動や主運動、休み時間のなど、子どもたちが運動に親しむ環境を作っていく。 <p><未来社会を創造する力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着に向けた児童への指導内容や保護者への働きかけ方について、職員間で共有していく。 <p><全ての子どもたちの能力の伸長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーも校内の「特別支援・登校サポート委員会」に入ってもらえるなどの体制をとっていく。 <p><学校教育力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の共有が徹底できるような環境整備を整えるとともに、会議や委員会の内容を精選していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【聴くこと・伝えることを大切にしたい授業づくり】（児童アンケート結果94.6%）各学級でペア、グループ学習を大切に取組んだ。</p> <p>【読解力・表現力の育成】読書（児童アンケート結果67.6%）学級の子どもの興味関心に合わせた担任教師による選書、おすすめの本紹介、電子図書館の活用を行うなど各教室の読書環境を整えることで、空いた時間に読書に親しむ機会を増やした。また、図書まつりの取り組みや図書ボランティアによる読み聞かせなどを通して、読書の楽しみ方を知り、図書室に足を運ぶ児童を増やす取り組みを行った。今後も引き続き図書館司書や図書ボランティアなどの積極的な活用、図書まつりの拡大を検討したい。▲高学年では、質問に対し否定的な回答（D回答）が20%程度となっている。高学年になると、空いた時間には読書以外にもタブレット端末を活用している児童が多く見られるためである。継続的な読書指導が必要である。</p> <p>【学習環境づくり】家庭学習（学年10分）（児童アンケート結果79.5%）</p> <p>▲「家庭学習が習慣化していますか」の問いに保護者の40%が否定的な意見である。タブレットの導入もあり学習のスタイルが変化していく中で、宿題の量や質の見直しが必要である。家庭学習にどう関わっていけばいいのかという保護者の不安を取り除けるよう、家庭学習の内容や取り組み方法について情報を共有したい。学びノートやタブレット端末を活用した家庭学習には継続的に取り組み、学習習慣の定着をめざす。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【人権教育・道徳教育】相手の気持ちを考えた話し方・行動ができる（児童アンケート結果92.3%）友だちを大切に、思いやる言動ができている（保護者アンケート結果91.6%）授業や様々な場面で人権教育の推進に取り組んでいる。子どもも保護者も意識が高まっている。▲学校生活の中では、人間関係で不安を感じる児童も多い。また地域からは児童の様子について連絡をいただくこともある。日常的に情報共有し、児童への指導を継続したい。</p> <p>【運動好きの子の育成】進んで運動（児童アンケート結果69.6%）タブレットが導入されたことで、休み時間に運動しない児童が増えた。外で体を動かすことも大切にしたいと考え、20分休みはタブレットの使用を控え外での遊びを推進した。20分休みには担任が子どもたちとともに運動場で体を動かす姿も見られ、外で遊ぶことの楽しさにつなげた。体育実技の研修会を設けて教師間での学び合いを積極的に行い、授業改善に努めた。体育科の授業ではICT機器を活用し、児童の参加意欲を上げたり、運動技能の向上や学びの場づくりに活かしたりすることができた。また、運動会では6年生のリレーを復活させたり、5分間走や業間なわとびなどを全校的に取り組んだりして体を動かす機会が持てた。</p> <p>【健康教育・食育の推進】毎日朝ごはん（児童アンケート結果95.2%）1日2回以上歯磨き（児童アンケート結果91.6%）給食残菜ゼロ（児童アンケート結果88.9%）保護者アンケートでは、これらの項目に対して「お子さんは生活習慣が身についている」と思っているのは80.5%である。各家庭で習慣づくように学校と家庭が連携したり、学校保健委員会等で啓発したりして取り組みを進めたい。今年度は、受診を必要とする数が等が28件（R5年度4月から12月末まで）であったが、昨年とほぼ変わらず、この数年減少傾向である。今年度は、保健室の来室が3,328人（R5年度4月から12月末まで）となり、昨年度の1768人（R4年度4月から12月末まで）から2倍近い増加がみられた。不安を抱えている心のケアや教室での日々の取り組みについて、今後も継続して教職員で話し合っていきたい。</p>	

重点目標 3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【キャリア教育の充実】さしすせそ清掃（児童アンケート結果91.2%）あいさつ（児童アンケート結果91.2%）どちらも1学期に比べて数値は上がっている。清掃の様子を動画にして学級で視聴して自分たちの取り組みを振り返った。また、教師が率先して清掃やあいさつの大切さを伝える姿が増えた。▲保護者の30%があいさつができていないと感じている。学校・家庭・地域での取り組みの強化が必要である。</p> <p>【地域との連携】むかしあそび体験（1年生）さつまいもづくり（2年生）米作り体験（5年生）歌唱指導（6年生）など各学年で活動ができた。本校では地域の方々が熱心に活動の支援をしてくださっている。学校としても貴重な人材バンクとして連携を継続させたい。</p> <p>【防災・安全教育推進】地震や火災、交通安全、緊急避難下校などの訓練や安全指導を通して、防災に関する教育を実施できた。事後指導では、当日の取り組み方の反省だけでなく、過去の災害の動画を視聴したり、絵本や防犯ノートを活用したりして子どもたちの安全に対する意識を高めてきた。学校の取り組みに対する保護者へのアンケートでも肯定的な認識が83%ある。</p>	

重点目標 4	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	<p>【指導体制の充実】6年生、5年生では、国語・算数・理科・音楽・家庭・図工・書写・英語について、それぞれ担当する教師（専科や担任）がおり、一部教科担任制を行ってきた。「学年の子どもたちは、学年の先生で見ていく」という共通理解が進み、日々の情報交換を大切に進めてきた。学習面だけでなく、生活面等の情報交換も行い、子どもたちの学習面での課題や問題行動等に対して学年で取り組むことができるようになった。</p> <p>【特別支援教育の充実・支援の推進】特支CoやSC等が中心となり、校内のカウンセリングの充実を図ることができた。職員間での情報共有を定期的に行い、問題の早期発見・早期対応に役立てることができた。継続的に支援や見守りを必要とする児童が年々増加しているため、学級の児童支援を充実させていく。関わった職員や外部機関の対応記録を次なる問題の未然防止に役立てていく。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【教職員の資質・能力の向上】研究主題 主体的に学び合う子どもを育てる ～「わからせる」授業から「わかろうとする」授業へ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標を設定し、年間1回以上の提案授業 ・公開週間 6月と11月 <p>若手教員が多いので、主に授業づくりのリクエスト研修を行った。担当者以外の職員も講師になるなどして、主体的に研修に取り組むことができた。</p> <p>道徳の授業公開研を受けて、年度初めから計画的に道徳の授業を公開し、外部講師からの助言もいただき個々の力量を高め合う場を設定した。</p> <p>聴き合う関係や挑戦したくなる課題とはどういったものなのかを、全体でイメージが共有できるよう、研修委員中心でもっと取り組みを進めていく必要があった。</p> <p>【地域との協働】コミニティースクール会議において、保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、多くの意見を得られることができた。そして、それらの意見をその後の教育活動に取り入れることができた。</p>	

2 改善方針

【重点目標1 確かな学力の定着】

- ①独自の取り組みCRT検査や「みえスタディチェック」等の分析結果をもとにして、学習意欲を高める環境整備や授業改善に取り組み、課題の克服に向けた学習の充実を図る。
- ②家庭との連携を進め、主体的な家庭学習の取り組みの習慣化や、充実した読書活動による読書力の向上を目指す。

【重点目標2 こころとからだの健全な育成】

- ①人権教育・道徳教育の充実を図るとともに、深い児童理解に基づいた「なかまづくり」を推進していく。
- ②体力向上につなげるため、体育科の授業改善による質の向上、休み時間を活用した運動量の確保に取り組む。
- ③健康教育・食育の推進をしていく。

【重点目標3 よりよい未来社会を創造する力の育成】

- ①社会性を身に付け、正しい判断力・責任感を育てる。
- ②自分からすすんであいさつができる子、「さしすせそ清掃」を意識し働き続けられる子を育てる。また個々のよさが発揮できる場づくりと子どもが認め合える場づくりを進める。
- ③安全意識の向上を目指し、必要性を理解し自ら行動できるよう、日常的な指導を継続するとともに、教職員の危機管理意識を高めるための研修に取り組む。

【重点目標4 全ての子ども能力を伸ばす教育の実現】

- ①学びを支える指導体制の充実を図る。
- ②特別支援教育の充実を図る。
- ③「チーム学校」による支援の推進

【重点目標5 学校教育力の向上】

- ①自身の授業公開や同僚の授業参観を積極的に行い、自らの授業実践に取り入れる。
- ②研修会に参加し、学んだことを還流報告する。
- ③学校運営協議会（コミュニティスクール）を要として、学校と保護者・地域をつなぐ方策を検討していく。また、保護者や地域との連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実をはかる。
- ④学校行事、教育活動の見直しを行う。配付物の精選とデータ化を行う。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も「子どもの気づきをつなぎ、考えを深め合える授業づくり」を研修テーマとし、力点を「新たな気づきを生み出す教師の働きかけ」として、対話的な授業づくりについて考えてきた。</p> <p>朝学習の充実や個に応じた学習内容の取り組み（タブレットの活用）などを通して、基礎・基本の定着を図ることができた。一方で、個人差の大きく見られる教科について、十分な指導をするための時間確保が難しい。</p> <p>ミニ研として地域教材の活用、詩の指導法、人権、ICT関連、特別支援など、教師のスキルアップを図ることができた。</p>	
重点目標2	こころの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>不登校・不登校傾向の児童に対して、関係機関との連携を含め、校内で支援体制をより整備し、学校生活や仲間との生活を楽しめる態度を養えるように働きかけを行う。</p> <p>互いに認め合える学級・学年集団づくりを進めてきた。学校アンケートの結果では、児童において、-3%（R4→R5）となっている。なかまづくり研修の充実などで教師の指導力向上と児童の自己肯定感の向上を図る取り組みを行っていく。</p> <p>お話ビンゴや読書マラソンの取り組みや、月毎に学級児童の読んだ本の合計を掲示したり、学期末に表彰したことで図書室の来室が増えた。読書週間ではお話mamさんや教師、図書委員による読み聞かせなどを朝読の時間に取り入れたり、教師や児童のおすすめの一冊を掲示したりしたことで、読書の楽しみを共有できた。</p>	
重点目標3	からだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>体育科の年間指導計画を作成し、それに準ずる形で指導を系統的に行ってきた。また、コロナ禍による制限が緩和され、体育科の水泳指導や運動会の表現などにおいて、従来の取り組みが戻りつつある。特に、運動会については、組体操に向けた基礎練習を十分に指導に取り入れるなど、実情に合わせた指導を行ってきた。今後も継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>水泳は3クラスで入水した学年があったので、入水回数を増やしてゆとりを持って入れるようにしたい。</p> <p>学校保健経営計画を作成し、健やかな子の育成のために活動を行ってきた。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げ以降、感染症対策の意識が一気に低下した。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症・インフルエンザをはじめとする様々な感染症が流行した。そのため、引き続き家庭と連携し感染症対策に努めていきたい。また、自他の心身の健康に興味を持ち、自ら対処できるよう指導をしていきたい。</p>	

重点目標 4	未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>4月に火災を想定した訓練、12月に地震→津波を想定した保幼小合同訓練、2月に地震→火災を想定した予告なし訓練を実施。災害対応能力の育成のため、様々な想定で訓練を実施した。来年度は児童・教員の意識をさらに高めていくために、事前指導・事後指導のさらなる徹底を行う。例年通りにならず、学校の様子や情勢を考慮し想定を変更していく。</p> <p>本年度も、3年生「内部ホタルの里を育てる会」や「うつべ町かど博物館」、4年生「水道施設」、5年生「米作り」など、地域人材・地域教材を活用した学習活動を行った。</p> <p>4年生において、SDGsの17の目標を切り口に、ごみ問題や、人権問題など身の回りの自分事として考える活動を行った。</p>	

重点目標 5	個の理解と伸長	3
主な方策 成果と課題	<p>教育相談を年3回必ず行い、子どもたち一人一人たちと向き合う時間の確保をすることができた。また、個の成長と変化も見ることができた。一方で学級の数が多いところでは、一人当たり確保できる時間が短くなってしまふ。学校全体でバランスの取れた指導ができるとよいと考える。</p>	

重点目標 6	家庭・地域とともに歩む学校	4
主な方策 成果と課題	<p>通信やホームページを活用し、情報発信に努めた。ホームページについては毎日更新を目標にし、おおむね達成できた。また、学校だよりをHome&Schoolにアップロードし、いつでも見られるようにした。</p> <p>学びの一体化の取り組みを通して、情報共有や課題の把握、連携の取れた一体的な活動をすることができた。</p> <p>地域の人材、地域の教材を活用することで、地域に支えられた学校経営ができた。内容については、学年で相談し、年間計画に位置付けることができた。</p> <p>帰る時刻を自己申告し、勤務時間縮減に向けて意識改革を図ったが、定着したとは言い難い。ただ、実態としては、学校全体の平均勤務時間は改善傾向である。</p>	

2 改善方針

学校づくりビジョンの達成に向けて、各担当が活動を考えるだけでなく、学校全体がチームとして動き、コロナ禍からの復帰をスムーズに行うことができた。運動会のフル実施や地域との防災訓練など、久しぶりの行事も行うことができた。また、創立150周年の節目と言うこともあり、各学年が、児童の実態に合わせて発表・展示を行い、達成感も味わわせることができた。

別室登校用の教室の整備や、不登校傾向児童への働きかけなど、学校全体で問題を共有して対応及び未然防止を図りたい。

自己評価書

四日市市立 小山田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力（資質・能力）の定着	3
主な方策	①問題解決能力の向上のため主体的・対話的で深い学びとなる授業づくり ②ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを往還する学習の充実 ③すべての教育活動での言語能力・情報活用能力の育成 ④家庭学習の習慣化	
成果と課題	<p>○学力の向上をめざし授業での振り返りを大切にしてきた。学習してわかったことなどを自分なりに記述することは、学習内容や解決方法を俯瞰して考えることである。言語能力の育成や主体的に学ぶ意識の向上にもつながり、少しずつその成果が表れてきている。</p> <p>○教育活動でのICT活用が日常的なものになってきている。情報活用能力育成のため、学年ごとの児童の目指す姿を明確にした指導計画を作成し、さらに効果的な活用に努めたい。ICT支援員の支援によるプログラミング授業、ミライシードの効果的な活用など、個別最適な学びとなる授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりと共に、市のGIGAスクールアドバイザーの助言を生かしながら、校務のDX(デジタルトランスフォーメーション)についても推進していきたい。</p> <p>○自主学習の「プラス1」に取り組んでいる。家庭学習を主体的な学びとするために、自主選択学習を週末に取り組むなど、児童が家庭で意欲的に学習できるように指導・支援していく。</p>	

重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策	①想像力・探求心を伸長する読書週間の定着 ②「考え、議論する道徳」の時間の充実 ③運動好きの子どもの育成 ④すこやかなこころとからだを育む食育・健康教育の推進 ⑤防災・安全教育の推進	
成果と課題	<p>○日課を変更し、朝の読書タイムを設定し取り組んだ。日常的に読書することを習慣化したことで本を読むことへの抵抗感を減らすことができた。図書館まつりの内容も見直し、掲示物の工夫など本に親しむ機会も増やしている。さらに読書の楽しさを味わえるよう取り組みたい。</p> <p>○勝敗に重きを置くのではなく、個々の力をどう伸ばしていくかに重点をおき、自己目標を持たせるようにして実施している。目標を明確に示したことで、運動にねばり強く取り組める児童が増えてきている。</p> <p>○委員会活動で、伝言掲示板(デジタルサイネージ)を使って、毎月の食べ物紹介、給食の話、けが防止、熱中症対策等を適宜情報発信している。また保健指導を、発育測定後など定期的に実施し、その後保健だよりや学校放送で周知するようにした。食や健康について、タイムリーに注意喚起を行うことで、児童が関心をもてたようで効果的だった。</p> <p>○防災ノートを積極的に活用した避難訓練を中心に、安全教育についても、年間計画に位置付けて実施していく。今年度は水難事故防止の授業・交通安全指導(ヘルメット着用の必要性など)等を外部講師を招き実施してきた。児童の身近に潜む危険について実践的な理解ができるよう取り組みを推進していく。</p>	

重点目標 3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>①互いの違いやよさを認めあう人権教育の充実 ②特別活動を要としたキャリア教育の推進 ③基本的な生活習慣と自己指導能力の育成</p> <p>○ 四日市人権・同和教育研究大会での発表を通して、「なかまづくりの中心にすえる子」に焦点をあて、自分の実践を振り返り、意見を交流するなかで、教職員が「つながる」「知る」ことについて考えを深めることができた。</p> <p>○キャリア教育の推進において、「つながるカード」を活用し、特別活動を中心に学校全体で取り組んだ。児童が「どんな自分になりたいか」をめざし、3つの中からつけたい力を選び、取り組みのめあてを持たせた。取り組み後に、自分なりに振り返り、カードに記述し、教員は児童とその願いを共有し、指導・支援していく。これらの取り組みを重ねることで、大人数の前でも気後れすることなく自分の思いを表現しようとする姿が見られるようになってきている。</p> <p>○生活チェックシートの取り組みでは、保護者向けのたよりにて分析した結果をのせ、生活習慣の見直しについて啓発を促した。取り組み後の継続が課題であるため、児童への指導と共に引き続き理解と協力を働きかけていく。</p> <p>○夏季休業中に「道徳」に関わる研修会をとり、計画的に道徳の強化月間を設けて取り組むことで、「考え、議論する道徳」の時間の充実をめざしたい。</p>	

重点目標 4	地域人材・地域関係団体との協働・学びを支える学校づくり	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>①保護者・地域・関係機関との連携 ②地域の特色を生かした教育活動の推進 ③学びの一体化の推進 ④学びを支える指導体制の充実・特別支援教育の充実 ⑤学校公開、たより、HPで学校教育を発信 ⑥校務の効率化と健全な勤務環境づくり</p> <p>○コロナ禍も落ち着き、各行事について保護者・地域の方と協力して行うことができた。児童は、様々な行事や体験的な活動など「小山田ならではの」学びに取り組むことができた。また、それらの様子をたよりやHPで発信することができた。</p> <p>○学びの一体化では、中学校区で育てる児童・生徒の姿について3つの部会にわかれて協議している。中学校区で乗り入れ授業を行い、中学校教員による各小学校での授業実践により、中学校に向けての意識作りができた。</p> <p>○児童の情報共有を図り、指導・支援体制を組み対応している。SC、SSWなどと連携を密にして児童・保護者の安心につながるよう、きめ細やかな対応を心がけている。特別支援委員会を定期的開催し、支援が必要な児童について協議している。今後は、具体的な手立てを検討しその効果を検証しながら、さらに効果的な対応を探っていく。特別支援教育の充実に向け、サポートルームでの指導内容等を、ミニ研修やOJTなどでも伝える機会を設けていきたい。</p> <p>○行事等の取り組みや準備について効率的な仕組みを構築し、勤務縮減に引き続き取り組んでいく。</p>	

【様式1】

自己評価書

四日市市立 河原田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○読書活動の充実 ・国語の授業、朝の読書、図書館まつり、家庭読書の推進、貸出冊数の表彰等によって、読書の習慣化を図る。</p> <p>【成果と課題】 ・図書館まつりに参加する児童が増え、読書をする児童の姿が多く見られるようになった。一方で学校アンケートの読書時間については大きな変化は見られなかった。 ・論理的思考力の育成のために、考えるための技法（思考スキル）については、より意識して取り組んでいく必要がある。 ・児童の読み・書き・計算の力が弱いので、向上する取り組みを継続的に行う必要がある。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○体育科の授業の充実と体力の向上 ・運動の中心となるおもしろさを大切にした体育科の授業づくりを進める。</p> <p>○健康・安全意識の向上 ・養護教諭や栄養教諭と連携した保健指導や食育指導を進め、児童の生活習慣の改善を図る。</p> <p>【成果と課題】 ・体育単元計画会議や新5分間運動の研修等を通して、主運動につながる新5分間運動を意識した授業づくりができた。今後も継続していく。一方で体育科におけるICT機器の活用には十分ではない部分もある。必要性を考え活用していく必要がある。 ・保健指導と長期休業での家庭学習（生活リズムチャレンジ）を行うことで、規則正しい生活習慣を意識させることができた。また、栄養教諭を活用し、食育の授業や給食指導を進めることで、子どもたちの食育意識が高まった。</p>	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○災害等発生に係る各種訓練の充実 ・これまでのやり方を見直しをより実践に近い訓練を行う。</p> <p>○地域資源・地域人材を活用した教育の充実 ・体験的に学べるように実際に地域に出かけたり、地域の方に話を聞いたりしながら学習を進める。</p> <p>【成果と課題】 ・様々な想定をしながらより実践に近い避難訓練を実施したことで、子どもたちの意識づけを強めることができた。この取り組みを続けていき、様々な事態に対応できる力を育てていく。 ・実際に地域に行き話を聞くことで、意欲的に学ぶ姿が見られた。継続的に進めるためには、次年度に引き継ぎを行っていき、地域に根ざした活動が途切れないようにしていく必要がある。</p>	

重点目標 4	子どもの個性・能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「チーム河原田」での支援の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ SC, SSWと連携した相談体制の構築したり, 関係機関や専門家とも連携を図る。 ○日本語指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語指導の必要な児童への指導体制を整え, 支援が行えるようにする。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の特別支援委員会にSCとSSWも参加できる体制にしたことで, より専門的な意見を聞くことができ, 支援方法や対応策などを考えることができた。 ・ 日本語指導については, 翻訳作業を全てオンラインいずみに依頼することで, 週1回来校する指導員とは, より困り感の強い児童について情報共有するとともに, 児童を支援する時間を確保した。また指導員が来校しない日にはポケットークを活用して支援を行った。しかしながら, 外国にルーツを持つ児童は増える傾向にあり, 体制を組んでいても困り感のある児童へ継続して十分な日本語指導を行うことはできていない。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育 A d v の活用。 ・ CS 運営協議会で募集したミシンボランティアの活用、夏休みの学習会実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンボランティアさんが来校されたことで、家庭科での活動が充実した。 ・ 夏休みの学習会を夏休み期間の始めと終わりに設定したことで、二学期に向けて生活習慣の確立につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より地域連携を推進したい。具体例として次年度農芸高校と連携した学習会を開催し、学力向上につなげていきたい。 	

2 改善方針

<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より質の高い学びにつながる授業づくりについて、校内研修を中心に意識して取り組んでいく。 ・ 言語能力の育成、論理的思考力の育成のために、児童の学校での読書や実態を家庭にも伝え、啓発していく。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修委員会と各指導部が連携し、子どもが主体となる人権教育・道徳教育の校内研修の場を設定する。 ・ 児童の生活習慣の改善のための取り組みは、家庭と連携するとともに継続して行っていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 川島小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①「考える楽しさ」「できる喜び」を感じられる授業づくり ②主体的・探究的に学習を進める課題づくり ③ICTを活用した教育活動の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <p>○各学年で話し合いながら教材研究を行い、授業改善を行う事ができた。 ○物語文を使って、国語科のつきたい力を意識したり、各学年の指導内容の系統を確認したりしながら研修を進めることができた。 ○昨年度よりICTを活用した教育活動を意識して行う事ができた。タブレットがあることにより、意欲的に学習することができた。 ●教育活動アンケートでは、「授業はわかりやすいですか。」という項目では、94%の子どもが肯定的（十分・おおむね十分）に捉えている。それに対し「自分から進んで学習に取り組んだり、自分の考えや意見を発表したりしていますか。」という項目では、28%の子どもが否定的に捉えており、主体性に課題がある。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①各学年ごとに人権課題を設定し、年間を通して取り組む。 ②基本的な生活態度を定着させる。 ②いじめ調査・OU調査・教育相談を年間計画に意図的に配置する。 ③図書ボランティア、図書司書と連携強化を図る。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>○学年ごとの人権課題を設定し、計画通りに取り組むことが出来た。個別の人権課題に対してゲストティーチャーを招聘し、身近な課題としてとらえることが出来た。 ○川島小ガイドブックを作成し、1年間を通じて児童も職員も目に見える形で生活の決まりを意識することが出来た。 ○ブックママの読み聞かせ活動が再開し、児童が本に触れあう機会を増やした。 ●読書の時間がアンケートの結果減少している。タブレットPCが1人1台導入されたことで、タイピング練習やタブレット学習の時間が増え、読書の時間を削ってしまっている可能性がある。タブレットPCと読書時間の確保の両立を目指す。</p>	
重点目標3	健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①新5分間運動スタートブックを活用する。 ②防災及び安全教育に取り組む。 ③健康教育の充実 ④食育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <p>○5分間運動は、各学年の実態に応じて、多くの学級で取り入れることができているが、スタートブックの活用はまだ少ない。 ○昨年度に引き続き不審者対応訓練を行った。昨年度は職員のみで行い、対応時の流れを確認し、今年度は児童を含め、訓練を行うことができ、複数改善点を見つけることができた。 ●不審者対応訓練の当初の予定では警察などの外部機関に訓練方法の助言を求める予定であったが、先方との予定の折り合いがつかず、実現できなかった。 ○生活アンケートの結果や保健・食育指導の内容を便りに掲載し、家庭への啓発に努めた。また、生活習慣に関するビデオメッセージを学校医に依頼し、全児童に専門家からの助言を伝えることができた。 ○学校保健委員会（健康集会）を実施した際、児童保健委員によるむし歯予防に関するクイズや劇、学校歯科医への質疑応答を行うことで、自己の健康や生活習慣により関心を高めることができた。 ○昨年度より、給食の残菜量を大幅に減少させることができた。</p>	

重点目標 4	全ての子ども能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①個々の教育的ニーズに応じた支援の工夫を行う。 ②関係機関や保・幼・中との連携を図り・教育相談を充実する。 ③相談支援ファイルを活用し、情報の共有を図る。 ④教育支援課との連携と不登校対策委員会の開催</p>	
成果と課題	<p>○不登校対策委員会から登校サポート委員会に名称を変更し、定例で開催した。欠席日数や遅刻日数の客観的資料や児童からの聞き取り内容を元に、SCを含めたSSWとも連携を取りながら事案に対応した。</p> <p>○特支Coが中心となり特別支援委員会がきちんと機能している。</p> <p>○一日の流れや準備物等を口頭だけでなく、スクリーンに写したり、板書や掲示したりして可視化することができた。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①全職員が研修主題を意識した提案授業を1回は行う。 ②問題行動の早期発見、未然防止 ③コミュニティスクールとしての充実を図る。</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <p>○教育アドバイザーを活用しながら授業改善を行うことができた。</p> <p>○年度当初から計画的に、全体研や学年研の授業を公開し、実践を深めることができた。</p> <p>○見守り担当表を作成し、有事の際にすぐに駆け付けられる職員を確保した。また、校内独自の時系列の記録を作成し、事案にどのように対処したかの記録を残した。さらに全職員で共有できるようにした。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・「自分から進んで学習に取り組んだり、自分の考えや意見を発表したりしていますか。」にて、28%の子どもが否定的に捉えている。「発問の吟味」「課題解決の見通しの持たせ方」といった授業改善の視点をより具体的にもつ。 ・昨年度よりICTを活用した教育活動を意識して行う事ができたが、十分に活用できていない部分もある。子どもの学び方の選択肢が広がるように、また、校務の効率化を進めるために、ICT活用能力を高める研修会などを設定する ・不審者対応訓練、警察などの外部機関に協力を依頼し、専門的な助言をもとに、より迅速な不審者対応、安全な児童の避難方法を得る場をつくる。 ・4月から施行された子ども基本法に則った、四原則の趣旨を踏まえた取り組みが進まなかった。教員側からの指示だけでなく児童の意見を尊重する場を設け、児童の意見を受け止めながら共に学校を作る場を用意していく。 ・特別支援をサポートする関係機関一覧の作成を行う。誰がどのようにつなぐのか、対応が分かりやすくなるようフローチャートの作成を進める。 ・不登校児童の支援ファイル活用の在り方を検討していく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 神前小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	同和教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>同和教育は、本校の人権教育の基幹と位置づけている。人権総合学習・生活科やなかまづくりに取り組むことで、差別をなくすための行動ができる子どもたちの育成をめざした。2月には「人権集会」を行い、取り組みを伝え合った。また、「なかまづくり」では、日記作文指導・QV調査等も活用して、子どもたちとの向き合い方を全職員で考察しながら進めた。子どもたちとの向き合い方だけでなく教職員自らが差別心と向き合い、互いに高め合うことも確認し合うことができた。</p> <p>【児童アンケートの主な該当項目】（数字は4～6年児童4段階評価の平均）</p> <p>○自分や友だちを大切にしていますか。（3.5）</p> <p>○学校は、楽しい。（3.1）</p> <p>【成果】「このクラスの仲間に自分のことを話したい」と思える子が出てきたのは、これまで積み上げてきた部落問題学習となかまづくりの取り組みの成果だといえる。人文教活動の学習会でも、集会所について熱心に考え、自分の立場と向き合おうとする子どもの姿があった。</p> <p>【課題】部落問題学習について、今後も学校全体でさらに意識を高めていくための研修会等とを行い、共通認識のもと教育活動を進めていく。</p>	
重点目標 2	学びを高め合う授業づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>今年度も「聴き合い、伝え合う」ことができる授業を目指してきた。ICTを活用した小グループでの学び合いを増やしてきた。また、グーグルクラスルームを使って授業実践を交流することに取り組んだ。</p> <p>【保護者・児童アンケート該当項目（4段階評価平均）】</p> <p>○お子さんは、思いや考えを伝える力が育っていますか。（3.0）</p> <p>○あなたは電子黒板やタブレットを使った授業を受けていますか（3.7）</p> <p>【成果】多くの教科でICTを活用した授業の構築ができており、グループや少人数での話し合いにも一定の成果があった。</p> <p>【課題】「聴き合い伝え合う」という姿の子ども像や授業像とは何かということについて議論を重ね、その姿に迫っていけるような研修を進めていく。</p>	
重点目標 3	基本的な生活習慣の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>地域の取り組みとタイアップしてあいさつ運動に取り組む一定の成果があると地域から評価を得た。また、生活リズムチェック週間を年間3回実施し、意識して規則正しい生活を送るように指導した。家庭で行う自主学習の取組みを掲示し、意欲づけを行った。</p> <p>【保護者アンケート該当項目（4段階評価平均）】</p> <p>○元気の挨拶をする。（3.1）</p> <p>○家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身につけていますか。（3.1）</p> <p>○きまりを守って生活をする（3.4）</p> <p>【成果】各学期はじめに生活リズムチェックを行うことで、規則正しい生活を促すことができた。</p> <p>【課題】保護者と相談し協力を求め、生活習慣・学習習慣（タブレットやゲームの使い方等）の改善に向けた取り組みを進めてきた。特に、家庭での読書の時間の確保が難しいという結果から、さらに保護者との連携を深め、相談をしていく必要性を感じている。</p>	

重点目標4	一人ひとりを大切にした教育	3
主な方策	支援が必要な児童を学びから遠ざけない支援体制等について、校内支援委員会で検討し生指・特支の面から全校体制で進めてきた。家庭訪問に重点を置き、保護者と連携を図る取り組みを推進してきた。QUなどを通して教育相談の時間を大切に、個別に話す時間をとって、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。	
成果と課題	【保護者アンケート該当項目（4段階評価平均）】 ○学校は、保護者からの相談などについていねいに対応していますか。（3.3） ○学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.3） 【成果】上記の教育相談のほかにも、子どものつぶやきや綴ったものから子どもの心の奥にある思いをつかむこと、家庭訪問等保護者とのかかわりを深めながら背景をつかむことを大切にしてきた。それにより、学ぶ意欲が高まったり、学校に来やすくなった子ども姿がある。 【課題】支援員さんや介助員さんと子どもの姿の見取りや支援の方法など交流できる手段や機会が十分に取れなかった。	

重点目標5	地域に学ぶ：人とつながる取り組み	4
主な方策	「人と出会い、地域の人から学ぶ」人権学習をテーマに、人と人とのつながりに学ぶ学校を目指してきた。コミュニティーかんざき運営委員会の方を窓口とし、地域の様々な団体（同推協・仙寿会など）に、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動にご協力いただいた。	
成果と課題	保護者児童アンケート該当項目（4段階評価平均） ○学校は保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。（3.5） ○学校は、学校や授業を積極的に公開していますか。（3.6） 【成果】米作り、もちつき、もち米販売など多くの体験型学習を、コミュニティーかんざきの皆様のご協力のもと、実施することができた。また、授業参観や学校公開も、例年に近い形で行えるようになり、学校の様子を多くの保護者に届けることができた。 【課題】久しぶりに開かれた取り組みなど、より多くの方が参加できる体制を考えていきたい。	

重点目標6	安全・安心な学校づくり	3
主な方策	学校環境整備の面で、地域の人に関わっていただくことで地域との「つながり」が感じられる学校づくりを目指してきた。老人会（仙寿会）のみなさんには学校環境整備や児童の登下校の見守りをしていただくなど、安心・安全な学校づくりの確保に努めた。	
成果と課題	また、不審者対応訓練では地元交番の警察官にも参加していただくなど、地域全体で安全・安心な学校づくりに取り組んだ。 【保護者児童アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は昨年度）】 ○学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていますか。（3.3） 【成果】昨年度に増して、コミュニティーかんざき運営委員の方々やボランティアなど学校に来てくださる方が多く、児童自身が地域の方を身近に感じている。 【課題】防災の面では、まだまだ危機意識が薄いように感じている。普段から防災指導を充実させていきたい。	

2 改善方針

<p>6つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ」ことを本校の強みと位置付け、学校教育ビジョン実現を目指してきた。多くの地域行事が再開される中で、学校も全ての教育活動について「児童の成長に必要なこと」「地域との関係が深まること」を精選しながら、地域や保護者の力を借りて全職員で取り組みを進めてきた。今後さらに多面的に人権・同和教育を基軸に据えた「学ぶことが楽しい学校」の実現・継続についてさらに取り組んでいく。また、学校だよりやホームページを通して、より多くの姿を伝えることで、保護者・地域の協力をより得ることができ、保護者・地域も含めた地域とともにある学校になっていくと考える。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○話し合うことに重点を置いた研修をすすめ、協働的に学ぶ取り組みを意識的に授業に組み込むことができた。</p> <p>【児童】「みんなで考えたり、話し合ったりして学習をしていますか」 87%→96%</p> <p>○4月はじめに「桜スタンダード」といえる授業を提案し、どの先生と学んでも、桜小のノートの取り方・授業の流れで学習がスタートできるような研修を組むことができた。</p> <p>○家庭学習や読書週間、学習規律を定期的に指導していることで、習慣化につなげることができている。</p> <p>○朝学習の取組は継続したことで、習慣化してきた。今後も継続していきたい。</p> <p>○話し合うことの系統表を意識した授業づくりを進めるよう取り組みを行ったことにより、児童も教師も意識して授業に取り組むことができた。</p> <p>○ICTを活用した授業も増え、学習用具として確立してきた。今後もマナーやルールを継続して指導していく。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○運動会（スポーツフェスティバル形式）・5分間走・長縄チャレンジなど、行事として充実した取り組みができて、児童の体力向上につなげることができた。毎週水曜日の全校遊びデーを復活させることもできた。</p> <p>○地元の助産師さんにより「いのちの学習」を2・4年生に実施しており、命の大切さを学べた児童が多くいた。</p> <p>○栄養教諭を中心とした食育に毎学期、計画的に取り組み、給食指導を通して、食育を日常的に行うことができた。</p> <p>○仲間づくりの研修会を年2回もち、桜小の人権課題を共通理解して取り組むことができた。</p> <p>○教師によるシャッフル読み聞かせは、どの子も楽しみにしており、本にふれあう機会を増やすことに繋がっている。</p> <p>【保護者】「学校は保健指導・安全指導・避難訓練など通じて、健康で安全な生活が送れるように努めていますか」（98.2%）</p> <p>△熱中症警戒アラートのよる運動制限が多くあり、児童の体力向上の妨げとなった。</p> <p>△コロナ禍の体力低下により感染症に罹る児童が多くいた。</p>	
重点目標3	未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○今年度から、不審者対応訓練を実施するなど、様々な場面を想定しての避難訓練は実施できた。また、能登半島地震を受けて、避難三原則などの確認を児童にした。そのことにより、児童や職員の防災意識を高めることにつながった。</p> <p>○生活目標を子どもたちが主体となって考え全校に発信し、各クラスの取り組みを昇降口に掲示し見える化したため、全校児童が1つの目標を達成するためにみんなで頑張ることができたと思う。それに伴い、落ち着いて生活できる雰囲気も育ってきている。</p> <p>○防災ノートを活用し、6年間を見通した防災・安全教育を計画的に実施した。</p> <p>△自由登校をしていることもあり、交通安全教室は毎年、実施した方がよい。</p> <p>△「米作り体験」等では地域の方から学ぶ機会を作ることができたものの、その他の環境学習の取り組みが弱かった。今後、智積養水などについて、地域の方から学ぶ機会をさらに増やし環境教育の充実につなげていきたい。</p>	

重点目標 4	きめ細かな教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○高学年を中心に、学年に応じた少人数授業（算数科を中心に）に取り組み、児童の実態に応じた授業内容や展開を進めることができた。</p> <p>○見守りたい子シートを活用し、定期的に校内特別支援委員会を行うことができた。そして、必要に応じて、ケース会議を行い、児童の支援を検討することができた。SCやSSWや通級などの関係機関とつないだり、連携したりすることで、より一層きめ細やかな児童支援を進めることができた。</p> <p>【保護者】「学校は、家庭訪問や個別懇談などの教育相談の機会を使って、きめ細やかな指導を行うよう努めていますか。」（95%）</p> <p>△定例の会議時間が長くなってしまった。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○夏季校内研修会や校内研修会で、ニーズに応じた内容の研修会を実施することができた。また、還流報告会では、それぞれが学んだことを5分にまとめて交流し、学びを広げることができた。</p> <p>○ICTの授業での活用を進めるために、2学期からはGoogleクラスルームやジャムボードを積極的に利用し、まずは試してみることを大切にSOJTに努めた。実際に試してみることで、色々な活用法があることもわかり、授業でもICTを使う場面が増えた。</p> <p>○いじめ防止対策委員会を定例の年3回と、適宜、迅速に開催し、子どもが訴える内容についていじめとして認知し、解決・対策に務めた。その中で、SSWやSCをはじめとする関係機関との連携を図りながら家庭に寄り添うことができた。</p> <p>○いじめなどの事案が発生した場合、全職員で即座に情報の共有を図り、一貫した指導体制の構築に務めることができた。</p> <p>○学校だよりや通信、HP等を活用して、学校での児童の姿を積極的に伝えることができた。</p> <p>【保護者】「学校や子どもたちの様子が伝わっていますか。」 97%</p>	

2 改善方針

<p>【特別支援委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化に向け、対象児童や支援内容について資料をもとに、絞り込んでおく。 <p>【研修委員会】</p> <p>〈保護者〉「お子さんは学校の授業はわかりやすいと書いていますか」 よくあてはまる38.8% だいたいあてはまる53.1% 計91.9%（昨年とほぼ同値）</p> <p>〈児童〉「授業はよくわかりますか」 91% → 97%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子にも分かりやすい授業ができるよう、UDの授業の良さを今後も大切に引き継いでいく。 ・ICTの活用とあわせてデジタルシチズンシップ（デジタルを積極的に使って社会に参画する力）育成に向けてICT推進担当を研修委員会に設ける。 <p>【学習指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期ごとに、学習規律の重点項目を検討する。 ・ICTの活用を継続しながら、ルールやモラルの指導の徹底もしていく。そのために、さらなる研修を定期的に計画する。 <p>【生活指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、全児童を育てていくことを意識し、引き続ききまりや規律の指導を統一していく。 ・環境教育など、今まで桜小学校で取り組んできた地域教材や地域の方々から学ぶ取り組みを一度整理をし、今後、各学年で取り組んでいきたい。 <p>【健康安全部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由登校の現状を鑑み、『交通安全教室』をしっかりと位置づけ、安全に対する児童の意識向上を図る。 ・体力向上に向けて、日常の体育指導の見直しや休み時間の活用に加え、食育や姿勢保持等についても全職員が取り組む必要がある。 <p>〈児童〉「進んで体を動かしたり、運動したりしていますか。」 81% → 91%</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 県小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の基礎学力の定着を図るために、少人数指導や個に応じた指導、タブレットドリルの効果的な活用、朝学習や家庭学習での取り組みなどを行った。アンケート結果から、授業で習ったことはよくわかると回答した児童が増加した。今後も、ICT機器の効果的な活用や個に応じた指導により、一人ひとりの学力の定着を図っていきたい。 ・聴き合う関係やペア・グループでの活動を取り入れ、授業改革に取り組んだ。わからないという思いを出し合い、ジャンプの課題に挑戦させることにより、児童が主体的に学びに向かう姿が見られた。 ・各教科でICT機器を活用した学習を取り入れ、個人で情報を収集して自分の思いを話したり、自分の考えを裏付ける資料を示しながら話したりする活動を行った。 ・学年に応じたタイピングスキル向上のための目標と課題を設定したり、道徳や学年人権学習においてネットモラルについても学習を進めたりした。 ・今後は、情報を精選する力、自分で情報の真意を判断する力、個人情報や人権に留意した情報発信の手法についてさらに学習を深める必要がある。 	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足や「あがたっ子集会」等のきょうだい学年での交流を通して異学年集団の仲間づくりを図った。特に上級生にとっては、自分達の役割を意識しながら下級生を思いやるよい機会となった。 ・「あがたっ子委員会」を中心にあいさつ運動や募金活動等に積極的に取り組むことができた。 ・聴き合う関係づくりを通して、誰もが安心して自分の思いを出し合える学級づくりに取り組んだ。今後も思いや互いの生活を語り合える仲間づくりを進めていく。 ・図書館まつりの期間中は2冊貸し出したり、クイズを取り入れたりして図書館への興味を持たせる取り組みを行った。また、委員会で高学年が低学年に読み聞かせを行ったり、おすすめ本を図書室前に掲示したりすることで、読書の楽しさを伝える活動ができた。 ・貸し出し冊数が減ってきているの現状もあるので、さらなる活動が必要である。 	
重点目標 3	健康安全教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室、防犯教室を計画通り進めることができ、それぞれの学年に応じた安全教育を行った。常に安全に気をつける意識を持って生活を送っていくことが大切であるため、指導を継続していく。 ・水泳指導、運動会、業間縄跳び等、全校児童の体力向上に向けて計画的に進めることができた。また、休み時間に縦割り学級と遊ぶ時間を設け、遊び方が広がる取り組みを行うことができた。 ・食育、歯科保健指導、薬物乱用防止教室等を養護教諭、栄養教諭、学校三師が各担任と連携して効果的に行うことができた。 ・「あがたっ子の約束」をもとにルールを明確にすることができたが、廊下歩行や登下校などでは課題が残り、安全面が少し心配なところもあった。 ・毎週末、地区担当と班長児童が通学の様子について話す時間を設けたことで、子どもたちの様子を把握することができた。 	

重点目標 4	生徒指導・特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「あがたっ子の約束」をもとに、あがたっ子委員が毎月、月別目標や取り組みを呼びかけた。クラスでの取り組みの反省を行うことでさらに規範意識を高めることができた。今後もさらに意識を高めていけるように、継続して声かけを続けていきたい。 ・「シャポテン」を活用し、より丁寧に児童の心や体調の把握に努めることができた。 ・スクールカウンセラーによる児童の観察、保護者との面談、生特委員会での情報交換等、専門的な観点から助言いただけた。担任が普段気づくことができない児童の一面を知ることや、新たなアプローチの方法を学ぶことができた。 ・スクールソーシャルワーカーからより丁寧に子どもたちを見ていくための方法について学び、サポート・支援を受けられる機関を知ることができた。 ・全職員で児童の情報共有を行い、児童の特性や困り感に寄り添いながら、児童が主体的に取り組み理解できる授業や、誰もがともに学ぶインクルーシブ教育を行いたい。 	

重点目標 5	教師力・職場環境の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会での提案授業や公開週間で互いの授業を見合うことで、授業力の向上や指導方法の改善を図ることができた。日々の授業を見合ったり、「ジャンプの課題」を検討したりして指導力の向上に努めることができた。 ・行事の精選や業務改善を通し、ゆとりある誰もが働きやすい職場の環境作りを進める必要がある。 ・ICT機器の活用については、各学級によって大きく指導に差が出ることをないよう、校内研修等を通じて共通理解を図ることが大切である。加えて、教師自身がICT活用技術の習得をする必要がある。 	

重点目標 6	家庭・地域と協働する学校教師力・職場環境の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールとの連携や学習支援ボランティアの有効活用、地域資源の人材活用等、地域と連携した取り組みを行うことができた。 ・保健だよりを通じて、学校での体温調節を考えた過ごし方や感染症予防の具体的方策、また健康に過ごすための姿勢について保護者に発信することができた。 ・学校三師からは、学校保健委員会において『目の健康』をテーマに助言をいただいたり、薬物乱用防止教室を養護教諭と連携して進めたりと年間を通して連携することができた。 ・「あがたっ子の約束」を全世帯に配付し、保護者と共に子どもたちの規範意識を高めることができた。放課後音楽が鳴ったら帰宅すること、お金や物のやり取りをしないこと、SNSの扱い等について、今後も継続した啓発が必要である。 ・登下校では、地域のボランティアや県四日市西警察署県駐在所の署員と連携して、子どもたちの見守りができた。 	

2 改善方針

学校づくりビジョンを職員が日常的に意識して指導が進められるように、教育活動の反省を各学期末に実施し、職員が改善の意見を出す機会を確保した。保護者アンケート「学校の教育活動に満足していますか」では94.2%から肯定的な回答をいただいた。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が94.4%と多くの児童が肯定的に捉えていた。

コロナ禍が終息し、地域とともに「地域連携花壇定植」や各学年の生活科・総合的な学習の時間の取り組み、地域行事などが盛んに行われたことで、「目を見て話せる児童が多い。」と地域の方とのつながりを実感していただいている。

その一方で、教職員の多忙化が増したことも否めない。今後は、学校づくりビジョンの達成につながる取り組みを重点的に行い、保護者、地域と連携を図りながら、児童一人ひとりの思いを大切に、お互いに認め合える学校づくりを進めたい。

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実については「聞く・話す・書く・読む」力の定着を継続して図りたい。今年度は、話し合う力の向上を目指し、重点的に取り組みを行った。毎日の授業をはじめ、全校スピーチの機会を設けるなど、学校全体で話し合う力の向上を意識することができた。今後は論理的な表現が苦手な児童も多くおり、「書く」力の定着を図っていききたい ・「問題解決能力向上プロセス（四日市モデル）を基本にした授業づくり」では、「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」を研修主題とし、「学ぶことが楽しい もっと学びたいと思う子どもへ」を副主題とした授業実践を各学年に展開してきた。タブレット端末を授業で活用することで友達の考えを確認できたり、自分の考えを全体に伝えたりすることができた。 ・ICTを活用した学びの充実については、ミライシードや発表ノートGoogleClassroomなど効果的に使用していくことができた。教員のクラスルームを作り、毎日の予定の共有や地区別下校の欠席の把握など、業務の効率化をはかることができた。次年度に向けて、段階的に学年に応じたスキルアップ用の目標を設定していく。 ・少人数授業及び教科担任制による効果的な指導の充実では、4・5・6年生で3クラスを4クラスに分け、算数の少人数授業を行った。1クラスの人数が減り、個の課題に応じた学習指導が進められるようになった。また、学年の全クラスの児童を4人の教員で見られる機会になり、学年の実態がつかみやすくなって、児童の傾向に応じた指導ができるようになった。教科担任制では、学年の全児童に対し同じ学習指導ができ、クラスによっての指導の差が見られなくなった。教員各々にとっても全クラスの学習指導を行うことで、どのクラスの児童に対しても同じように生活指導を入れることもできた。今後に向け、教員が教科の専門性をもっと高めていかなければならないと考える。 	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが認め合うなかまづくりの推進では、友達とのトラブルを見逃さず、その場ですぐに対話をし、トラブル解消の場が心の成長の場になるように指導することができた。 ・「考え、議論する道徳」の充実では、道徳の授業だけでなく他教科の授業においても必ず自分の考えを持ち、それぞれの意見が出せるような授業展開になるように努めることができた。 ・「三つのやくそく（あいさつ・そうじ・時間を守る）」を中心に捉えた規範意識の向上では、「時間を守る」と「そうじ」への意識ができてきた。あいさつについても自発的にあいさつができる児童が増えつつある。 ・生涯を通じて健康に生きるための体力の育成については、全校で体力テストを実施し、共通の運動経験を積むことができた。また、5分間運動のミニ研修を行い、児童の体力向上につなげることができた。さらに、アスリートを招致し、運動への興味を高めることができた。 ・食育指導では、栄養教諭と担任が連携し、食育を進めている。さらに栄養教諭が給食時間に各教室を回って教諭と共に指導したり、献立に関連したパワーポイントの資料を作成し、それを児童に見せたりすることで、食育の充実化を計ることができた。保健指導では、学校保健委員会を通して、全校で健康に直結する姿勢について考えることができた。 ・読書環境の充実と読書活動の推進では、年間を通して低学年は毎朝の10分間読書の時間を設けた。また図書委員会や教師による読み聞かせ、図書ボランティアによる読み聞かせも学期に1度は実施するなど読書活動の充実にも努めた。毎月、家庭での読書を推奨するために「読書デー」を設定し、年間を通じて読書カードを利用して子どもが記録することで意識を高めることができた。 	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進に関しては、キャリアパスポートを活用したことで、児童が自分自身の成長を振り返るきっかけとなった。長期休みに入る前に家庭に持ち帰って保護者が一言コメントを書くようにし、家庭とも協力して取り組むことができた。また、出前授業でゲストティーチャーを招聘し、様々な職業の人と出会う機会を設けることで、児童が将来の展望を広げることができた。 ・特別活動の充実では、委員会活動の充実を図ることができた。代表委員会による挨拶運動、整美委員会による黙勤清掃の徹底、保健委員会を中心とした学校保健委員会等、それぞれの目標に向かって取り組めるように全校に呼びかけて、取り組むことができた。 ・危険予測能力の向上（安全教育・防災教育の充実）では警察による交通安全教室を行い、自転車を乗る上での危険性や予測される危険を学ぶことができた。また、配給訓練や防火教室、防犯教室などの安全教育・防災教育の充実につなげることができた。 ・子どもと向き合う時間の確保については、全担任の空き時間の確保を作り、児童と関わる時間が確保できるようにした。また、少人数教育や教科担任制の導入をしたり、専科の授業等、多くの教師で指導に当たり複数の目で子どもを見守り指導できるようにした。 	

重点目標 4	全ての子ども能力を伸ばす教育の実現～子どもと先生の笑顔あふれる学校づくり～	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内サポートルームの活用と校内支援体制の充実に関しては、サポートルームを大いに活用し、困り感のある子へのサポートができる支援方法を考えることができた。また、校内支援体制としては、特別支援委員会を充実させ、支援の必要な児童の把握や支援方法についての協議を深め、全職員で共通理解したうえで、対応することができた。通常の学級での支援をより充実させるために、学級でできる教室環境及びユニバーサルデザインや支援方法を共有し、学校全体で特別支援教育の推進を図っていく必要がある。 ・関係機関と連携したチームによる教育課程への対応に関しては、教育委員会における関係部署や地域コーディネーター、通常学級との密な情報共有を進めることで、迅速な対応や効果的な取り組みができ、一定の成果を得ることができた。教育アドバイザーに、特別支援学級での授業だけではなく、他の学級での授業の様子を見てもらい、適宜指導助言を受ける機会をとった。不登校児童への対応については、学校全体で情報共有を行い対応について考えた。今後も不登校児童への個に応じた適切なアプローチの仕方について考えていく。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の充実（チームで取り組む0次対応）については、各担当が声をあげ、管理職を交えた先を見据えた指導を行えるようにしてきた。対応が、一部の教諭にのみに留まることがないようにデータで残し、どの教諭も確認できるようにしてきた。 ・家庭や地域と連携した安全・安心な学校づくりについては、家庭からの困り感に寄り添い、関係性を深めることに努めた。また、保護者から学習ボランティアを募り、学習の支援や地域の交通安全に協力してもらうことができた。 ・地域資源や外部人材を活用した教育の推進については、地域の郵便局や交番、市民センター、消防団、地域防災リーダー、図書館ボランティアなど、多くの地域の方に協力いただけた。例年声かけをしていただき、地域と一体となって教育の推進を図ることができた。 ・教職員の資質・能力の向上（PDCAサイクルによる効果的な研修）については、各教諭が自己目標を年度当初に立て、学期ごとに振り返りを行い、自己研鑽に取り組んだ。積極的に研修会に参加したり、アドバイザーに授業の助言を受けたりする教員が多くみられた。 ・学校における働き方改革の推進（自律的な業務効率化）については、定時退校日の設定、弾力的な勤務時間の実施し、働きやすい環境づくりに努めた。また業務内容についても、スクラップ&ビルドを意識した業務効率化に取り組んだ。 	

2 改善方針

・昨年まで一つ一つの学校のきまりを守れない児童が多く見られたため、今年度黙働やチャイム席は、学校全体での指導を行った。その結果、きまりを守ることの大切さを実感する子どもの姿が見られた。一方、挨拶の声が小さいことがまだ課題として残るため、学校全体で取り組み、全職員も同じ指導ができるように徹底していく。

・定時退校日を設定したがなかなか全員が行うことができない。昨年以上に業務アシスタントやSSSを活用し事務仕事の軽減を行ったり教科担任制の導入や教材資料のデータ化を行ったりすることで教材研究の時間の確保に努め、残業時間の軽減につなげていく。

・体育科のミニ研修を行ったり、アスリート事業の活用をしたりすることで、体力テストの結果における体力の向上がみられた。来年度はさらに高められるように、今年度同様5分間運動や主運動、休み時間において、子どもたちがさらに運動に親しむ環境を作っていく。

・不登校児童への適切なアプローチの仕方を学校として考えていく。研修等で学んだ情報を共有したり専門機関に相談するなどをしていく。

・放課後の会議の削減やデータでの情報共有を行うことで、昨年度以上の業務の効率化を図ることができた。しかし、まだ十分とは言えず、今後も子どもたちに何が必要であるのかを精査し、行事等の精選をしていく必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大矢知興譲小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「四日市モデル」を軸とした問題解決能力向上のための授業づくりを行い、学習に問題解決の見通しを持たせるための「課題」と「ふりかえり」の習慣化を図った。また、児童の学習意欲が高まる授業展開を意識した指導を行った。 ・今年度の研修では、継続して「四日市モデル」の「第2プロセス」と「第4プロセス」に重点を置いて取り組んだ。児童が主体的に活動できる授業を目指して、対話を通して多面的に考察し、考えや思いを表現するために、ICT活用の視点から全教科でタブレット端末を積極的に活動し効果的なICT機器の活用について模索してきた。 ・ビジョンの重点項目として、「漢字学習」と「読書」を設定し、ビジョンの達成状況をはかる指針の一つとした。ともに十分な成果を得ることができ、教育活動の充実を図ることができた。 ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックを実施し、高学年の学習状況を図る指針として活用し、全職員で児童への教科指導で生かせるようにした。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人権、同和教育、道徳教育の充実については、子どもが主体となる人権学習の充実に努めた。また、安心して過ごせる学級づくり、仲間づくりの推進に係る人権学習では、各学年で重点課題を設定し、系統立てた学習を進めた。特に、仲間づくりについては、各担任が「核となる子」の設定を行い、まわりの児童の変容に重点を置いたレポートを作成し、よりよい学級運営につなげることができた。 ・児童アンケートでは「いじめや仲間はずれをせずに、友だちと仲良くしているか」「困っていることや悩んでいることを相談できる人はいるか」という項目で、肯定的回答が昨年度比で向上が見られたのは成果として挙げられる。 ・いじめ調査やQ U調査などを活用した教育相談の充実を行い、学年や管理職などと連携して、安心して過ごせる学級・学校づくりの推進に努めてきた。 ・自尊感情の高まりについては、アンケート結果から若干の高まりは見られたものの、依然として高い数値ではないため、引き続き次年度も注力して取り組みたい。 	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力の向上については、継続的に「5分間運動」を取り入れたことで、基礎体力の向上につながったととらえている。 ・体育の授業においても、めあてやふり返りを意識する授業展開を行い、指導者の運動効果に対する意識を高めてきた。児童アンケート「体育の授業を含めて、運動に進んで取り組んでいるか」では、昨年度比で4ポイントの上昇が見られ、成果を得ることができた。今後も教師間での実践交流を進め、日々の指導に活かしていきたい。 ・健康・安全意識の向上については、今年度も保健指導・食育指導を全クラスで実施し、安全教育の推進、自己管理能力の育成に努めることができた。児童アンケート「毎日決まった時間に起きたり、食事をしたりしているか」では、昨年度比で6ポイントの上昇が見られ、大きな成果が得られた。 ・一方で、交通安全に関しては、登下校の姿に保護者や地域の方から心配の声をたくさんいただいているのが現状である。交通安全意識をさらに高めていく必要がある。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修は、各学年で提案授業を計画・実践し、その都度研修会で検証することで、教職員の資質向上を図ってきた。また、各教職員が専門分野や得意分野を発揮しながら、ミニ研修会を開催し、個人の力量を高める機会を増やしてきた。学年間への還元を進めることで、さらに学校全体としての教育力を高めていきたい。 ・夏季研修では、教員が講師役となり、ICTに関する使用法や、指導について交流する機会を設けた。誰もが一定のレベルでICTを使うことを目標にして、スキルアップを図ることができた。また、今年度も大学連携事業を活用し、大学教授を招聘した研修会を3回開催した。大学教授の専門的な授業指導は新鮮味があり、これまでにない視点での授業分析に知見を深めることができた。 ・業務アシスタントの活躍は大きく、確実に教職員の子どもたちに向き合う時間の確保につながっている。心身ともに健康な状態で子どもと向き合うためにも、継続して職務の効率化を話し合い、働き方の意識改革の意識をさらに高めていきたい。 	

重点目標 5	保護者・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールとして、「興譲協議会（学校運営協議会）」の充実を図ってきた。毎回、教育課題となっている協議テーマを設定し、各委員より意見をいただくことで、学校運営の改善につなげている。協議会で示された意見や方向性は必ず職員会議で共有し、全職員で改善の意識化を図ってきた。 ・「家庭学習の手引き」を年度当初に配布することで、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを推進してきた。どの学年・担任でも統一感を持った家庭学習が進められるよう全職員で方針を確認し、保護者にも理解・協力を得ることができた。 ・学校や児童の様子を積極的に発信するために、H&SやHPを活用して情報発信に努めた。ただ、保護者アンケートの情報発信に関する項目では、昨年度比で若干数値が減少したため、今後情報発信の方法・内容について協議を重ねる必要がある。 ・今年度も地域人材を生かした学習支援ボランティアの積極的な活用により、効果的な授業支援につなげることができた。また、昨年度並みに平日・土曜日に学校公開を行い、保護者や地域の方に教育活動を公開する機会を設けた。 	

2 改善方針

<p>【重点項目 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用について、タブレット端末が学習ツールの一つとして児童への浸透は図られつつあるが、それが学力の向上、学びに向かう意欲付けにつながっているかどうかはしっかりと検証していく必要がある。何のためのICT活用かを年度当初に整理しておくことが重要である。 ・読書活動の推進については、ここ数年重点項目として取り組んではきているものの、家庭での「読書量」を増やすには時間に制限があることから限界を感じている。来年度も継続して読書活動を推進していくが、読書活動に関する目標設定について、家庭での「読書量」ではなく、「児童の意識化」に焦点を当てた内容にシフトしていく必要があると考える。 <p>【重点項目 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続したいじめアンケートの実施とそれに伴う教育相談を確実にを行い、安心して過ごせる環境づくりに努めていく。登校サポート委員会のさらなる充実を図っていく。 <p>【重点項目 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校における児童の体力面・健康安全面の課題を整理し、体力向上・健康意識の増進を高める取組を推進していく。 <p>【重点項目 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上に向けて、検証軸をしっかりと設定した職員全体の研修を確実に推進する。また、教職員のニーズに合わせた個別研修の充実を図るため、ミニ研修会開催など積極的なOJT推進に向けた体制を整えていく。 <p>【重点項目 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「興譲協議会」のさらなる充実を図るための体制づくりと保護者・地域への情報発信の方法を工夫していく必要がある。併せて、「家庭学習の手引き」がさらに定着できるよう、年度当初の配布時に保護者への丁寧な説明と協力を依頼していく。
--

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を図る。 ②言語（読む・書く・話す・聴く）活動を充実させ、読解力・表現力の育成を図る。 ③問題発見・解決能力向上のための授業づくりに取り組む。 ④効果的な少人数指導・教科担任制等を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ⑤ICTを活用した教育活動、英語教育の充実に取り組む。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・校内研修で、読解力向上を目指し、「20の観点」を意識した授業改善に取り組み、系統立てた指導ができた。また、考えを交流し深め合う機会を多く持った。子どもたちが、自分の考えを整理して書いたり、終わりまではっきりと話したりできるようになってきている。 ・朝の学習での漢字や計算などの学習に継続して取り組み、基礎的・基本的な学習の定着につながった。 ・「家庭学習の手引き」配付や学期ごとに家庭学習週間に取り組んだが、子どもたちが「進んで」取り組むには、課題が残った。主体的な学びになるよう、改善していく。 ・学年の実態に応じた効果的な少人数指導を行ってきたが、基礎的・基本的な学習内容の定着に十分な成果を得るためには、改善の余地がある。 ・「八郷小学校版ICT活用指導チェックリスト」をもとに系統立てた指導を行った。高学年ではローマ字での入力が速くできるようになってきている。グループやクラスでの交流場面などで効果的な利用を行っていきたい。</p>	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①人権教育・道徳教育の充実により、多様な人権を尊重し差別やいじめを許さない子どもの育成を図る。 ②いじめ調査・QV調査等の実施により誰もが安心して過ごせる学校・学級作りに取り組む。 ③自尊感情を高め、互いに支える仲間づくりに取り組む。 ④スクールカウンセラーや関係機関との連携のもと教育相談の充実を図る。 ⑤創意工夫による読書活動の拡充、読書環境の充実により、本に親しむ子を育てる。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・「自分にはよい所がある」と回答した児童が、過去数年間と比較し、5%アップした。子どもたちの良さやできたことを認めたり褒めたりするようにしてきたことや「ありがとうを伝えよう」のように、学校全体で取組を継続してきた結果と考えられる。 ・「いじめは絶対にいけない」と肯定的な回答をした児童が97%であった。今後すべての児童が「いじめを許さない」という思いをもてるようにしたい。 ・「図書館まつり」を年に2回行い、図書ボランティア・司書による読み聞かせや、各学年の学習に応じた図書コーナーの設置、児童による選書など、本に親しむ機会を増やしてきた。「読書は好き。」と回答した児童が増えた。</p>	
重点目標3	健康な心とたくましい体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①子どもが意欲的に運動に取り組むための、授業づくりや環境整備に取り組む。 ②「早ね・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活リズムの定着を図る。 ③学校保健委員会や学校三師等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組む。 ④栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導なども含め、食に関する指導の充実を図る。 ⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図る。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・休み時間に外遊びを推奨している。また5分間運動の実施など、運動量を確保する工夫をし、運動の質を高める取組を進めてきた。「運動や外遊びは好きです。」と回答した児童は前年比+4%である。しかし、コロナ禍により、3年間も遊び方や運動内容が制限されていた影響は大きく、子どもたちに運動する習慣や運動能力が身につけていないという実態がある。 ・子どもたちの中に、寝不足な様子や寝坊のため遅刻をする様子も見られる。コロナ禍により室内遊びやゲームに触れる機会が増えたことが原因と思われる。「心の天気図」に取り組む期間を年2回設け、子どもの心と体の変化にいち早く気づき、早期対応できるようにした。</p>	

重点目標 4	家庭・地域とともにある学校づくり	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①学校運営協議会を核として、保護者・地域と協働する学校づくりを進める。</p> <p>②学校支援ボランティアの参画（図書・クラブ・安全・授業等）による教育活動の充実を図る。</p> <p>③地域と協働し、地域の資源（自然・歴史・施設・人）を活かした授業に取り組む。</p> <p>④学校教育活動や、子ども達の様子の積極的な発信（学校だより・HP等）に努める。</p> <p>⑤実施したアンケートをもとに学校評価をいただき、学校経営の改善に努める。</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域・保護者との連携により、子どもの安全見守り・学習支援・体験活動・学校環境整備などを行うことができ、安心・安全な学校づくりができた。 ・「地域の行事に参加している。」と回答した児童は、前年比+8%である。普段から地域の方と学校で関わる機会が多いことや、「ふれあいパスポート」などの取組が参加を促進している。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <p>①各自の目標を達成できるように協働し、教職員の力量・資質向上をめざす。</p> <p>②外部講師の招聘や先進校視察を通して、授業改善・工夫した授業づくりに積極的に取り組む。</p> <p>③特別支援委員会、関係機関との連携を行うなかで、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。</p> <p>④いじめ・不登校等の未然防止・生徒指導に対して、早期対応ができるよう体制の充実に努める。</p> <p>⑤働きやすい環境を整え、子どもと向き合う時間の確保に努める。</p>	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教授の招聘や先進校視察を通して、授業改善に積極的に取り組むことができた。 ・いじめ・不登校などの未然防止、早期対応のため、校内での報連相や情報交換を密にし、毎週の児童情報交換・毎月末の特別支援委員会・登校サポート委員会、関係機関との連携等を丁寧に行ってきた。しかしながら、勤務時間外に対応することが増えており、教職員の働きやすい環境としては課題が大きい。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から家庭学習週間を設けて啓発を行ったが、児童が「進んで」家庭学習に取り組むまでには至らなかった。90%以上の児童は、「学習したことは役に立つ。」「授業はわかりやすい。」と回答し、学習の意義を理解し授業に熱心に取り組んでいることがわかる。授業と家庭学習どちらも意欲的に取り組むことで、理解が増えていくという意識を持たせていきたい。 ・すべての児童が「いじめを許さない」という思いをもてるように、「なかまづくり」研修やQU調査、いじめアンケート等を通して、全職員が児童一人ひとりを見守り、些細なトラブルも看過せず、きめ細やかな対応を行っていきたい。 ・SNSトラブルによるいじめが低年齢化しているにも関わらず、情報モラルについての教育、保護者への啓発がまだまだ不十分であるため、系統立てた指導を行うように取り組んでいく。 ・今後も、朝のあいさつ運動の様子を校内放送で発表したり、「ありがとう」の気持ちを相手に伝えることを月別目標として設定したりすることで、思いやりのある子を育て、学校を安心できる場所にしていきたい。 ・体力を高めるために、今後も外遊びを推奨しながら、いろいろな遊び方や体の使い方を教え、人や物との距離感をつかめるよう指導していきたい。その中で、ゲストティーチャー招聘などを通して、体を動かすと楽しいという経験を多くさせていきたい。 ・生活リズム向上の意識が高まるよう、今後も継続して児童に指導するとともに、家庭とも連携し、協力を呼び掛けていきたい。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 下野小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市モデルを基板とした校内研修において、「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業改善を積み重ね、子どもたちの問題解決能力の向上を目指す。 ・ICT機器を活用することで、児童が主体的に学ぶ場を設定する。 ・読書活動の推進として、読書週間や50冊認定、読書クイズ等の取り組みをして読書への興味関心を高める。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四日市モデル」に基づいて研修に取り組んだことで、児童のメタ認知能力の向上を図ることができた。 ・ミライシードの学習や「下野子どもまつり」の発表等で、児童がICT機器を活用した主体的な学習活動を通して、自らの学びにつなげることができた。 ・児童への学校評価アンケート「本を読むのが好き」の回答が、73.4%と4人に3人は「本を読むのが好き」となり、読書活動への意欲は高いととらえている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器のより効果的な活用を目指し、教職員及び児童のICT活用のためのスキップアップが必要である。さらに、ICT機器の利便性だけでなく、安全に活用するためのリスクやマナーについても指導を重ねていく必要がある。 	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別を許さない「なかまづくり」の推進により、児童が安心して過ごすことのできる「クラスづくり」と「なかまづくり」、「学校づくり」を目指す。そのための教職員の人権学習や研修を行っていく。 ・児童が自ら考え行動し力を伸ばしていける場を設定をする。 ・体育指導の充実による体力づくりを推進する。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の「なかまづくり」研修を行い、教職員の人権意識に対する研修推進ができた。 ・11月の学校公開に合わせて人権学習を公開し、保護者への啓発を行い、人権感覚を高めることができた。 ・全学年の体力テストの実施、縄跳び週間、5分間走等、体力向上に向けての取り組みを全校で行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの期間でできる運動に制限があったことと、体力低下が心配される。今年度の体力テストの結果を基に、体力面での向上を目指した取り組みを考えていく必要がある。 	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携授業の全学年の実施、「ようこそ先輩」の学習、「シイタケ菌うち体験」や「下野梨園」等、地域・保護者による人との出会いから学ぶ教育活動の推進を行う。 ・自尊感情を育み、人権感覚を高める取り組みの推進。 ・防災・防犯訓練による児童の安全に対する意識の向上。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も地域の人材を活用した地域連携授業を行い、人や地域から体験的な学びの積み重ねができています。 ・四日市公害の学習において、公害をなくそうと奮闘した人々や当時の資料、「四日市公害と環境未来館」の見学、語り部の話等の学びを通して、自分たちの住む町「四日市」に対する愛着を高めることにつながった。 ・登校指導や日常の学級指導、児童会のあいさつ運動によって、あいさつの習慣が身についてきた。 ・防災・防犯訓練を行ったことで、児童の防災・防犯意識が高まった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を取り入れた学習の推進が課題であるが、児童会を中心とした空き缶回収を行うことができた。各学年で、SDGsに関連した学習計画を取り組む必要がある。 	

重点目標 4	全ての子どもを伸ばす教育の実現	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の教科担任制による指導の実施。 ・個別学習等が必要な児童に対してサポートルームや個別指導対応等、個に応じた支援体制を学校全体で組み指導する。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「教科担任制の授業は分かりやすいですか」の問いに対して、97%の肯定的回答が得られた。 ・特別支援コーディネーターによる要支援児童の共通理解や支援体制を、学校として取り組むことができた。 ・「下野子どもまつり」では、子どもたちが協働し、学習の成果を活かした主体的な活動に取り組んでいた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童に応じたきめ細やかな支援や指導に向け、より研修や研鑽を積み重ねていく必要がある。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質・能力向上のため、校内外研修の充実や情報交換等を行う。 ・地域と協働した教育活動の推進をする。 ・保護者地域への適切な情報発信をする。 ・西朝明中学校区「学びの一体化」、幼保小中の連携強化を行う。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市モデルを意識した授業研修を学校全体として取り組んだことから、児童も教職員もより深い学びを意識した学習に取り組むことができた。 ・問題行動や地域からの安全に関する情報等を職員も共有し、保護者、地域に情報発信しながら組織的な対応で安全指導を行うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総勤務時間数の縮減に向けて、研修と教材研究の時間の確保ができるように、意識改革や定時退校日の実施に取り組む。 	

2 改善方針

- ・児童アンケート「学校は楽しいですか」では、92.5%の児童が学校が楽しいと感じていることが分かった。学校が安心・安全で楽しく学ぶことができる場となるように、保護者、地域と連携しながら明るく活力のある学校の姿をめざす。
- ・学習活動の制限がなくなったことから、学校づくりビジョンを基に、子どもたちが主体となり、自らの力を伸ばしていける学習活動を企画し、実施していくようにする。
- ・ICT機器活用の効果的・系統的な指導や活用を目指して、具体的な計画や系統図等を作成し、指導に活かす。
- ・全学年の体力テスト実施の取り組みを今年度から始めた。それを継続することで、本校児童の体力面での成果と課題を明らかにし、児童の体力向上や系統的で効果的な指導ができるように、年間計画の見直し等の取り組みを進める。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 水沢小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の伸長	3
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉 ○研修主題の副題に「ICTの効果的な活用」を入れ、確かな学力をつけるための方策を考えた。教育支援課より指導主事を招いて、授業改善のための「ミニ研修」を実施し、教職員間での学びを深めた。また、ICTサポーターを招聘して、プログラミングやタイピングの授業を実施した。学年に応じて段階的に力をつけることを目的とし、毎学期末に全学年で「ICT活用能力シート」での振り返りを実施し、全校での定着度を確認することができた。</p> <p>○特別支援教育支援員の配置により、少人数での学びや個別の学びに対応することができ、児童への指導や支援を充実させることができた。</p> <p>〈課題〉 ○ICTを活用した授業改善については、職員の活用頻度やスキルによって差が出てしまう。日々の授業を見合う等のOJT研修により、職員全体でのスキルアップを図りたい。</p>	
重点目標 2	水沢と共に育つ子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉 ○運動会で、コミュニティ競技として「玉入れ」と「水沢音頭」を取り入れた。事前に踊りを教わる時間をとり、当日は児童、保護者、地域が一体となって楽しむことができた。</p> <p>○地区文化祭とコラボレーションした授業参観では、全学年が地域の方から学ぶ授業を実施した。地域の読書指導員による読み聞かせも始まり、積極的に地域と関わることができた。また、「学習茶園でのお茶栽培」「米づくり」「花いっぱい活動」「SSピンポン」「ポッチャ」「白寿会との交流」「三重茶農協見学」等、地域の産業や自然を学ぶ機会を多く設定することができた。</p> <p>〈課題〉 ○受け身の体験活動に留まらず、児童が自ら考え工夫できる活動となるよう、地域の方々と相談しながら内容を精選して取り組ませたい。</p>	
重点目標 3	確かな人間性とコミュニケーション能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉 ○遠足やなわとび記録会を縦割り班で実施した。児童数の減少でクラス人数が少なくなる中で、縦のつながりを大事にした取組をすることでルールを継承し、行事を継続させることができた。</p> <p>○全職員が、週1回児童の情報共有の時間を持つことで、学級の困難な状況を担任任せにせず、早期に対応・解決することができた。また、困り感のある児童や保護者への支援を続けるためにケース会議を開き、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等から専門的な助言をもらい、支援に活かすことができた。</p> <p>○小規模校対策事業により、オンラインや現地合流で他校とともに学習し、コミュニケーション力をつける機会を持つことができた。</p> <p>〈課題〉 ○小規模校対策事業の相手校との相談を、早期にすることでもっと交流することができる。児童のために学校同士の連携を密にし、充実させたい。</p>	

重点目標 4	地域と連携した安全・健康・体力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域マネージャーの方と連携し、4年生は「防災倉庫」の役割について教わりながら見学することができた。3年生は「市民センター」を見学し、地域の消防団の方からお話を聞くことができた。 ○PTA地区委員の方を中心として、一斉通学路点検を実施し、児童にとってより安全な通学路の環境整備改善につなげることができた。 ○学期に1回「交通安全・あいさつ運動キャンペーン」を実施し、地域関係者の方々、PTA、学校職員がとに児童を見守る機会を持つことができた。 ○ため池が多い地区のため、水難事故に備えての「着衣水泳」、1年生には4月に「交通安全教室」6年生には中学校での自転車登校に備えて3月に「自転車教室」を実施した。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全だけでなく、継続的な体力向上にむけた教育活動にも取り組みたい。 	

2 改善方針

○ICTを活用した授業改善については、職員の活用頻度やスキルによって差が出てしまう。日々の授業を見合う等のOJT研修により、職員全体でのスキルアップを図りたい。

○受け身の体験活動に留まらず、児童が自ら考え工夫できる活動となるよう、地域の方々と相談しながら内容を精選して取り組ませたい。

○小規模校対策事業の相手校との相談を、早期にすることでもっと交流することができる。児童のために学校同士の連携を密にし、充実させたい。

○安全だけでなく、継続的な体力向上にむけた教育活動にも取り組みたい。

○台風や大雨、大雪等の場合、学校運営協議会やPTA、市民センター、近隣校と連絡を取り合い、通学路の安全を調査し、下校時刻の変更や休校等の判断を臨機応変にしたい。

○学校行事や授業の中に、地域の力・人材を取り入れていきたい。

自己評価書

四日市市立 保々小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	主体的・協働的に学ぶ授業づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまとともに、自ら課題解決しようとする授業づくり。 ・なかまの思いをきき取り、自分の思いを話すことができる子どもの育成。 ・本時の学びを振り返る活動を大切にしたい授業づくり。 ・授業をはじめ、様々な活動で「書くこと」を大切にする。 ・運動好きの子どもを育てる授業づくり。 ・ICT機器を活用し、他者と協働的に課題を追求する活動。 <p>成果と課題</p> <p>子どもたちが主体的となるような授業づくりを日々行っているが、子どもたちが自分で問いを持ち、解決していく授業は十分にできていない現状がある。また、自分のことを相手に話しているかというところでは、学校評価アンケートの結果からみると、児童と保護者の評価は低いが、教師はできていると捉えているところがある。教師が行う授業の中では、子どもたちが本音を話しやすい環境づくりが行えているが、日常生活の中で自分たちだけで行動できているかと問われると、子どもたちは難しいと捉えているのではと考える。</p> <p>体育の授業におけるICTの活用状況は、教師によって差がある。良い実践があれば、それを広めていける手立てが必要である。また、学校全体として、運動好きの子どもの割合が低いため、運動好きの子どもを育てていく手立てが必要である。</p>	
重点目標 2	支え合うなかまづくり	3
主な方策 成果と課題	<p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまの考えや思いをきき合い、語り合うことを通して、自尊感情を育む。 ・人権問題に気づき、差別をなくそうとする子の育成。 ・多様性を認め合う、互いの生き方に学び合う人権総合学習・生活科への取組。 ・お互いを認め合う学級づくり。 ・委員会や係活動などの自主的な活動や掃除への取組。 ・ルールやマナーの順守など道徳心の修得。 <p>成果と課題</p> <p>人権総合学習・生活科の取組に関しては、どの学年も子どもたちの課題からつけたい力を考え、人権課題を通して何に気づかせたいのか、どの力をつけたいのかを考え取り組むことができた。なかまづくりに関しては、子どもたちのことを教師がどう見取っていくかという課題がある。そして、差別をなくすことの知識はついてきているが実践が伴わない子どもたちの姿がある。</p> <p>「時間を守る」「スリッパをそろえる」などのルールやマナーについては、委員会による啓発活動や各学級独自の取組などを通して、子どもたちが主体的に取り組むことができていた。一方、取組直後は守られていても、しばらく経つと意識が低くなる様子が見られ、定着とまでには至らないことが課題である。</p>	

重点目標 3	組織的かつ計画的な支援体制づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力充実タイムによる基礎学力の定着。 ・こども園小中高が連携した支援体制づくり。 ・図書館の整備。朝の読書を通じた読書好きな子の育成。 ・場に合わせた挨拶ができる子の育成。 ・特別支援教育の充実。 ・家庭と連携した生活習慣（早寝早起き朝ごはん）定着、自主的な読書習慣、家庭学習定着の取組。 <p>成果と課題</p> <p>基礎学力定着タイムである程度取組はできている。家庭学習も定着してきているが、チェック週間での読書ができていない実態がある。また、支援を必要とする子どもへのアプローチの仕方をみんなで考えたりすることができなかった。</p> <p>運営委員会の「あいさつ運動」の取組を通して、学期初めに学校全体であいさつする意識を高めることができた。また、声には出さないが会釈するようになった子、相手の目を見て言えるようになった子など、少しずつあいさつの仕方に変化が見られている。自分からあいさつする子は高学年に多く、低学年・中学年の意識をより高めていくことが課題である。</p> <p>定期的に行っている図書館まつりによって、子どもたちが本に興味を持てる機会を作ることができた。ただし、読書習慣が身に付いている子どもは、学校全体として依然少ない。子どもたちが本に親しめる機会を、さらに増やしていかなければならない。</p>	

重点目標 4	地域に学び・人がつながる学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人がつながる活動への取組。 ・人権総合学習・生活科の活動に地域の方に学ぶ・人とつながる活動の積極的な取り入れ。 ・授業参観、懇談会、講演会、保々のつどい、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民の参画の更なる推進。 <p>成果と課題</p> <p>「保々の自然に親しむ会」の方々や地域で農業に従事されている農商工連携アドバイザーの方にご協力いただき、米作りや芋の苗付けと芋掘り、大豆、野菜の栽培の体験活動を行った。稲刈りや大豆の収穫体験、豆腐・きな粉づくりにも取り組むことができた。子どもたちは保々地区の農業や豊かな自然を体感するとともに、農業振興や自然保護に携わる地域の方々の願いや思いを知り、自分の住む地域や自然を大切にしようとする生き方づくりをすすめることはできた。</p> <p>学級懇談会を2回実施し、保護者が学校の取組を知るとともに、学校への意見を伝える場とすることができた。また、地区懇談会を数年ぶりに実施し、保護者の思いを知るとともに、保護者同士がつながる場とすることができた。</p>	

重点目標 5	安全・安心な学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと共に、子ども・保護者の心のサポートへの取組。 ・いじめ、なかまはずしのない学校を、子どもたちと保護者・地域と共に創出。 ・学校・学年・学級だより、ホームページを通して、教育活動のねらいや子どもたちの姿、学校の様子を積極的に発信。 ・安全への理解を深め、的確な判断のもとに行動できる子の育成。 ・感染症対策に考慮した学校運営。 <p>成果と課題</p> <p>保護者・児童がSCにカウンセリングを受け、学校とのつながりや登校への思いを強くすることができた。。一方で、SCにうまくつなげられなかった家庭もあるので、より周知することやつなぐためにどうしたら良いかを考えていく。</p> <p>それぞれの職員が、他の職員・保護者・SC・SSW等と密に連携をとりながら、児童の課題に寄り添い、丁寧な対応に努めている。また、より具体的な協議や検討が必要な場合にも、「いじめ防止対策委員会」「生徒指導・特別支援委員会」を活用し、組織的な対応を図ることができた。一方で、時間的制約のある中で、SCとの連携を密にとれなかったという反省や、不登校児童を受け持つ担任の負担についての課題も挙げられている。</p>	

2 改善方針

<p>授業づくりにおいては、子どもたちが自分たちで考え、選択し、行動できるような機会を教師が意図的に作ることで、そして子どもたちの思いを出せるような、オープンエンドな発問や互いの関係を認め合えるような取組を行っていく必要がある。</p> <p>なかまづくりの基盤となる子どもをどう見取っていくかということ教師同士がもっと話していかなければならない。3年生以上はOUを用いて学級課題、そしてその子がなぜ集団から遠い位置にいるのかについて、話し合い、その後もう一度教師自身が子どもをどう見ているのかに戻る場面を作っていくことで、もっと意図的な取組が増えていくのではないかと考える。また、差別をなくしていくためには、自分のことを見つめ、問い続けることが必要である。日常生活の中で教師が子どもたちに立ち止まらせ考えさせるかということに意識して取り組んでいく。</p> <p>運動好きの子どもが少ないという学校の実態から、体育の授業づくりに関する研修は必須である。それが行える時間の確保を、他の指導部とも連携して進めていかなければならない。体育の授業におけるICTの活用に関しては、それを活用することによって得られる学習効果を考慮して進めていかなければならない。器械運動領域や表現運動領域の授業においては、ICTを活用することが有効に機能することが多い。まずは、その2領域におけるICTの有効活用について、研修を行ってきたい。読書の定着には、週末の家庭学習で読書を出すことや朝の学習の時間に読書を必ず設けていくなど、子どもたちが読書をする機会を増やしていく必要がある。また、合理的配慮や個別支援の方法については、校内研修などでみんなで学び合う機会を設ける。</p> <p>運営協議会委員を中心にそれぞれの部会において、様々な体験活動に取り組んでいただいた。今後も地域人材の専門的な知識・技能を活かし、地域と共に子どもたちを育てていきたい。</p> <p>生徒指導においては、職員間で課題の捉え方や指導に対する認識のずれが生じていることが課題として挙げられる。本年度末までに見直しを行い、どのような指導で統一していくか決定した上で、来年度に引き継いでいく。また、本年度は年度初めに「生徒指導上の共通理解事項の確認」を行ったが、年度初めだけでなく、学期毎等、学校全体の様子や状況をふまえて職員間で情報共有を行い指導を図っていけるように引継ぎを行う。また、児童への指導の際は、きまりを守らせることだけを指導するのではなく、安心・安全に過ごすために、なぜ守らないといけないのか児童に考えさせ、対話を大切に指導していく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 泊山小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">○朝の学習における計算練習や漢字練習への取組○算数科における3年生のTT指導、4～6年生の少人数の習熟度別クラス編成 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・プリントやドリル学習、タブレット学習を進め、学習内容の定着や前日の学び直しにつながる学習とすることができた。・習熟度別のクラス編成の際には、レディネステストと児童本人の意向を合わせて考慮し、児童の実態に合わせたコースで学び、学習意欲を高めることができた。2学期より3年生でも習熟度別に学級を分けたり、算数が苦手な児童のコースをより少人数にしたりすることで、さらにきめ細やかな指導を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ICTの活用を進めているが、児童の習熟度に差ができています。・授業を理解している児童の学力をさらに上げる手立てが不十分であった。	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">○運動の面白さを体感できる体育科の授業づくり○食育・保健指導の充実○今日的な課題と特別活動や様々な教科等を関連付けた授業づくり <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちが「楽しい」と思える授業づくりや休み時間などに運動に親しむ環境づくりに努めた結果、運動が好きな児童の割合が増えてきた。・一人ひとりを大切にする学級づくりについて研修を進め、自尊感情が少しずつ高まりつつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・「安心して生活できる」学校づくりに関して、さらに研修や活動が必要である。子どもの心の声や生い立ち、家庭背景をつかむことをより大切にしたい。	
重点目標 3	未来を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">○主体的に取り組む清掃、当番、係、委員会活動等特別活動の推進○地域の人材と資源を生かした生活科、総合的な学習等の充実 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童会、委員会活動で子どものアイデアを取り入れたり、子ども自身が自主的に動けるような取り組みを進めたりすることができた。・梅ちぎり、梅林史、南部丘陵公園探検、防災教室等学年に応じた取り組みができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリアパスポートの活用についてさらに研修し、児童の成長を振り返るツールとして利用したい。・各活動にSDGsの意識取り入れるために、年間を通じての活動の見通しをもつ。	

重点目標 4	個の理解と伸長	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導体制と特別支援教育指導体制の両輪化 ○登校や学習に苦戦する子どもの指導の工夫 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会に生徒指導の視点を取り込み、子ども一人ひとりの課題を多角的に捉える取り組みを進めることができた。 ・登校に課題をもつ児童を指導するにあたり、学校・家庭・地域で協力体制をとることができた。サポートルームを活用し、個別の課題をもつ児童への支援を充実させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの保護者とのつながりを意識し、課題に対して早期に対応出来る環境を整えておく。 ・登校に課題をもつ児童の受け入れ態勢を整えるための教職員が不足している。 	

重点目標 5	地域との協働	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施 ○ホームページでの教育活動の内容や様子の発信 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートで保護者から概ね肯定的な評価を得られ、泊山小学校の教育活動に対してご理解・ご協力いただいていることがわかる。 ・ホームページでは、毎日子どもたちの様子を伝えると共に、行事予定やPTA活動についての記事も随時更新することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズに応えた活動を進めていただくために、活動をコーディネートする役割を担う人を確保し学校の負担を軽減していく。 	

2 改善方針

【重点目標 1】

・基礎学習の定着を図り、習熟度別の少人数教育におけるそれぞれのクラスの特性を理解したうえで、児童が主体的・対話的に課題に取り組めるよう授業改善を推進する。

【重点目標 2】

・体を動かすことの心地よさや心身の健康の大切さを感じ、自ら工夫しながら成長していく自分を肯定的に捉えられるような活動を展開する。

【重点目標 3】

・学校や学年、学級のために主体的に活動できる場や時間の確保について年度当初に検討し、見通しをもって計画的に進める。

【重点目標 4】

・登校や学習に苦戦する子どもの居場所づくりを工夫し、誰もが安心して登校できる学校づくりを進める。

【重点目標 5】

・コミュニティスクール運営協議会を中心としたボランティア活動について準備を進める。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

評価欄

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現のための「学び合い」を意識した授業づくりに取り組んだ。5つのプロセスのうち「深める」に重点をおき、「深める」とはどのような姿なのかを全職員で共有し、「どう深めるのか」「何を深めるのか」について考え、授業づくりを行った。 ・ペア・グループ学習やコの字型の座席配置などを取り入れ、児童の学び合う姿を教師が意識しながら授業づくりに取り組んだ。 <p>2 ICTを活用した教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を「資料提示としての道具」「個人の探求・個人の考えを深めるツール」として使うことで、全体で学びを深めることにつなげていった。 ・スクリーンメニューのポジショニング機能を活用することで、学びを深めることにつなげられた。 <p>3 学校教育活動全体における言語活動（読む・話す・聴く・書く）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動において、言語活動の充実を図ることができるように、校内研修をさらに深めていく必要がある。 ・様々な制限のあった昨年度に比べ、多くの学習でペア・グループ活動を取り入れることができた。低学年から、聞き手を意識した話し方や話し手を意識した聞き方なども伝えることができた。 	

重点目標 2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>1 人権教育・道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てた人権教育カリキュラムに沿って、あらゆる人権課題を6年間で落とさないように学習することに努めた。 ・人権的な課題に対しては、子どものサインを見逃さず、何か問題が起こったときは学年集団で対応を協議し、全職員で情報を共有しながら指導に当たることができた。 ・今後も、様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を日々見逃すことなく把握するとともに、人権感覚を養う指導をしていく必要性を再確認した。 <p>2 読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア、図書委員、司書等による読み聞かせの機会を設定し、多くの本と出会うことができるようにした。 ・図書館まつりを年2回企画したり、電子図書の活動を推進したりすることで、読書活動の充実に向けて取り組むことができた。 <p>3 体力・運動能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年での体力調査、全校での縄跳びチャレンジを実施した。 ・授業のはじめに本時の課題を提示し、めあてをもって活動に取り組ませることができた。また、授業の終わりにはワークシートを使って振り返りを行い、次の活動へと繋げていくことができた。 ・5分間運動を実施するなど、運動量が多くなるように意識して授業づくりを行い、体力の向上を図った。 <p>4 健康教育・食育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携し、昼の放送で給食のメニューについて紹介したり、食育の授業を行ったりした。 ・食に興味を持たせるために、掲示物を作成し掲示した。また、食品ロスを減らすことを呼びかけ、食の大切さを意識させていくことができた。 ・子どもロコモ防止への啓発の授業を行った ・月に一度「メディアチェックデー」を設定し、メディアの使用頻度を減らす啓発活動を行い、メディアの使い方を見直させる機会となった。 ・養護教諭と連携し、全学級で歯磨き指導、保健指導を実施した。 	

重点目標 3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p><u>1 吉田山をはじめとする地域の特色を活かした学習・体験活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田山の環境を地域と方と共に整備したり、生活科・理科の学習や総合的な学習の時間での森林教育・環境教育につなげたりするなど、豊かな自然を活かした学習を行うことができた。本校の特色の一つでもあるので、今後もよりよい活用方法を考えていきたい。 <p><u>2 キャリア教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて学習や行事とつなげながら、働く人との出会いを大切にしてきた。その出会いを通して、その人の思いや願いを知ったり、今の自分にできることを考えさせたりすることができた。 <p><u>3 防災・安全教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の始めには避難訓練を実施し、災害が起きた時の避難の仕方を確認させることができた。また、防災教育も各学年で行い、防災ノートや防災みえから配信されている動画を活用して、授業時間外での避難の仕方について確認させることができた。 ・緊急地震速報を実際に聞き、地震が起きたときの動きを確認させることができた。能登の地震を想起してしまうことから緊急地震速報を使つての避難訓練は見合わせた。次年度は2学期に実施していきたい。 ・交通安全教室を実施して、校外での安全についても確認させることができた。 	

重点目標 4	全ての子ども能力を伸ばす教育の実現	4
主な方策 成果と課題	<p><u>1 学びを支える効果的な指導体制の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんタイムの学習内容を学年ごとに設定し、継続して取組を行うことで基礎学力の定着を図った。 ・4年生では算数科で習熟度別やITでの指導を行い、個別支援をしながら学力の向上に努めた。また、高学年では教科担任制による指導を通して、個々の実態を学年で共有しながら指導を進めることができた。 <p><u>2 特別支援教育・教育相談の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、教育相談を充実させた。特に、シャボテンを活用し、児童とスクールカウンセラーがつながりやすくすることができた。 ・支援の必要な児童について、年度初めに共通理解を図り、登校サポート委員会とも連携し、組織的な対応をすることができた。 ・月1回の特別支援委員会では、日頃の児童の様子や支援の方法を共有した。議事録は全職員に回覧し、情報共有を図ることができた。 ・登校サポート委員会を月1回開き、学校としての対応を協議しながら進めていくことができた。 ・学期に1回いじめアンケートを実施し、生徒指導部会や校内いじめ防止対策委員会で情報共有を図り、早期解決に向けて組織的な対応をすることができた。 <p><u>3 安心して学べる学校生活の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年でシャボテンを活用し、一人ひとりの児童の思いを汲み取るよう努めてきた。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>1 子ども一人ひとりの成長を支える支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんタイムの学習内容を学年ごとに設定し、継続して取組を行うことで基礎学力の定着を図った。 ・4年生では算数科で習熟度別やITでの指導を行い、個別支援をしながら学力の向上に努めた。また、高学年では教科担任制による指導を通して、個々の実態を学年で共有しながら指導を進めることができた。 <p>2 地域と協働した学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でゲストティーチャー等を招いての教育活動に取り組むことができた。吉田山を活用した森林教育・防災教育・サツマイモ栽培・昔遊びなどで地域の方に協力いただき、活動を進めることができた。 <p>3 ともに学び合う教師集団の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部を中心に教材研究を深めたり、指導方法を協議したりして、研究主題を意識しながら研修を進めることができた。また、全教職員が年に1回は指導案を作成し、授業公開・事後研修会を持ち、教師力の向上に努めた。 ・学期に1回ミニ研修週間を設け、他の教職員の授業を見て互いに学び合うことができた。 ・授業でのタブレット活用についても、学年部を中心に効果的な活用方法を考えたり、研修会を行ったりして、互いに学び合うことができた。 	

2 改善方針

- ・児童が取り組みたくなるような課題設定や学習形態の工夫など、学年部を中心として研修を続けていく。
- ・ICTを効果的に活用する授業づくりについてさらに研修を進めていく。ICTだけでなく、書く・話す・聴くなどの言語活動についても引き続き力を入れて指導していく。
- ・普段の生活の中で教師が「こんな学習したよね？」と常に問い返すことで、既習事項を活かして考える場面を設け、理解や定着につなげていくようにする。
- ・教師の人権感覚を高め、様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を日々見逃すことなく把握するとともに、人権感覚を養う指導をしていく。
- ・全職員で共通理解を図りながら、一人ひとりの子どもを大切に特別支援教育を進めていく。きめ細かく保護者に子どもの様子を伝え、指導の方向性などの共通理解を進めていく。
- また、どの子ども認められる共生教育としても各学年で位置付けていく。
- ・働き方改革の観点から、勤務時間短縮の意識を高める具体的な取り組みを継続して行っていく。

自己評価書

四日市市立 三重西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>①今年度も、3～6年生において習熟度別少人数授業（算数）を行った。習熟度別少人数授業では、単元ごとに児童自らが授業のコースを選択している。児童の実態に応じて、課題の与え方や、学習の進め方を工夫したことで、安心して授業を受けることができた。児童からも「少人数算数は楽しい」という声が多く聞かれた。</p> <p>②学校児童アンケート「授業は分かりやすい」の項目に係る肯定的な回答をしている児童の割合は94%であった。昨年度より2ポイントの上昇である。</p> <p>ただ、これからは、「教師がわかりやすく教える授業」から「自ら考え学びを深める授業」にシフトチェンジしていかなければならない。本年度は、研修のテーマに「協働的な学び」というワードを取り入れ、体験的・探究的な学びにつながる授業づくりにも取り組んだ。まだまだ道半ばではあるが、「個別最適な学び」とも関連付けながら、一層の学力向上に努めたいと考えている。そのためには、わたしたち教員も、既存の授業スタイルを見直し（アップデート）、常に自らを再構築（ブラッシュアップ）しながら授業改善、授業づくりに取り組むことが次年度の課題である。</p>	

重点目標 2	こころとからだを育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>①学校児童アンケート「友だちや大人の人に進んであいさつをしている」の項目に係る達成度の経年変化に目を向けると、昨年度は、肯定的な回答をしている児童の割合が81.2%であった。約20%の児童が「積極的にあいさつをしていない」という現状である。この傾向は、高学年になるほど顕著であった。今年度は、教員の重点努力目標のひとつに「進んであいさつができる子どもの育成」を設定し取り組みを進めた。その結果として、今年度、同項目に係る肯定的な回答の割合が88.9%となり昨年度を大きく上回るものとなった。「あいさつの励行」については、広く地域の保護者にも協力を呼びかけるとともに児童会活動ともリンクさせながら啓発活動に努めた。今回の取り組みの成果を一過性のもので終わらせることなく取り組みを継続させたいと考える。</p> <p>②コロナ禍の影響もあり、一昨年度・昨年度と外遊びをする児童の減少が本校の大きな課題のひとつであった。特に、「高学年の外遊び離れ」が明らかになった（児童アンケートの結果より）。今年度、外遊びの推奨に加え、体育科の授業改善を進め、運動量の確保、行事や児童会活動も充実させてきた。その結果、大きな成果を上げることができた。児童アンケート「進んで運動や外遊びをしている。」の項目において、肯定的な回答が73.3%⇒84.1%大きく数値が向上したのである。地道な努力が実を結んだと考える。引き続き、体力向上に係る取り組みを推進していきたい。</p> <p>③器械運動（跳び箱・マット運動）は、本校児童が不得手な運動のひとつである。今回、苦手克服に向けて、市内「相好体操クラブ」の講師を招聘し跳び箱の技能向上に係る指導をしていただいた。指導の方法等について、教員間で情報共有をした。</p>	

重点目標 3	夢と志を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①昨年度から、総合的な学習の時間の観点に「自己の生き方」という項目を加えた。学びを通して、「常に自分の将来を意識させたい」という願いからである。日々の授業や社会見学・修学旅行・自然教室などの行事からも、自己の生き方を考えることができた。</p> <p>今年度は、キャリア教育の一環として、次の2点に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯、体育に関わろうとする子の育成を目指し、市内「主体会病院」理学療法士を招聘し、ケガの予防、ストレッチ運動の重要性などをテーマに講演・実技をしていただいた。児童からは、「ストレッチ運動の重要性が分かった」、「これからは、ストレッチを続けたい」などの感想があった。 ・本校が、「KENTO MORI×YOKKAICHI レインボープロジェクト」のメイン会場となったことを機に、夢の実現について考える授業を行った。ケント・モリ氏の手掛かりにしながら夢の実現するために大切なことを学ぶよい機会となった。 <p>②自らの将来を豊かにするためには、コミュニケーション力の向上は不可欠である。今年度、校内研修ともリンクさせながら言語活動の充実にも取り組んだ。日々の授業で言語活動を意識することで、自分の思いや考えを主張することができるようになりつつある。また、道徳の授業を中心にしながらソーシャルスキルトレーニングにも取り組んだ。すぐに成果が上がるものではないが、地道に取り組みを継続させたい。</p>	

重点目標 4	全ての子どもの力を伸ばす学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>①「GIGAスクール構想」に係るICT活用の授業づくりにも積極的に取り組むことができた。取り組みを通して、「個別最適な学び」「協働的な学び」について活発な議論をすることができた。次年度は、私たち教員が「新しい学力観」「新しい授業スタイルへの意識改革・授業改革」を念頭に置いて研修等を深化させることが望まれる。</p> <p>②今年度も、「教科担任制」も有効に活用することができた。専門性の高い教員が自ら得意とする教科の担当をしたり、担当する教科を深く集中的に研究・準備をしたりすることで、より質の高い授業が提供できると考えている。さらには、小学校の段階から多くの教員が授業に関わることで、「中1ギャップ」解消に向けても一助となるであろう。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>①地域のなかで生まれ、地域のなかで共に成長することで、自らの将来に夢と志をもってほしいと願っている。今年度は、コロナ禍以前の活動を行うことができた。「地域に学ぶ・地域から学ぶ」機会が増えたことがうれしい。『三重西地区里山を愛する会 しろやま倶楽部』の支援により3年生は「昔の遊び・昔の暮らし」を、5年生は、「里山保全活動」について学ぶことができた。また、『図書ボランティア どんぐりの会』の方々による読み聞かせの会も実施することができた。</p>	

2 改善方針

<p>①今年度、習熟度別少人数授業を行い、基礎学力の定着が見られてきた。しかし、算数科では学年が上がるにつれて内容が難しくなり、学力差が生じやすい。よりきめこまやかな指導をしていくためにも、中学年からの少人数授業が望ましい。そのための人員確保が必須である。</p> <p>②子どもの体力向上に向けて、体育科の授業改善および児童会による外遊び企画の推進を継続・発展させたい。</p> <p>③「協働的な学び・個別最適な学び」をキーワードにしながらICTを有効に活用した授業づくりに係る研修を一層推進したい。</p> <p>④勤務時間の削減が急務であり、効果的な教育活動を検討し、業務の精選を行いたい。</p>	
---	--

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 大谷台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○グループでの学習を積極的に取り入れた。話し合いながら問題解決させることができた。相手の顔を見て話すことができ、意見がつながるようになった。授業のメリハリが生まれた。</p> <p>○子どもたちが主体的に取り組める単元の流れを組み、話す・書くなどの表現力を少しずつ身につけさせることができた。</p> <p>○校内の掲示板に、児童の書いた新聞や自主学習ノートを掲示することで、児童の意欲を向上させることができた。</p> <p>△タブレット学習が一人ひとりの学力向上につながっているのか、検証することができなかった。</p> <p>△用途に応じてICTとアナログをうまく使い分けて、学力を定着させていく必要がある。</p> <p>△学力が追い付いていない児童への個別の指導をする時間をもっと充実させたいが、難しい。</p>	
重点目標 2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○見つめる子を設定し、学年部で話し合いの機会を定期的に持つことで、実態に即したなかまづくりを進めることができた。</p> <p>○人権カリキュラムに沿って、個別の人権課題に取り組むことができた。</p> <p>○体育の時間にはマスクをはずさせ、運動量を確保した授業を行うことができた。</p> <p>○なわとび月間を設定し、20分休みに全校で大縄跳びに取り組んだ。それ以外の休み時間にも運動場に出る児童が増えた。</p> <p>○食育・保健指導を充実させ、給食をしっかり食べることを意識させた。</p> <p>△トイレスリッパの整頓、廊下歩行など、守るべきルールが守られていないことがあった。全職員で意識統一し、同じ指導を行っていく必要がある。</p> <p>△手洗い・うがいの励行の意識が低下した。</p>	
重点目標 3	よりよい未来を作る力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○児童集会で委員会ごとに発表をさせた。児童それぞれが学校をよくしようとする姿勢を全校にアピールでき、活躍する場となった。</p> <p>△児童集会に向けて、練習する場所や時間の確保が難しかった。</p> <p>○代表委員の朝のあいさつ運動は、児童同士で声をかけ合うことになり、よい取り組みであった。</p> <p>○見守り隊の方に、毎日の登下校時に見守りを行っていただいている。近所のお年寄り方と話す機会ができて大変よい。</p> <p>○防災学習や獅子舞の学習などで、地域の方に来ていただき、自分たちの住む地域のことについて学ぶ機会を持つことができた。</p> <p>○△地区の敬老祭と人権の集いに児童が参加し、歌とダンスを披露した。地域の行事に参加し、関わりをもつことはよいと考えるが、担任への負担は大きくなってしまふ。</p> <p>△キャリアパスポートを毎学期書かせているが、うまく活用することができていない。</p>	

重点目標 4	すべての子どもの能力を伸ばす教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○特別支援教育として、3年生児童がたんぼぼと交流学习を行った。1年生のときにたんぼぼの学級紹介をしているが、改めて発達段階に応じた紹介・交流を行い、たんぼぼ学級への理解が深まった。</p> <p>○サポートルームで個に応じた学習を行うことで、児童の気持ちの安定を図ることができた。</p> <p>○算数において習熟度別少人数授業を行い、児童それぞれに合った対応をすることができた。</p> <p>△少人数授業を担当する非常勤講師との打ち合わせをする時間がもてず、進度の調整が難しかった。</p> <p>△人手が足りないため、通常学級の中で支援の必要な児童への手立てが組めない。</p> <p>△不登校児童が増えている。家庭訪問や保護者への連絡等が担任任せになってしまっていた。支援計画を支援委員会で立てて、学年等組織で対応するようにしていく必要がある。</p>	

重点目標 5	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○それぞれの得意なことを生かしたミニ研、お悩み相談会は、若手教員にとって大変よい学びの機会となった。</p> <p>○提案授業の事後研修会などで、少人数グループで話し合いを行ったことで、全職員が参加することができ、学びを深めることができた。</p> <p>○大学の教授に来ていただき、指導助言をいただくことで、研修の内容を共通理解し、整理して研修を進めることができた。</p> <p>○指導教諭による師範授業を行事予定に組み入れ、多くの職員が参観できるようにした。</p> <p>△習熟度別少人数教育、教科担任制を行っていくためには、教員の授業力・指導力をもっと高める必要がある。</p>	

2 改善方針

- ・タブレットの活用方法等のミニ研修等で研修を重ねる。クラウド活用で情報共有が早くなり、働き方改革にもつながる。
- ・集団風邪の流行による学級閉鎖が多かった。手洗い・うがいの励行は今後も続ける必要がある。
- ・行事の精選を進める。児童集会等は、取り組みやすい形に変えていく。運動会の表現や6年生を送る会の出し物等は、練習時間が少なくてもできるものに変えていく。
- ・ICTなど新しいものを取り入れていく。初めは時間がかかっても後戻りしないようにする。また、分からないときに互いに聞き合える風通しの良い職場にする。
- ・読書への意識を高めるための意欲的な活動を取り入れる。学習内容と合わせながら、軽重をつけて設定時間を取っていく。デジタルとアナログの両方を活用し、工夫した取組を進める。
- ・今後も仲間を大切に取る取組をすすめ、人権意識を高める。
- ・校内支援委員会・毎週の情報交換を丁寧に行い、全職員で子どもの状態把握をできるようにする。委員会等で決まったことは全職員が必ず取り組み、指導の一貫性を持たせる。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着（問題解決能力の向上と学び合いの授業づくり）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①基礎的・基本的な知識と技能の定着 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③問題解決能力の育成 ④ICTを活用した授業創造</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で朝学習を習慣化したり、プラスワン(自主学習)を推進したりすることで、既習事項の習熟・定着できた。 ・児童の思考が深まるような課題づくり、お互いの意見を聞き合うような授業づくりを進めることで、児童が多様な考え方をすることができるようになってきた。 ・ICTを活用することで、児童間での意見交流がより活発にできるようになり、難しい問題にも取り組もうとする姿勢が見られるようになった。 ・コロナ対応の緩和により、ペア・グループ学習が活発にできるようになった。 ・基礎的、基本的な学力の定着を図るために、継続して取り組んでいく必要がある。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成（人権教育を柱にした仲間づくりの推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①なかまづくりの推進 ②人権教育の推進 ③道徳教育の推進 ④特別支援教育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や修学旅行、自然教室などの学校行事を通して、他者と関わりながら目標に向かって取り組むことで、豊かな人間関係の構築につながった。 ・いじめアンケート、教育相談を実施することで早期発見・対応をすることができた。 ・道徳の授業だけでなく日々の子どもの言動から人を大切にすることを心や声掛けを指導した。 ・人権週間を設けて、人権に関する授業を行ったり、子どもの作品を掲示したりすることで人権教育に対する意識を学校全体で高めることができた。 ・校内支援委員会を中心に、教職員全体で支援・指導が必要な児童に関する情報を共有することで、学校全体で子どもの成長を見守ることができた。 ・必要に応じて、個別にケース会議を行ったり、保護者と担任で面談を行ったりして、きめ細やかな対応を行うことで、児童や保護者と良好な関係を築き、子どもへの支援を考えることができた。 ・学習内容が日常的に汎化されていない。 ・子ども同士のトラブルが起きた際に保護者と協力して継続して指導する必要がある。 	
重点目標 3	健やかな体の育成（健康・安全についての意識の向上）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①規則正しい生活リズム ②病気の予防（手洗い・うがい・歯磨き指導）や感染症対策 ③体育科の授業を中心とした体力づくり（児童の実態に合わせて運動強度を考えた授業づくり）</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会が主催する歯みがき強化月間や生活リズム表をクラスごとで活用し、クラス全体で健康について考えることができた。 ・コロナ化に使用した健康チェックカードを自然教室や修学旅行、夏休みの宿題で活用し児童の健康状態を確認することができた。 ・子どもたちの生活リズムを職員が把握することで、食育や健康教育にいかすことができた。 ・体育の授業を中心とした体力づくりに加え、委員会による体力強化月間などの取り組みや大なわ週間で運動する習慣を作ることができた。 ・低学年でもタブレット等を活用し、体育の授業で自分の動きなどを動画などで確認できるよう指導を行いたい。 ・運動を通して、運動の楽しさや達成感を味わわせることはできたが、運動の本質を味わうために必要な思考力、判断力を養うまでには至らなかった。 	

重点目標 4	信頼される学校づくり（学校公開・情報発信の充実と地域連携）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①学校の情報発信の充実 ②PTA・地域との連携 ③学校評価を活用した学校づくり</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやホーム&スクールで学校の様子を発信することができた。各学年や学級の日常の様子が伝わりやすくなった。 ・ホーム&スクールを活用し、学年ごとに児童の様子を保護者に発信することができた。 ・今年度もたくさんの地域の方々が、登下校の見守り、学校の環境整備、教育活動のボランティアとして積極的に活動いただいた。 	

重点目標 5	教職員の資質向上（課題とまとめを意識した分かる授業の実現）	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①授業改善のための校内研修の充実 ②目的意識を持った研修の推進 ③OJTの推進 ④学校業務改善の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部研修での課題づくり研修という新たな試みができ、授業改善にいかすことができた。 ・ICTを活用しての授業づくりをすることができた。 ・年度初めに確認した研修主題を意識して、授業を組み立てることができた。全体研修会や学年部研修で授業を見合い、検討することで、個々の資質向上につながった。 ・主研修での学びを深めながら、他の研修の見通しを立てていき、運営していくことが難しかった。 	

2 改善方針

<p>【重点①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを生活にいかしていけるよう授業改善に取り組む。 ・授業でICTを効果的に使う場面の検証を行い、児童がICT機器を活用することで「協働的な学び」を充実したものにしていく。 <p>【重点②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や道徳教育で学んだことが日常生活に生かされるよう、授業で扱う教材や発問を工夫していく。 <p>【重点③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科でICTを活用できるように、年間計画などを把握し、効果的な活用の仕方を職員間で共有していく。 <p>【重点④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアと関わることで、子どもたちが感謝の気持ちを持ち、人間力を高めることができるよう、引き続き体験的な活動を通して、子どもの主体的な取組を展開していく。 <p>【重点⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の負担を軽減するため、ICTの校務への活用や多忙期に5限日課週間等を設定していく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【 聴きあい伝え合い学びあう子 】 表現する場を確保したり、子どもたちが考えたくなる発問や課題づくりを進めてきましたが、話したり聞いたりでとどまり、深まりには至っていない。友達の意見を聴き合い、考え合う楽しさを実感する協動的な学びの実現に向けて授業改善を進めていきたい。</p> <p>【 自ら学ぶ子 】 基礎・基本の確実な定着のために少人数教育の実施、漢字の反復練習、家庭学習の定着に取り組んだ。しかし、評価基準や数値目標の設定がないために指導目標が立てにくく、漢字の定着については2学期と3学期のテストで比較し、分析する程度に留まった。来年度は、評価方法や目指す姿を視覚化するとともに数値目標の設定を行い意識して指導しやすくように体制をつくる。</p> <p>【 学習道具としてICT機器を活用する子 】 八郷西小学校版の目指せタブレットマスターを発行し、めあてを視覚化したことで、教師も子どもも日常的に使っていきこうという意識が少しずつ芽生えてきた。しかし、タブレット端末の不具合や児童のメディアスキル差などタブレット活用による課題がある。引き続きICTを活用した、個別最適な学習の実現に向けて授業改善を進めていきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【 決まりを守り、仲間と協力する子 】 縦割り班を用いたそうじに取り組み、こどもたちの繋がりが生まれた。しかし、縦割り班の掃除の方法について、掃除場所の交代や掃除の仕方など指導の徹底が難しかった。縦割り班を用いた掃除の仕方について指導方法を見直し、6年生をリーダーとした全職員で指導し、相手のことを大切に思う仲間づくりを進めたい。</p> <p>【 自ら考え、繋がり、行動する子 】 いじめ防止月間で全学年がいじめに関わる授業ができた。ピンクTシャツ運動の取り組みを掲示物を作ることで児童・保護者へ周知できた。課題としては、「安心して」という意味においては、以前より続く画鋏の件が気がかりである。引き続き、人間関係などで困っている児童に対し、子どもたちの様子をアンテナを高くして見守り、声をかけその思いに気付けるようにする。</p> <p>【 読書を楽しむ子 】 図書室、電子図書館を空いた時間に利用した。司書の先生を中心に授業に関わる本を教室に貸し出ししてもらい、紹介したり展示したりすることで子供たちの意欲につながった。学校評価アンケートの本を読むことは好きの肯定的回答は79%であり、あと2割程度の児童が本に親しめていない。読書は自ら知識を付けることのできる大切な機会であるため、今後も図書の充実とともに読書の機会を進めていきたい。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【 自ら命や体を大切にする子 】 生活リズム向上事業を受け、様々な取り組みを進めてきた。児童が「睡眠・食事・運動」を始め、生活リズムに関することを自ら考えるなど、一定の成果はあったと考えられる。危険認知や安全意識の高さは不十分。怪我や事故につながる可能性があることが理解できていない。引き続き、安全意識や危険認知などは交通安全教室や防犯教室、避難訓練など年間行事に予定し指導していく。さらに、保健指導・生命の教育・相談活動などの場面でも伝えていく。</p> <p>【 進んで運動する子 】 運動の苦手な児童が楽しんで体を動かすことができるよう授業展開を考えたかけ足やなわとびの取り組みにより体力向上につながった。取り組み後や年間行事予定以外の期間でも子どもたちが体を動かしたくなるような取り組みを進めていきたい。</p> <p>【 根気強くやり遂げる子 】 かけ足は体育の時間に加え、今年度は全校で取り組んでおり、十分な指導がされている。しかし、「汗がでる、声が出る、笑顔が出る」の5分間運動は意識できていたか疑問である。意識するために、5分間運動の取り組み方を見直し、一人一人の運動量を確保し、教師間で交流を行いよりよい授業を目指す。</p>	

重点目標 4	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【 自分の強みを発揮させ、夢に向かって行動する子 】 返事やあいさつ、時間やきまりを守ることなどの基本的な生活習慣や社会生活のきまりを理解させることはできた。また、係活動や日直などの仕事を通して自分の役割について学び、役割を果たす喜びを感じさせることができた。一方、学校評価アンケートにおいて、家庭や地域で挨拶をする（保護者）の項目では86%と前年度より減少傾向である。日常のあいさつや挨拶運動を通してその必要性を理解させ、友達や教師、保護者や地域の方に自ら関わっていけるように指導したい。</p> <p>【 地域に愛着を持ち、持続可能な社会づくりに参画する子 】 自然教室・社会見学・清掃活動・出前授業を通して協力することの大切さを理解し、地域の方と学ぶ機会を持ち、その素敵さを感じることができた。しかし、生活や総合の年間計画、ESDカレンダーを意識して見通しをもって取り組みを進めることが難しかった。年間計画やESDカレンダーを見直し、次年度の担当が見通しをもって取り組めるように準備を進め、これからも保護者、地域と連携して地域の教育力を活用した特色ある教育を進めていく。</p> <p>【 多様な人々と協働し、よりよい暮らしを目指す子 】 コミュニケーションを意図的に取れるように学活で自分のことを話す、質問する活動を行ったが不十分な様子がある。コミュニケーション能力の育成に関しては、根気強く指導していくしかないと考えているため、コミュニケーションの基本である挨拶を全校児童と教職員が一緒になって進めていきたい。</p> <p>【 安全への理解を深め、的確な判断のもと行動できる子 】 避難訓練、防犯教室をはじめ、地域の方と連携して子ども防災探検隊に取り組んだり、大学と連携して防災教育に取り組み、児童の防災への関心を高めた。防災・防犯の活動は取り組んだが、普段の学校規律に関わる、ろう下歩行や登下校中の道路の歩き方等安全への意識は弱い姿がある。防災学習は1回すれば十分というものではなく、定期的に学び、備えていく必要性があるため、今後も定期的な確認と経験の積み上げを進めていきたい。</p>	

重点目標 5	学びを支える指導体制の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【 特別支援教育の推進 】 支援が必要な児童に特別支援委員を通して、SCをつなげることができた。SCを活用し、さらに大学教授との連携も取り入れて、児童の理解、支援、保護者への対応を考えてこれたことは成果である。今後も特別支援委員会を定期的開催し、児童理解を深める場として設定していく。</p> <p>【 校内支援体制の充実 】 落ち着かない児童や不登校の児童に対して特別支援委員会などで情報共有し教育活動を進めることができた。しかし、小規模校であり、人手不足で思うような支援体制がとれない現状がある。</p> <p>【 教育相談体制の充実 】 SCからクラスの子の対応への助言を受けて活用した。今後もSC・SSW・大学連携など専門家の知識や見立てを取り入れて、児童理解を進めていきたい。</p> <p>【 各学年複数の教員による支援体制 】 算数科の少人数教育を実施し、一部教科担任制を進めた。引き続き、一部教科担任制・少人数教育を進めていき、児童を学校の教職員全員で見守っていく体制づくりを進めていく。</p> <p>【 生徒指導の組織的な対応 】 教職員間の情報交換がスムーズに出来るというのは本校の強みであり、教職員全員で見ることが出来る。本校の強みを活かしつつ、児童理解の難しさは専門家の力を借りることや教育委員会の活用で補う必要がある。</p>	

重点目標 6	学校教育力の向上	2
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【 コミュニティスクールを核とした学校経営 】</p> <p>通信やHPを月2回書くことに取り組んだ。しかし、通信やHPを使った発信はできない現状があり、学校でしていることやクラスのしていることを伝えきれていないところがある。今後は、通信は月1回、HPも月1回を目途に保護者や地域に発信していきたい。</p> <p>【 安全安心な学校を目指したチーム学校の体制整備 】</p> <p>天候不良や学級閉鎖・臨時休校などの対応に理解を示してもらっている。また、通学路の安全確保においても不審者等対応が必要な時には保護者と教職員が協力して、見守りをする事ができた。今後も、児童の安全のために連絡を密にし、連携していきたい。</p> <p>【 小規模校のメリットを活かした特色ある教育の推進 】</p> <p>他校（三重北小・八郷小・下野小・西朝明中・八郷西保育園）や、外部（クラブ活動・情報教育・陶芸・書写・家庭・興農社・環境安全センター・あかつき交通安全隊）と学習することができた。子どもたちの表現力向上やコミュニケーションの場として取り組むことができた。一方、イベント、行事が多くなり、見通しを持たずにいる。そこで、引継ぎを丁寧にし、子どもの教育を考えた業務の精選に取り組むことで負担感の軽減を図りたいと考える。</p> <p>【 教職員の資質・能力の向上 】</p> <p>授業改善の推進について、授業公開週間を設けて多くの先生に他の学年の様子を見てもらえたが日々の授業について考える機会が増えるといいと思う。また、指導主事を招いて校内研修に取り組めた。しかし、世の中の流れが速く、さらなる授業改善が望まれるところである。引き続き研修に努めたい。</p> <p>【 学校業務の適正化 】</p> <p>自分や仲間が休むことなく働くことができた。しかし、勤務時間・休憩時間などの意識が低い。情報共有の速さを強みに、会議時間の短縮化・コミュニケーションの充実に努める。また、SSSや業務アシスタントの活用を進め、協力して児童の指導に当たれるようにするとともに、長期休業中にできることを進めておく。また、見る・読むより聞く方が早い時がある。わからない業務については先輩の教員を頼り、OJTを活用する。</p>	

2 改善方針

縦割り班の活用の見直し。（現在の掃除の徹底できないところは縦割り班活用1年目の難しさである。形を見直し、6年生を育てていけるような体制作りを進めることで日常生活での生徒指導関係の問題を解決していく。

タブレット使って、児童が主体的に学びを進めていく個別最適化・協働的な学びの授業研修の実施。（今年の研修と合わせて、教師がタブレット使うから児童がタブレットを主体的に使っていく授業の進め方を研修し、児童が生き生きと学習できる授業を進めていく。

見通しの持てるように今学期中に実施してきた行事の丁寧な引継ぎ文書を作成する。（特に学年で取り組んできた生活・総合の年間計画や行事の精選をしていくための材料である引継ぎ文書を丁寧に作成する。それを参考にしながら、アフターコロナのモデルになる子どもの学びとともに教師の働き方改革を合わせて考えた行事の精選を進めていく。）

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○読書活動を充実させます 読書祭り、ビブリアバトル、POP作りなど子ども主体の取り組みを充実させた。また、読み聞かせや語り聞かせ、選書など外部人材の協力も得られた。アンケートで見ると意欲的に読書に取り組む割合は、昨年度より減少しており、家庭と連携した読書推進をしていきたい。</p> <p>○ICTを効果的に活用し、学びを充実させます。 タブレットを授業や家庭学習で活用することで児童の操作技術の向上が見られる。また、タブレットを介した協働的な学びを進める中で、文房具の一つとしてICT機器を活用する土台作りをした。ミニ研修会等で様々なアプリの活用方法を学び、学習活動につなげた。保護者アンケートにおいても90%を超える保護者からICT活用を評価されている。本年度も外部講師を招いて行ったメディアシチズンシップなどモラル教育、保健指導と関連させ行ったデジタルデトックスなどICT機器とのかかわり方を考える活動を保護者を含めて行う必要がある。</p>	
重点目標 2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○あいさつをはじめとする「非認知能力」の育成に取り組めます 児童会を中心に「あいさつ運動」や「生活目標」の設定で、挨拶の大切さを呼びかけてきた。また、職員も進んで挨拶をし、手本となるように心がけてきた。ただ、学校アンケートで見ると保護者の「自分から挨拶をしようと心がけている。」の割合は減少しているため、地域や家庭と連携した取組を考えていく必要がある。</p> <p>○子どもの姿勢改善に取り組めます 朝の立腰タイムや、継続した保健指導に取り組むことで、児童の意識が高くなった。保護者へも周知できた。児童の実態から考えても、この活動を継続していく。</p> <p>○運動の日常化に取り組めます 毎週火曜日の三重北遊びデーを、体育委員会を中心に行った。また、保護者の体育的行事や保健指導への関心は高く、アンケートでも100%の好意的な評価である。しかし、休み時間に外遊びに行く児童の割合は減少しており、体育的行事や体育の学習を合わせて、運動の楽しさを伝えていく必要がある。</p>	
重点目標 3	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○地域学習を大切にします 各学年で計画した地域学習のカリキュラムに基づいて学習を進めた。どの学年においても、体験的な活動や地域を大切にして、「人」との出会いや、キャリア教育の視点を取り入れながら学ぶことができた。今後は持続可能な取り組みとなるよう考えていく必要がある。また、他教科と連携した取り組みとなるようにカリキュラムマネジメントを進め、計画をしていく必要がある。</p> <p>○保護者・地域とともに取り組む「防災教育」を継続します 5. 6年生を対象に四日市大学の鬼頭教授に来ていただき、防災について考えた。その後、地域、保護者、教職員が防災教育の研修会に参加し、共に防災意識を向上させることができた。また4年生は鬼頭教授や地域の方々と防災訓練や避難所設営体験を行うなど、学年に応じた取組ができた。学校アンケートにおいても、95%以上の保護者が好意的な評価をしており、この活動を継続させていく必要がある。</p>	

重点目標 4	すべての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	<p>○「校内サポートルーム」を有効に活用します 本年度より設置されたサポートルームについて、全職員で情報交換を行ったり、全体研修会を行ったりすることで、設置の意義だけではなく、特別な支援の仕方についても考えることができた。落ち着いた環境の中、個別の支援を受けることで対象児童もつきたい力を付けてきている。担当だけでなく、学校として連携して取り組んでいけるように、授業や取り組みを公開することや研修で伝えていく。</p> <p>○校内支援体制を充実します 月1回委員会を実施し、課題のある児童・保護者に対する支援や指導計画を継続して考えることができた。また委員会で検討することで組織的な対応を考えることができ、学校全体で子どもたちを見ていくという意識向上にもつながった。しかし、突発的に起きる出来事も多く、委員会以外にも支援を考える場面も多く、どうしても回数が増えてしまう。また、職員数が少ないので、分担はしているものの会議に参加する職員が増えてしまい、ほとんど職員会議とメンバーが変わらないこともあった。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>○日常的な研修を大切にし、教職員の資質向上を図ります 今年度も4月に「三重北モデル」の共通理解を図った。また、年間を通して全職員が学級を開き、授業を見合う文化を構築することで、職員室でも子どもの姿を中心に授業について話す場面が増えた。聴き合う関係を大切にした授業づくりに全職員で取り組むことで、児童アンケートの「友だちの話をしっかりと聞くことができる」「ペアやグループでたずねることができる」という項目について95%以上の児童がよい評価をするなど、ビジョンを共有しながら教育活動を行うことができた。また、職員が学期に数回ミニ研を行うなど主体的に研修する文化があり、資質向上につなげた。</p> <p>○積極的な外部人材の活用を行います 性と生命に関する学習では助産師の林さん、味覚の授業ではコックの近藤さん、選書活動ではメリーゴーランドの増田さん等、他教科にわたり、年間通じて多くの人生の先輩に出会い、専門性だけでなくキャリア教育の視点からも人として学ぶ機会を多くもつことができた。</p>	

2 改善方針

<p>○図書室貸し出し冊数は確実に昨年度より増えていたり、電子図書館の利用も増えていたりすることから、選書やビブリオバトル等の子どもが読書を楽しみ、本に親しみを持つことのできる活動を充実させていく。</p> <p>○少人数の職場であるため、校務分掌等一人の職員が担う役割が多くなるが、一人に任せるのではなく、日常的にチームで取り組む体制づくりを行う。取組後の反省点を、確実に次の活動に生かし、必要なこととそうでないことをはっきりさせていくことで、さらに働きやすい職場環境にしていく。</p> <p>○学級の取り組みや様子を日常的に交流したり、お互いに声を掛け合う中で、提案された取り組みを徹底し、全体で取り組む。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	自ら学び、確かな学力を獲得する授業の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・ふりかえりに直結するめあてを設定できた。また、ふりかえりをスモールステップで行わせられた。更にふりかえりを繰り返し書かせることで、文章表現の力をつけられた。・国語でワークシートを活用し、読解力や表現力をつけられた。・ICTを活用した児童の学びを推進できた。・教材研究を協働し、児童につけたい力を確認しながら授業を進めることができた。・「つけたい力」を明確にした授業に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童がより興味を持てるようなめあてを設定する必要がある。・児童の個々に、文章力を十分つけることが難しかった。・教職員のICT技能の差が見られる。	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・道徳の教材を子どもたちの実態に合わせて実践できた。また、個々の成長が見られた。・取り組み方を児童に考えさせることで、児童の自己肯定感を高めることができた。・いじめアンケートやQI検査、教育相談等を活用し、児童に寄り添った指導や支援が行えた。・「けやきっ子3か条」を意識した指導を行えた。・児童の実態に合わせた人権教育を行うことができた。・コロナ前の様に児童会活動が行えるようになったことで、児童が主体的に取り組む機会が増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・5分間運動に意識して取り組めたが、単元によっては、取り組めないものもあった。・不登校傾向の児童が増えているが、人員も限られており手立てが十分打てなかった。	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の様々な公園などを訪れ、地域を知る学習を行ったり地域に貢献する活動を地域の方々と共に取り組んだり、保幼との交流会を開き、公・私立の地元の園児と触れ合ったりすることができた。・陶芸体験を通して、地場産業や人、地域等について学ぶことができた。・栄養教諭と協働して、食育と防災教育とを連携して取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のため始まった地域との協働行事等について、今後の在り方を検討していく必要がある。	

重点目標 4	学びの保証	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連絡を密に取り、SCやSSWと繋ぐなど児童への対応を協働できた。 ・学習支援員がいたお陰で、個別の指導・支援ができた。 ・学年で児童の共通理解を行ったり、特別支援委員会で支援・指導の方法を学校全体で共有したりしながら支援や指導ができた。 ・支援ファイルを用いて保護者と連携を取りながら、個別の支援や指導が行えた。 ・個別最適な支援や指導を意識して取り組むことができた。 ・教科担任制を行ったことで、授業を改善していくことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な児童が多いため、児童個々への支援が十分できなかった。 ・支援が必要な児童に対する指導を、全職員で徹底できなかった。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間を柔軟にすることにより、働き方改革が進められた。 ・以前より時間を意識して勤務することで、業務の見直しや改善を行えた。 ・ICTを活用することで、働き方改革につながった。 ・SCと連携を取りながら、支援や指導ができた。 ・外部講師を活用して、取り組みを進められた。 ・学年間で情報を共有しながら取り組みを進められた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識改革は進められているが、国や県等の調査等減らせない業務もあるので、より効率的に業務を行うようにしていく必要がある。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・職務の優先順位を意識するなどの、教職員の意識改革を更に進める。 ・「つけたい力」を明確にして、より良いめあてを作成するよう努める。 ・5分間運動の研修を行う。 ・行事の精選を進めたり業務がより効率的に行えるような検討をしたりする機会を設ける。 ・行事や教科、特別な支援の必要な児童への指導等は、学年を越えて相談し、PDCAに則り検証する。 ・保護者対応する時刻を、勤務時間内に収まるように意識したり会議や研修のある日は、午後の授業を柔軟に対応したりしながら働き方改革を進める。 ・教職員のICT技能の平均化を進める。 ・配布物はHome&Schoolを活用していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部東小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	安全・安心で保護者や地域に信頼される学校	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①安全で安心な学習・生活環境の充実 ②人材育成の推進 ③地域・外部人材の活用推進 ④健康管理と勤務時間の適正化</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・PTAやボランティア団体と連携し学習の森の整備に努めた。安全安心な学習環境が守られたおかげで、各学年が自然から学ぶ学習活動を進めることができた。 ・生活科や総合的な学習の時間において、「内部っ子はげまし隊」や「ホタルの会」、「トンボの会」など地域人材を積極的に活用し、地域から学ぶ学習活動を進めることができた。 ・学校アンケートを実施して、保護者の意見から教育活動を見直し改善につなげることができた。 ・学校だより、学年通信、ホームページ等で、学校からの発信について約9割の保護者から賛同を得た。さらに充実させていくと同時に、授業参観や懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。</p>	

重点目標 2	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①確かな学力の育成（知） ②豊かな心の育成（徳） ③健やかな体の育成（体） ④個に応じたきめ細やかな支援</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・5、6年生において教科担任制を実施したことで、教材研究が充実するとともに、学年団で指導する体制を組むことができた。 ・4年生以上の算数科で、少人数教育、T・Tを実施したことで、算数に苦手意識を持っていた児童の学習意欲を高めることができた。 ・特別な支援が必要な児童について、職員会議、児童対応委員会、教育相談、カウンセリング等で支援の方法について話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。 ・代表委員会の児童から、学校生活目標「あ・す・な・ろ・う」について全校児童にはたらきかけを行ったことで、生活規範について意識が高まったが、今後も継続した取り組みが必要である。 ・職員会議、児童対応委員会、時系列の記録を通じて、児童の情報を全職員が共有した上で指導する体制が構築されている。 ・保健委員会の児童が中心となって、学校保健委員会の発表を行った。今年度は学校三師参加のもと体育館で対面式で行うことによって健康に対する意識を高めることができた。</p>	

重点目標 3	自ら学びに向かう子の育成を目指して研修を進める学校	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①自ら学びに向かい活用能力を育む授業の創造 ②生徒指導・人権教育の視点による学級づくり ③「授業・学級を開く」ことによる授業改善</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力や思考スキルについての研修を深め、理解を深めることができた。 ・児童の学ぶ意欲を高めるための取り組みを考え、振り返りを確認することで児童の理解度を知り、授業改善に生かすことができた。 ・年間4回の全体提案授業、3回の学年部提案授業を行うことで、指導力の向上につなげることができた。 ・夏季校内研修会や日常的なミニ研修会、授業公開週間などの取り組みを通じて、自分たちで研修を進めたり、自分の実践につなげようと意識したりすることができた。 	

2 改善方針

<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域やボランティア団体との連携を継続し、「トンボ・ホタルの池」の管理や「学習の森」での取り組みなど、児童と共に活動ができるものがないかという視点で活動の充実、拡がりを図る。 ・保護者への啓発を更に進める。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査やみえスタディ・チェックの分析結果をもとにして授業改善を行い、学習意欲が高まるような課題を設定する。 ・家庭での学習習慣の定着に課題が見られた。今後も、児童の実態に応じて、家庭学習の内容や量などを検討しながら取り組みを進めていく。 ・支援を必要とする児童については、今後も児童対応委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係機関と連携を取りながら支援体制づくりに努める。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考スキルについての研修を深め、児童自身が思考スキルを意識して問題解決が進められるような力をつける。 ・児童にとっての課題を見極め、教師の力量を高める校内研修の充実を図る。

自己評価書

四日市市立 中央小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>確かな学力の定着</p> <p>① 学習指導要領・新教育プログラムの確実な実施</p> <p>② GIGAスクール構想によるすべての子どもたちの個性に合わせた教育の実現</p> <p>③ 論理的思考力を高める授業づくり</p> <p>④ 小規模を活かした体験型学習等の充実</p> <p>⑤ 「読む・話す・伝える」読解力・表現力の育成</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・本校の研修テーマ「論理的思考力を高める授業づくり」に向けて、全教員が様々な教科で研修テーマに沿った研究授業を行っている。授業後の事後研修会では、市教育委員会から招聘した指導主事の方から、本校の研修の取り組みについて一定の評価をいただいた。</p> <p>・全国学力・学習状況調査の結果や普段の生活における児童の姿を見ても、児童の論理的思考力は、着実に高まりつつある。このことから、教職員の授業改善は進んでいると考えられる。一方で論理的思考力に関連するアンケートにおける児童評価は、昨年度よりもやや低くなっている。今後は、児童の実感を伴うような具体的な手立てを考え取り組んでいく。</p> <p>・日常的に、ICTの活用、環境整備、ICTサポートスタッフの活用を行うことで、ICTを活用した効果的な学びが確実に広まってきている。今後、より効果的な活用方法について校内で議論し、ICTを活用した情報活用能力の育成に向けた取り組みをさらに推進していく。</p> <p>・小規模アシスト事業を活用し、他校との交流を全学年で効果的に行うことができた。</p> <p>・「読む・話す・伝える」読解力・表現力の育成については、表現活動を日常的に行うことを具体的な方策の1つとして取り入れた。その結果、どの学年でも、表現する場の保障などがしっかりと確保されていた。</p>	
重点目標 2	<p>豊かな人間性の育成</p> <p>① 違いや良さを認め合い、支え合う子どもの育成をねらいとした人権教育</p> <p>② 自立と共生の基盤となる道徳教育</p> <p>③ 多文化共生社会に向けた教育実践</p> <p>④ 自己有用感・自尊感情に基づくキャリア形成（異学年交流活動・オンラインの活用）</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・授業力向上週間において人権学習の授業公開を行った。職員同士で授業を見合い、放課後に学んだことを交流するなど、自分たちの人権感覚を高め合場をもつことができた。</p> <p>・支え合う子どもを育成するために、児童が自身のよさを見つめたり周りから認められたりする場の設定をしている。しかし、児童アンケートの結果をみると自己肯定感の低い児童がまだ一定数いる。</p> <p>・ペア学年での清掃活動や縦割り班でのスマイル活動を通して、同学年だけでなく、異学年でのつながりを広げることができた。また、異学年交流活動などが、自己有用感、自尊感情に基づくキャリア形成につながっている。</p> <p>・児童集会等の発表の場や委員会活動を通して、児童が人前で活躍できる機会を保障し、自己有用感を高めることできた。</p> <p>・夏休み作品展・校内図工展・書写展等において、全児童の作品を掲示し、作品を全校・保護者に見てもらい鑑賞する機会があることで、子どもの関心・意欲や情操的な感情を高め、自尊感情の育成につながっている。</p>	

重点目標 3	<p>健康・体力の向上</p> <p>① 体育・保健の見方・考え方を働かせる 学習過程の構築</p> <p>② 心と体を大切にし、前向きになる健康教育</p> <p>③ 安全意識・危機管理意識の向上（自分の命は自分で守る）</p> <p>④ 基本的生活習慣の習得と定着</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との合同体育や体育の授業における5分間運動の充実など、学校全体で体力向上に向けた取り組みを行ってはいるものの、体力テストの結果に出ていない種目もある。今後子どもたちの体力向上につながる、さらなる取り組みを進めていく必要がある。 ・発育測定後に保健指導があったことで、児童が心と体を大切にしようとする意識を高めることができた。 ・避難訓練や不審者対応訓練等を行うことで、児童の危機管理意識が高まった。 ・1月の土曜授業の際に、全校で学年に応じた防災学習に取り組んだ。保護者アンケートからは、「防災授業を参観していなければ気が付かなかったことなのでとても参考になった」等、肯定的な意見を多数いただいた。 ・基本的生活習慣の習得と定着については、食事の姿勢、掃除道具の使い方、ろうか歩行、上靴の履きかた等、日々の生活面での基本的な指導が今後も必要である。 	

重点目標 4	<p>保護者・地域との協働</p> <p>① 「学校の今」の積極的発信・受信</p> <p>② 個に応じた家庭学習・自主学習</p> <p>③ 教育支援ボランティアの活用</p> <p>④ 社会に開かれた教育課程</p> <p>⑤ 地域資源を活用した体験活動</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での日常の様子をホームページに積極的に発信している。学校評価アンケート項目の『学校は、学校、学年の通信、ホームページなどを通じて、保護者へ情報を発信している』は、肯定的評価が90%以上であった。 ・学期に1回、家庭学習チェック期間を設け、回数を重ねる中で、子どもたち自身が家庭学習の振り返りをしたり自分の頑張りを実感したりすることができるようになってきた。また、タブレットを使って、自主的に家庭学習をする子どもが増えてきた。 ・保護者や児童アンケートの結果から、子どもたちの読書への関心が着実に高まってきている。それらの要因の一つは、図書ボランティアの活用によるものだと考えられる。 ・地域資源を活用した体験活動については、地域の方に来ていただき教えていただくことで、普段は体験できないような体験をさせていただいたり、自分が住んでいる地域の特徴を知り、関心を持ったりすることができた。今後も、地域資源を活用した学習活動を進めていきたい。 	

2 改善方針

・子どもたちが将来社会に出ていく上で重要となる「情報活用能力の育成」のために、タブレット等の効果的な活用等を、今後も学校全体で推進していき、子どもたち一人ひとりに、より確かな学力を身につけさせていく。

・自尊感情だけでなく、自己有用感（他人の役に立った、他人に喜んでもらえる等）の自覚という視点も入れながら、今後も、Q U調査やなかまづくりの取り組みなどを学校全体で進めていく。

・食事の姿勢、掃除道具の使い方、ろうか歩行、上靴の履きかた等について、年度初めに各学級で指導を行う。また、教師から子どもたちに一方向で指導するだけでなく、例えば画像や動画を撮影し、自分たちの姿を自分の目で確かめさせ、どのようにしていくとよいのか、子どもたち同士で考えさせる機会をとる。

・基礎体力向上に向けて、日頃の授業づくりをさらに工夫していく必要がある。また、体育の時間だけでなく業間等を活用し、児童が日常的に体を動かす遊びの充実も行っていく。

・地域資源を活用した体験活動については、今後も、地域資源を活用した学習活動を進めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部教科担任制の推進 ・言語力、情報活用能力、ICT技能の向上 ・家庭学習、自主学習の充実 <p>【成果と課題】</p> <p>○教科担任制を行い、教員の専門性が活かされ、授業内容の充実につながった。5, 6年生と同じ教員が指導することで教科の系統性を持たせた指導や指導方法が統一され、有効的であった。</p> <p>(児)「授業で習ったことがよく分かる」90.1% (5.7%増)</p> <p>○TB端末を用いて、情報収集を行い、伝えたいことを焦点化してまとめることができる児童が増えた。</p> <p>○家庭学習、自主学習の習慣が身につけてきており、今後も家庭と連携を取りながら進める。</p> <p>(保)「家庭学習が身につけている」61.8% (11.1%増)</p> <p>○ICT機器活用は今後も必須であり、教職員全体で活用能力の向上に取り組んでいく必要がある。</p>	
重点目標2	豊かな心と健やかな体づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚、自尊感情を高める取り組みの推進 ・健康、安全意識、体力の向上 ・読書活動の充実 <p>【成果と課題】</p> <p>・発達段階や各学年の実態に応じた人権学習を行い、差別やいじめの早期発見、早期対応、未然防止に努めた。また、いじめ防止標語作り、いじめ防止授業、授業参観での道徳授業公開など全校で取り組み、いじめを許さない心の育成に努め、取り組みの様子を保護者に発信することができた。</p> <p>(保)「学校は差別やいじめに向かう態度や意識の向上への取り組んでいる」81% (2.0%増)</p> <p>・食育授業では、栄養と体づくりの関係を学び、保健指導では、怪我の防止、生活習慣の大切さを各学年に応じて学ぶことができた。</p> <p>(保)「学校は、子どもの健康、安全意識向上の取り組みに努めている」90.2% (7.1%増)</p> <p>・読書活動では、図書ボランティアの読み聞かせを数回実施したり、担任による読み聞かせだけでなく、専科教員、管理職も交代で読み聞かせをしたりするなど新たな取り組みを行うことができた。今後も児童が、本に親しむことができる機会を増やしていくことが大切である。</p> <p>・児童の自尊感情が依然として高いとは言えない。児童一人ひとりのがんばりを大人の目線で捉えるのではなく、しっかり認め、褒める事を大切にしていきたい。</p> <p>(児)「自分のことでいいと思うことがある」64.5% (3.6%減)</p>	
重点目標3	よりよくしていく力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スーパー橋北っ子」に基づくキャリア教育の推進 ・考えて行動できる特別活動の充実 (委員会・縦割り掃除・学級活動) <p>【成果と課題】</p> <p>・「スーパー橋北っ子」の取り組みについて、教職員が意識して取り組むことができた。あいさつ名人では、児童会を中心に定期的にあいさつ運動を行い、自然とあいさつできる児童が増えてきたとともに、「失礼します」、「ありがとうございます」「こんにちは」など場に応じたあいさつも習慣化されてきた。</p> <p>(児)「自分から進んであいさつをしています」93.0% (8.7%増)</p> <p>・今年度は新たに毎学期学校集会を行い、個々の児童の頑張りを発表したり、委員会・クラブ活動の活動報告を行った。また、高学年児童が運営、司会進行など主体的に行うことができた。</p>	

重点目標 4	学びを支える学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の子どもの育ちを意識した三校園の連携（学びの一体化） ・地域と協働した体験活動の充実 ・校内組織や専門家との連携による学びや育ちの支援 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの一体化を中心に、学習、生活面での系統的な学びの育成、環境づくりに努めた。高学年児童を対象に橋北中学校の学習発表会（ポラリス）を見学し、ICT機器の活用、探究的な学習の在り方について学ぶことができた。また6年生が、体育祭に参加し、中学校生活を体験することができ、中学校への関心・意欲を持つことができた。1年生は、橋北子ども園の年長さんを招待して、学校紹介をしたり、一緒に遊んだりして交流を深めることができた。 ・防災学習では、橋北地区防災連合協議会、消防団の方々に講師をしていただき、防災知識だけでなく、体験活動などから学びを深めることができ、防災意識をさらに高めることができた。 ・米作り体験では、地域の方から、田植え、稲刈り、脱穀、精米とお米ができるまでの工程を体験的に学ぶことができた。 <p>（児）防災学習など地域の方に教えてもらう学習は、とても勉強になる」（95.9%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学級たよりやホームページ、H&Sにおいて昨年度以上に学校の様子や情報を発信することができた。 （保）「学校は、参観・便り・ホームページで学校の様子や情報を発信している」 95.9%（4.4%増） 	

2 改善方針

<p>【確かな学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体でICT機器を用いた効果的な授業づくり研修をさらに進め、教職員のスキルアップ向上を行う。 ・授業において「めあてと振り返り」を定着させ、学んだことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことができる学び合う授業を進める。 ・「学年×10分」の学習習慣がより身につくようにさらに家庭学習の内容を工夫していく。 <p>【豊かな心と健やかな体づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動において、人と比較するのではなく、児童一人ひとりの中にあるよさや自分の持ち味に児童自身が気づくような言葉がけを行う。 ・体育指導や全校遊びを通して、仲間と共に体を動かす楽しさや心地よさを感じる環境づくりをさらに進める。 <p>【よりよくしていく力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スーパー橋北っ子」の5つの名人をさらに習慣化させるとともに、児童が主体的に取り組むことができる活動の工夫や場づくりを進める。 <p>【学びを支える学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三校園が連携し合い、魅力ある系統的な学びの育成を行う。 ・学習内容と関連させ、地域と共に学ぶ学習の発展を図る。 ・学校教育活動アンケートの結果や学校運営協議会での意見を活かし、次年度に反映させる。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】・「学び合い」と習熟度別少人数授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もがわかりやすい授業の実現 ・英語コミュニケーション力の向上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍児童の多い本校において、学習用語の獲得・理解に視覚支援・具体物操作を組み入れると共に、今年度は学んだことをより確かなものにするため、「表現の場の工夫」に重点を置いて取り組んだ。ペアやグループの学習も表現の場ととらえ、学び合いを深めるための手立てとして有効であった。 ・少人数授業を設定したことで、きめ細やかな指導をすることができた。 ・YEFとのTTを通して、児童が興味をもてる外国語活動を計画・実施できた。 ・鉄道のアナウンスや書籍の翻訳、YEFによる英語クイズや英語クラブを通して英語コミュニケーション力の向上に努めた。これらの活動を今後も系統的に継続していく。 	
重点目標2	豊かな心の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】・多文化共生教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の促進 ・地域を愛する児童の育成 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年が各教科、学活、総合的な学習の時間、道徳の中で、人権教育と関連させて多文化共生教育に取り組んだ。普段の学校生活の中で感じる「ちがい」について思いを伝え合うなど、本校の特色を生かした多文化共生教育をさらに進めていきたい。 ・各学年で総合的な学習の時間・生活科では、地域の方をゲストティーチャーとして招聘したり、地域へ出かけて調べ学習したりするなど、地域教材を活用した学習に取り組むことができた。 ・代表委員会を中心に、あいさつ運動や廊下歩行の呼びかけ、遊び集会など、創意工夫した活動を推進し、自主的な活動を進めることができた。 ・いじめ防止強化月間を中心に、授業等で各学級でいじめを許さない心を育てる授業に取り組んだ。 ・学校の掲示板を活用して、各国のあいさつクイズ、季節の行事の英語表現など多文化共生に関する掲示を定期的に発信し、理解を深めた。教室や廊下の掲示でも多言語で表記したあいさつや言葉を掲示する学年・学級があり、いろいろな国のルーツを持つ児童とつながりを持つきっかけとなった。 	
重点目標3	体力向上・健康増進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】・運動能力、体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の増進 ・学校危機管理体制の強化 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染対策をする必要がなくなり、触れたり、近づいたりなど、体育特有の身体を介した関わり合いを取り入れることができた。体育通信により、研修の還流や活動例、年間計画に準じた単元を伝えることで、学校全体で授業づくりに取り組むことができた。水泳指導では四日市スイミングスクールから外部講師を招き、着衣水泳を行い、専門的な知識を伝えることができた。 ・姿勢保持が苦手という児童の実態に基づき、保健委員会を中心に姿勢改善運動の紹介を行った。例年、生活リズムに関する指導についても継続的、習慣的に行う必要性を感じた。 ・避難訓練を全校で行うことができた。また、1・2学期は授業時間内に訓練をしていたが、3学期には日時を知らせず抜き打ちで行うようにした。また、教職員の安否確認についても取り入れるようにしたため、今後繰り返し行うことで、非常時でも迅速に対応できるように引き継ぎたい。 ・南警察と連携し、不審者対応訓練を行い、危機管理マニュアルの見直しをした。 	

重点目標 4	開かれた学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】・家庭、地域との連携 ・笹川子ども教室との連携 ・通信、学校HP、Home&Schoolを活用した積極的な情報発信 ・児童、保護者アンケートや学校評価を生かした学校経営</p> <p>【成果と課題】 ・学校HPの更新や通信の発信により、学校教育活動について理解を得ることができた。 ・児童・保護者アンケートや学校評価を実施し、保護者や地域協力者に集約結果を知らせることができた。その結果をもとに、今後の学校経営の方向性を示すことができた。 ・子ども教室の利用者が増えて、放課後の補習を受ける児童が増えた。反面、継続して通う児童の出席率が低くなっている。子ども教室と連携して家庭への啓発を促す。 ・下校時刻やPTA文書など、Home&School をを利用して情報発信することができた。</p>	

重点目標 5	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】・教科担任制や教職員の協働を推進 ・中学校区学びの一体化による保幼中との連携 ・学校の教育課題を踏まえた計画的な研修 ・勤務時間及び業務の効率化を進め、教職員の力を最大限に引き出せる取組を推進</p> <p>【成果と課題】 ・今年度から保幼中との交流も再開され、制限なく授業を見合うこともでき、子ども理解につながった。外国語科においては、中学校教員による乗り入れ授業も行っている。 ・授業公開週間を実施したり、OJTを活用したミニ研修をしたりするなど、教職員の資質向上を図ることができた。 ・SSSや業務アシスタントの活用により、事務的な仕事にかかる時間を縮小することができた。 ・教科担任制の実施により、学年内で情報共有しながら指導していくことができた。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導体制や学級集団づくり、多文化共生教育・キャリア教育の充実、学力向上に向けて、教職員が情報共有しながら一丸となって指導をしていく。 ・コロナ禍が明けて、様々な活動が再開できるようになってきたことで生活リズムや体力、体の使い方などの課題も見えてきた。それぞれの課題を克服できるような取り組みを行っていく。 ・子どもたちのICT教育は進んできているが、教職員や保護者など大人がICT機器に触れ、利用できるようにする。Home&Schoolを利用した情報発信を進める。 ・教職員が心身ともに健康で、子どもたちに対して、より充実した教育活動を行うことができるよう、学校運営を見直し、教職員の働き方改革を進める。教科担任制については、子どもの実態に合わせて導入し、より効果的な教育活動につなげていく。 ・避難訓練、引き渡し訓練など、より現実的な訓練となるような見直していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな心の育成 ～違いを認め合い、互いの気持ちを考えることができる子～	3
主な方策 成果と課題	<p>「豊かな心の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育・道徳教育の推進 ・ 特別な支援が必要な子への対応 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SCがWISCなどの発達検査を実施可能であり、専門的な知見からアドバイスをされることで、担任と相談・共有ができた。特別支援委員会にSCに参加してもらうことで、広角的な見方接し方について情報共有することができた。 ・ 図書委員や図書館ボランティアによる読み聞かせや読書週間の取り組みを活用して、図書室の利用を促すことができた。図書館司書によるブックトークや読み聞かせをすることで、子どもの読書への意欲が高まった。様々な取り組みから本への親しみをもつ児童が増えた。 ・ サポートルームや特別支援学級での支援について校内で共有し、個別の支援に関わる指導について情報共有することができた。 ・ 様々な学びの積み上げを、多方面にいかし、互いを認め合うことの大切さを実感できる活動を進めていく。 	
重点目標2	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	<p>「確かな学力の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わかる」「できる」を大切にした授業づくり ・ 情報活用能力の育成 ・ 高学年における一部教科担任制の実施 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のニーズや、子どもの実態に応じたミニ研修会を継続的に行ったことで、授業づくりや、学級づくりのヒントを得ることができた。 ・ 誰にとってもわかりやすい授業を作るために、ICT機器の活用を工夫することができた。 ・ 一人ひとりのニーズに合った配慮をするとともに、ペア学習やグループ学習をあらためて取り入れ、子どもたちがお互いに「わかった」「できた」という実感を伴った学びを構築するようになってきた。 ・ 全学級が授業公開をすることで、教員がお互いに学び合う機会となった。 ・ 中学校からの乗り入れ授業やHEFの活用で、外国語本来の学習に触れることができ、子どもの学習意欲の向上にもつながった。 ・ 高学年における教科担任制で、児童理解をしやすくなり教科学習としての効果が高まった。 ・ 一人一台端末の使い方について、学校としての方針をあらためて示すことが課題である。 	

重点目標 3	健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～	3
主な方策 成果と課題	<p>「健康な心と体の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣やルールの定着 ・ 健康・安全意識の定着 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態に合わせたアンケートを実施し、子どものニーズに応じたテーマで情報発信をしたり、委員会活動を展開したりすることができた。子どもたちにとっても、実感を伴った取り組みとなっている。 ・ 給食の配膳の仕方や食事のマナーについて、改めてミニ研修等を通じて職員間の資質の向上を図った。今後は学んだことをいかし、子どもたちの意識向上につなげていく必要がある。 ・ 不審者対応訓練や避難訓練などの防災教育を、昨今の状況に応じたテーマで実施することができた。今後も外部団体との連携を含めて、実感が伴う教育活動の位置づけを進めていくとともに、可能な限り体験を伴う訓練を教育活動に位置付けて実施していく。 ・ 運動会や縄跳びチャレンジ等、子ども同士のかかわりをいかす活動を行うことができたことにより、子ども同士がつながるきっかけが復活してきた。今後もこのような活動を大切に、子ども同士のつながりを大切にする中で、自分もまわりも大切に育てる子の育成に努めていく。 	

2 改善方針

- ・ 教育相談では、学期ごとのあったかタイム（教育相談）だけではなく、日常的に児童一人ひとりと話をする時間を大切に児童の小さな変化を見逃さないようにしていく。
- ・ 学校で決まっているルールを、その必要性を示し、考えさせながら守らせていく。
- ・ 引き続き自分から挨拶をすることについて各学級で児童に考えさせるとともに、代表委員会を軸として全校で取り組んでいく。
- ・ 教育アドバイザーや授業公開等を通じて、個々の授業力を高める。さらに、四日市モデルを意識した授業づくりに取り組み問題解決型の授業づくりを進める。
- ・ ホワイトボードの使い方を基本とした伝える力をベースとし、それを発表ノートや模造紙、端末に保存したりしてプレゼンをさせることで表現力の育成をしていく。
- ・ 特別支援の見方考え方をいかし、サポートルーム等の取り組みを通して、個別の支援が必要な児童への指導力をつける。
- ・ 児童の生活実態を把握し、子どもたちのニーズに応じた指導を行う。保護者にも生活リズムの必要性を通信等で伝え、学校保健委員会等を通じて情報発信していく必要がある。また、児童の実態に応じて、アンケート項目を精査する。
- ・ 不審者対応訓練や避難訓練などの防災教育を早期に実施する。今後は可能な限り、三校園での情報を密にし、合同訓練の実施も視野に入れていく。